

ヲ審判ヲ受ク可キヤノ決定ヲ得可キヲ其初告裁判所ニ派出ス可
シ

又二箇以上ノ治安裁判所ヲ管轄スル初告裁判所ノ異ナル時ハ控訴
院ニ全上ノ訴ヲ爲ス可シ

又二箇以上ノ治安裁判所ヲ管轄スル控訴院ノ異ナル時ハ覆審院ニ
全上ノ訴ヲ爲ス可シ

一箇ノ控訴院ノ管轄ヲ受ケタル二箇以上ノ初告裁判所ノ管轄相觸
ル、時ハ其二箇以上ノ初告裁判所中何レノ裁判所ニテ裁判ヲ受ク
可キヤノ決定ヲ得可キヲ其控訴院ニ訴出ス可シ

又二箇以上ノ初告裁判所ヲ管轄スル控訴院ノ異ナル時又ハ二箇以
上ノ控訴院ノ管轄相觸ル、時ハ覆審院ニ其訴ヲ爲ス可シ

第三百六十四條 控訴院ニテハ二箇以上ノ初告裁判所ニ訴ヘタル書

面ヲ見タル上本人ノ願書ニ因リ其審判ヲ爲ス可キ初告裁判所ヲ定
ムル訴ニ付キ相手方ヲ呼出ス可キヲ其控訴院ニ言渡書ヲ渡シ且初
告裁判所ニテ訴訟ヲ爲スヲ暫ク延ス可キ言渡書ヲ爲スヲ得可シ
第三百六十五條 此訴ニ付テノ原告人ハ控訴院ノ言渡書ヲ相手方代
書師ノ住所ニ送達シテ其相手方本人ヲ呼出ス可シ但シ此事ヲ爲ス
ノ期限ハ控訴院ノ言渡書ヨリ十五日内トス
相手方本人ノ控訴院ニ出席ス可キ期限ハ裁判所ニ出席ス可キニ付
テノ通常ノ期限ナリトス但シ其期限ハ雙方代書師ノ住所ノ距離ニ
從テ之ヲ算フ可シ

第三百六十六條 此訴ニ付テノ原告人前條ノ期限内ニ被告人ヲ呼出
カ、ル時ハ別ニ言渡ナシト雖モ其訴ノ効ヲ失ヒ此事ニ付テノ被告
人其訴出シタル初告裁判所ニテ主タル訴訟ヲ繼續シテ爲スヲ得

可シ

第三百六十七條 此訴ニ付テノ原告人負訴訟トナル時ハ相手方ニ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受クルコトアル可シ

○第二十章 裁判役一方ノ者ノ親族ナルニ付キ相手方ヨリ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サント遊フル事

第三百六十八條 初告裁判所ノ裁判役中ニ一方ノ者ノ再従兄弟ニ至ル迄ノ血屬又ハ姻屬ノ親二人アル時又ハ控訴院ノ裁判役中ニ同上ノ血屬又ハ姻屬ノ親三人アル時又ハ一方ノ者自カラ初告裁判所或ハ控訴院ノ裁判役ニシテ其初告裁判所ノ裁判役中ニ全上ノ親族一人アル時又ハ其控訴院ノ裁判役中ニ全上ノ親族二人アル時ハ相手方ヨリ訴訟ヲ他ノ裁判所ニ移スヲ願出ルコトヲ得可シ

第三百六十九條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願ハ是迄ノ裁判所ニテ辨

論ヲ始ムル前ニ之ヲ爲ス可シ又書面ニ因リ吟味ヲ爲ス時ハ其吟味ノ手續ノ終成スル前又ハ書類ヲ出シ且答書ヲ送ル可キ期限第三百四十三條見ノ終ル前ニ之ヲ爲ス可シ然ラサレハ裁判所ニテ其願ヲ爲スヲ許サス

第三百七十條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願ハ是迄ノ裁判所ノ書記局ニ願書ヲ出シテ之ヲ爲ス可シ但シ其願書ニハ其訴ヲ爲スノ憑據ヲ記シ本人又ハ公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人之ニ姓名ヲ手署ス可シ

第三百七十一條 其願書ヲ之ニ附加ス可キ証書類ト共ニ書記局ニ出シタル上ニテ裁判所ヨリ左件ヲ記シタル言渡書ヲ渡ス可シ

第一 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役ヲシテ定期内ニ全上ノ言渡書ノ副本ノ紙尾ニ其趣意ノ陳述ヲ記セシムル爲メ其裁判役ニ

其副本ヲ送達ス可キ事

第二 檢察官ニ其言渡書ノ副本ヲ送達ス可キ事

第三 其言渡書ヲ以テ別段任シタル裁判役一人定日ニ至リ裁判所ニ申立ヲ爲ス可キ事

第三百七十二條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願書ノ副本及ヒ之ニ附加ス可キ証書類並ニ前條ニ記シタル言渡書ノ副本ハ之ヲ相手方ニ送達ス可シ

第三百七十三條 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願ノ原由ヲ自認シ又ハ之ヲ自認セスト雖モ初告裁判所ヨリ其願ノ如ク允許シタル時ハ同シ控訴院ノ管轄ヲ受クル他ノ初告裁判所ニ其訴訟ヲ移シ又控訴院ニ付テハ最近ノ三箇ノ控訴院中ノ一ニ之ヲ移ス可シ

第三百七十四條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントスル願ヲ爲シ其願ノ如ク允許セラレサル者ハ五十フランノヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ相手方ノ爲メニ損失アル時ハ其損失ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

第三百七十五條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントスル願ヲ爲シ裁判所ヨリ其訴ノ如ク允許シ且相手方控訴ヲ爲サ、ル時又ハ控訴ヲ爲スト雖モ負訴訟トナリシ時ハ是迄ノ訴訟ヲ新タル裁判所ニ移シテ相手方ニ呼出狀ヲ送り以前ノ裁判所ニテ爲シタル手續ニ從ヒ其訴訟ヲ繼續ス可シ

第三百七十六條 何レノ場合ニ於テモ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス可キ言渡ヲ控訴シタル時ハ其言渡ノ執行ヲ暫ク止ム可シ

五六一
第三百七十七條 第三百九十二條 第三百九十三條 第三百九十四條 第

三百九十五條ノ規則ハ前條ニ記シタル控訴ノ場合ニ通シテ之ヲ用
フ可シ

○第二十一章 裁判役ニ付キ故障ヲ述フル事

第三百七十八條 左ノ原由アル時ハ裁判役ニ付キ故障ヲ述フルヲ得
得可シ

第一 裁判役雙方又ハ一方ノ再從兄弟ニ至ル迄ノ血屬又ハ姻屬
ノ親ナル時

第二 裁判役ノ婦一方ノ者ノ全上ノ親ナル時又ハ裁判役一方ノ
者ノ婦ノ全上ノ親ナル時但シ此二箇中何レノ場合ニ於テモ婦
ノ生存シタル時又ハ既ニ死去シタルト雖モ其子アル時ニ限ル
可シ○又婦死去シテ其子ナキ時ト雖モ本人ノ妻ノ父及ヒ妻ノ
兄弟並ニ本人ノ婿ハ訴訟ヲ裁判ス可カラズ

死去シタル婦ニ付テノ規則ハ離婚ヲ受ケタル婦ニ子アル時通
シテ之ヲ用フ可シ

第三 裁判役其婦及ヒ其夫婦ノ尊屬又ハ卑屬ノ血屬及ヒ姻屬ノ
親雙方本人ノ間ニ起リタルニ等シキ訴訟ヲ現ニ爲ス時

第四 此等ノ者一方本人ノ自カラ裁判役タル裁判所ニテ訴訟ヲ
爲ス時

同上ノ者一方本人ノ債主又ハ負債者ナル時

第五 當時ヨリ前五年内ニ此等ノ者ト一方本人又ハ其配偶者又
ハ其宗系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親トノ間ニ刑事ニ管シタル訴訟ヲ
リシ時

第六 裁判役其婦其宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親ト一方本人トノ間
ニ民事ニ管シタル訴訟アリテ其本人其原告ナルニ於テハ現ニ

爲ス所ノ訴訟ノ前ニ其訴訟ヲ爲シ初メタル時
又以前ノ訴訟既ニ終リタルト雖モ當時ヨリ前六月内ニ終リシ
時

第七 裁判役一方本人ノ後見人、後見人ノ監察者、管財人、遺物相續
人、贈遺ヲ受ケタル者、主長、常ニ同一ノ食机ニテ與ニ飲食ヲ爲ス
人ナル時

裁判役訴訟ヲ爲ス一方タル會社及ヒ建造物ノ支配人ナル時
一方ノ本人裁判役ノ遺物相續人ナル時

第八 裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ニ付キ一方本人ニ旁聴ヲ爲シ又
ハ書面ヲ與ヘタル時

裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ニ付キ當テ裁判ヲ爲シタルコアリシ
時 裁判役下等ノ裁判所ヨリ上等
時 裁判所ニ轉任シタル時ヲ云

裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ヲ挑唆シ又ハ其訴訟ノ費チ一方ノ者
ニ與ヘタル時

裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ノ証人トナリシ時

現ニ爲ス所ノ訴訟ノ始マリシ後裁判役一方本人ノ家ニテ飲食
シタル時又ハ一方本人ヨリ贈物ヲ得タル時

第九 裁判役ト一方本人トノ間ニ甚シキ嫌隙アル時

現ニ爲ス所ノ訴訟ノ始マリシ後又ハ當時ヨリ前六月内ニ裁判
役ノ方ヨリ口上又ハ書面ニテ一方本人ヲ讒毀罵詈シ又ハ脅迫
シタル時

第三百七十九條 裁判役一方本人ノ後見人ノ親族又ハ其管財人ノ親
族ナル時又ハ訴訟ヲ爲ス一方タル會社及ヒ建造物ノ社中ノ者或ハ
其支配人ノ親族ナル時ハ其裁判役ニ付キ故障ヲ述フ可カラス但シ

其後見人管財人支配人社中ノ者自カラ訴訟ニ管係アル時ハ格別ナ
リトス

第三百八十條 裁判役故障ノ申立ヲ受ク可キ原由アルコト自カラ知
ル時ハ裁判役會議ノ室ニテ其由ヲ述ヘ其室ニ會議シタル他ノ裁判
役等其裁判役訴訟ノ裁判ニ管ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

第三百八十一條 檢察官訴訟ニ管ス可キ時裁判役ニ付キ故障ヲ申述
フ可キニ等シキ原由アルニ於テハ其檢察官ニ付キ亦故障ヲ述フル
コトヲ得可シ但シ檢察官訴訟ノ主タル本人タル時ハ之ニ付キ故障ヲ
述フルコトヲ得ス

第三百八十二條 裁判役ニ付キ故障ヲ述ヘントスル者ハ吟味ノ席ニ
テ辨論ヲ始ムル前ニ其故障ヲ述フ可シ又書面ニ因リ吟味ヲ爲ス時
ハ其手續ヲ終成スル前又ハ書類ヲ出シ答書ヲ送ル期限ノ終ル前ニ

之ヲ爲ス可シ但シ故障ヲ述フル原由其後ニ生シタル時ハ格別ナリ
トス

第三百八十三條 土地ノ検査証人ノ吟味及ヒ其他ノ所爲ヲ任セラレ
シ掛リ裁判役ニ付キ故障ヲ述フルコトハ左ノ時ヨリ三日内ニ非レハ
之ヲ爲ス可カラス

第一 原告被告ノ面前ニテ同上ノ事ヲ爲ス可キ言渡ヲ爲シタル
時ハ其言渡ノ日ヨリ

第二 一方ノ者抗傳シテ同上ノ言渡ヲ受ク其言渡ニ付キ故障ヲ
述ヘサル時ハ之ヲ述フルコトヲ得可キ八日ノ期限ノ終ヨリ

第三 一方ノ者抗傳シテ同上ノ言渡ヲ受ク其言渡ニ付キ故障ヲ
述ヘタル時ハ裁判所ニテ其故障ノ申述ヲ許サ、ルコトヲ言渡シ
タル日ヨリ但シ其言渡ニ付キ故障ヲ述フル者再ヒ抗傳シタル

時モ亦同一ナリトス

二七一

第三百八十四條 裁判役ニ付キ故障ヲ述ヘントスルニハ其憑據ヲ記シタル書面ヲ書記局ニ出シ其書ニハ本人又ハ公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人其姓名ヲ手署ス可シ但シ其公正ノ證書ハ故障ヲ述フル書面ニ附加ス可シ

第三百八十五條 書記官ハ裁判役ニ付キ故障ヲ述フル書面ノ正本ヲ受取タルヨリ二十四時閉ニ其副本ヲ裁判所ノ上席人ニ渡シ上席人ノ申立ト檢察官ノ述フル所トニ因リ裁判所ヨリ其言渡ヲ爲ス可シ但シ故障ノ申立ヲ取上ケサル時ハ其申立ヲ許サ、ルコト言渡シ若シ其申立ヲ取上ル時ハ左件ヲ言渡ス可シ

第一 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役ヲシテ別段定メタル定期内ニ詳明ニ己レノ趣意ヲ辨セシムル爲メ其言渡書ヲ其裁判役ニ送

達スル事

第二 檢察官ニ其言渡ヲ送達スル事

其故障ノ申立ヲ取上ル言渡書ニハ別段任シタル掛リ裁判役ノ申立ヲ爲ス可キ期日ヲ附記ス可シ

第三百八十六條 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役ハ其故障ヲ述フル書面ノ正本ノ紙尾ニ己レノ趣意ノ陳述ヲ記シテ之ヲ書記局ニ出ス可シ

第三百八十七條 裁判役及ヒ檢察官ニ言渡書ヲ送達ス可キ言渡ノ日ヨリ後ハ總テ其他ノ言渡及ヒ土地ノ検査証人ノ吟味等ノ處置ヲ暫ク止ム可シ然レ一方本人ヨリ此等ノ處置ヲ急速ニ爲ス可ク之ヲ遅延スル時ハ損害アル可キコトヲ述フル時ハ其者其代書師ヲシテ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメテ之ヲ吟味ノ席ニ呼出シ裁判所ニ於テハ其時ノ景狀ニ從ヒ是迄ノ裁判役ニ非サル裁判役ヲシテ此等ノ

三七一

處置ヲ爲サシム可キヲ言渡スヲ得可シ

第三百八十八條 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役其申立ノ諸件ヲ承諾シ又ハ其裁判役之ヲ承諾セスト雖モ故障ノ申立ニ付テノ確證アル時ハ其裁判役土地ノ檢査証人ノ吟味等ヲ爲ス可カラサル言渡ヲ受ク可シ

第三百八十九條 裁判役ニ付キ故障ヲ述フル者其故障ヲ述フル憑據ノ証書并ニ其証ノ端緒トナル可キ書面ヲ出サ、ル時ハ裁判所ニテ裁判役ノ陳述ヲ調ヘタル上其故障ノ申立ヲ許サスト言渡シ又ハ証人ヲ以テ証ヲ立テシムルヲ言渡スヲ得可シ

第三百九十條 裁判役ニ付キ故障ヲ述フルト雖モ裁判所ニテ其申述ヲ取上ケヌ又ハ取上タル上ニテ之ヲ許サ、ル時ハ其申述ヲ爲シタル者百フランノ少カラサル罰金ヲ出シ且格別ノ道理アル時ハ

裁判役ニ損失ノ償ヲ拂フ可キ言渡ヲ受ク可シ但シ裁判役其損失ノ償ヲ得タル時ハ其訴訟ノ審判ニ管スルヲ得ス

第三百九十一條 裁判役ニ付テノ故障ノ申述ヲ允許セサル言渡ハ初告裁判所ニ於テ終審ノ裁判ヲ爲ス可キ事ニ管スル時ト雖モ之ヲ控訴スルヲ得可シ然レ其申述ヲ爲シタル者土地ノ檢査証人ノ吟味等ノ處置ヲ急速ニ爲スヲ必要ニシテ控訴院ノ裁判ヲ待タス此等ノ處置ヲ爲ス可キ旨ヲ述フル時ハ其者其代書師ヲシテ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメテ之ヲ吟味ノ席ニ呼出シ初告裁判所ニ於テハ其時ノ景狀ニ從ヒ是迄ノ裁判役ニ非カル裁判役ヲシテ此等ノ處置ヲ爲カシムルノ言渡ヲ爲スヲ得可シ

第三百九十二條 裁判役ニ付キ故障ノ申述ヲ爲シタル者初告裁判所ノ言渡ヲ控訴院ニ控訴セント欲スル時ハ其言渡ヨリ五日内ニ初告

裁判所ノ書記局ニ控訴ヲ爲ス書面ヲ出ス可シ但シ其書面ニハ憑據
タル証書類ヲ既ニ其書記局ニ納メタル旨ヲ附記ス可シ

第三百九十三條 初告裁判所ノ書記官ハ裁判役ニ付キ其裁判所ニ故
障ヲ申述タル書面ノ寫其裁判役己ノ趣意ヲ述タル書面ノ寫初告裁
判所ノ言渡書ノ寫控訴院ニ控訴ヲ爲ス書面ノ寫及ヒ初告裁判所ノ
書記局ニ出シタル証書類ヲ控訴人ノ求メニ從ヒ其費用ヲ以テ三日
内ニ控訴院ノ書記官ニ送達ス可シ

第三百九十四條 控訴院ノ書記官ハ此等ノ書類ヲ受取タルヨリ三日
内ニ其書類ヲ控訴院ニ示シ控訴院ニテ其裁判ヲ爲ス可キ期日ヲ定
メ裁判役中一人ヲ其掛リ裁判役ト爲シ其掛リ裁判役ノ申立ト檢察
官ノ述フル所トニ從ヒ吟味ノ席ニテ裁判言渡ヲ爲ス可シ但シ其言
渡ノ席ニハ雙方本人ヲ呼出ス可及ハス

第三百九十五條 控訴院ノ言渡ヲ爲シタルヨリ二十四時内ニ控訴院
ノ書記官ハ其嘗テ受取タル書類ヲ初告裁判所ノ書記官ニ送還ス可
シ

第三百九十六條 控訴人ハ初告裁判所ノ言渡ヨリ一月内ニ控訴院ノ
言渡書ヲ相手方ニ送達シ又控訴院ニテ未ダ其訴ヲ裁判セサル時ハ
其旨ト其裁判ヲ爲ス可キ期日トヲ記シタル控訴院ノ書記官ノ受合
書ヲ相手方ニ送達ス可シ然ラサレハ裁判役ニ付テノ故障ノ申立ヲ
訴サ、ル初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行フ可シ但シ其假ニ執行フマ
ル諸件ハ後ニ控訴院ニ於テ初告裁判所ノ言渡ヲ取消シタル時ト雖
モ猶其効アリトス

○第二十二章 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止スルニ因リ其訴訟
ノ手續ヲ取消ト爲ス事

第三百九十七條 總テ訴訟ノ手續ハ被告人其代書師ヲ任セサル時ト

雖モ原告人三年ノ時閉之ヲ停止シタルニ因リ之ヲ取消ス可シ

原告人訴訟ヲ再起シ又ハ更ニ新ナル代書師ヲ任スルヲ得可キ事ア

ル時ハ此三年ノ期限ニ六月ノ時間ヲ増ス可シ

第三百九十八條 官府公舎又ハ幼者ト雖モ前條ニ記シタル期限間其

訴ヲ停止スル時ハ其訴ノ手續ノ取消ヲ受ク可シ但シ此等ノ者ハ其

支配人及ヒ其後見人ニ對シ損害ノ償ヲ得可キ訴ヲ爲スヲ得可シ

第三百九十九條 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止スルニ因リ其訴訟ノ

手續ヲ取消スハ被告人ヨリ別段願出ルニ非レハ之ヲ爲ス可カラ

ス但シ被告人其願ヲ爲ス前ニ原告又ハ被告其訴訟ニ付キ法ニ適シ

タル證書ヲ記シタル時ハ其訴訟ノ手續ヲ取消ス可カラス

第四百條 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止シタルニ因リ其訴訟ノ手續

ヲ取消ス可キコト被告人ヨリ願出ツル時ハ被告人其願書ヲ己レノ代
書師ヨリ原告人ノ代書師ニ送達セシム可シ但シ原告人ノ代書師既
ニ死去シ又ハ定期ノ時間其職ヲ罷メラレ又ハ其職ヲ退ケラレシ時
ハ格別ナリトス

第四百一條 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止シタルト雖モ其訴訟ヲ爲

スノ權ヲ失フコトナク唯其訴訟ノ手續ヲ取消ス可シ但シ原告及ヒ被

告ハ取消トナリタル訴訟手續ノ書類ヲ以後ノ訴訟ニ付キ用フルコ

ト得ス

原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止シタルニ因リ其訴訟ノ手續取消トナ

リタル時ハ總テ其訴訟ノ費用ヲ拂フ可キ言渡ヲ受ク可シ

○第二十三章 原告人故シ其訴訟ヲ止ムル事

第四百二條 原告人故シ其訴訟ヲ止ムルコトハ本人又ハ名代人ノ姓名

手書シタル書面ヲ其代書師ヨリ被告人ノ代書師ニ送ルヲ以テ之ヲ爲ス可シ但シ被告人ノ之ヲ承諾スルヲモ亦同一ノ法式ニ循フ可シ

第四百三條 被告人原告人ノ訴訟ヲ止ムルヲ承諾シタル時ハ雙方共ニ總テノ諸事ヲ其訴訟ヲ爲ス前ト同一ノ景狀ニ復シタルヲ承諾シタルト爲ス可シ

又此場合ニ於テハ原告人總テ訴訟ノ費用ヲ拂フ可キノ約ヲ爲シタルト爲ス可シ若シ原告人其拂方ヲ肯セサル時ハ被告人ノ代書師ヨリ原告人ノ代書師ニ招書ヲ送り原告人ヲシテ裁判所ニ出席セシメタル上又ハ之ヲ呼出シ猶出席セサル上ニテ裁判所ノ上席人其費用ノ高キ書面ニ記シ其紙尾ニ原告人之ヲ拂フ可キ言渡ヲ附記ス可シ初告裁判所ノ上席人此言渡ヲ爲シタル時ハ原告人其言渡ニ付キ故

障ヲ述ヘ又ハ控訴院ニ控訴スルニ管セス之ヲ執行フ可シ又控訴院ノ上席人其言渡ヲ爲シタル時ハ原告人其言渡ニ付キ故障ヲ述フルニ管セス之ヲ執行フ可シ

〇第二十四章 急速吟味ノ法式

第四百四條 左ノ諸件ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ訴訟ノ手續ヲ爲シ之ヲ審判ス可シ

第一 治安裁判所ヨリ初告裁判所ヘノ控訴

第二 一方ニテ相手方ノ争ハサル証書ヲ有スル時ハ金高ノ幾許ナルヲ問ハズ人權ノミニ付テノ訴訟

第三 證書ナシト雖モ千フランクニ過キサル事ニ付テノ訴訟上
人權ノミニ付テノ訴訟

第四 假ノ訴訟及ヒ速ナルヲ要スル訴訟

第五 家屋及ヒ土地ノ賃賃又ハ年金ノ拂方ニ付テノ訴訟

第四百五條 急速吟味ノ法式ヲ用フ可キ諸件ハ呼出ノ定期ノ終リシ

後一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ルノミニテ其他訴

訟ノ手續及ヒ法式ナク吟味ノ席ニテ直ニ裁判ス可シ

第四百六條 附帶ノ訴訟及ヒ他人ノ訴ニ干渉スル訴訟ハ其代書師ヨ

リ願書ヲ出シテ之ヲ爲ス可シ但シ其願書ニハ其願ノ旨及ヒ其願ノ

趣意ノミヲ記ス可シ

第四百七條 証人ヲ吟味ス可キ時ハ證ヲ立ツ可キ諸件ヲ預メ箇條書

ニ記スルニ及ハス唯其吟味ヲ爲ス可キ言渡書ニ其事柄ヲ附記シ且

証人ヲ吟味ス可キ日刻ヲ附記ス可シ

第四百八條 証人吟味ヨリ少クトモ一日前ニ其証人ニ呼出狀ヲ送ル

可シ

第四百九條 一方本人ヨリ証人吟味ノ猶豫ヲ得ント訴フル時ハ其訴

ヲ直ニ裁判ス可シ

第四百十條 初告裁判所ノ言渡ヲ控訴院ニ控訴ス可カラサル時ハ證

人吟味ノ調書ヲ別段記スルニ及ハス唯言渡書ニ証人ノ姓名ト其述

ヘタル證ノ大旨トヲ記ス可シ

第四百十一條 初告裁判所ノ言渡ヲ控訴院ニ控訴スルヲ得可キ時ハ

証人ノ誓詞本人ノ血屬姻屬ノ親及ヒ婢僕從者タルノ申述并ニ一方

本人其証人ニ付キ故障ヲ述ヘタル時ハ其申述及ヒ其証人ノ述ヘタ

ル證ノ大旨ヲ記シタル調書ヲ作ル可シ

第四百十二條 証人隔遠ノ地ニ在ル時又ハ裁判所ニ出ル差支アル時

ハ此初告裁判所ヨリ其証人所在ノ地ノ初告裁判所又ハ治安裁判所

ニ証人吟味ノ事ヲ委ヌルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ証人吟味

ノ諸件ヲ書面ニ記シ且其調書ヲ記ス可シ

第四百十三條 急速ノ証人吟味ヲ爲ス時左ノ法式ヲ爲スニ付テハ此

卷ノ第十二章ノ規則ニ循フ可シ

証人ヲ呼出スノ言渡ヲ爲ス趣意書ノ寫ヲ其証人ニ送ル事

証人ノ姓名書ヲ相手方ニ送ル事

呼出ヲ受ケテ出席セサル証人ニ罰金及其他ノ刑ヲ言渡ス事

雙方本人ノ配偶者及ヒ其宗系ノ血屬姻屬ノ親ヲ証人ト爲スヲ許

サ、ル事

相手方ヨリ一方ノ証人ニ付キ故障ヲ述フル事其故障ノ申述ヲ裁

判スル方法証人ヘノ問糺証人ノ得可キ謝金

呼出ヲ受ケタルニ付キ謝金ヲ得可キ証人ノ員數

滿十五歳以下ノ者ノ述フル所ノ証ヲ聽キ得可キ事

○第二十五章 商法裁判所ノ訴訟

第四百十四條 商法裁判所ノ訴訟ハ代書師ナクシテ之ヲ爲ス可シ

第四百十五條 商法裁判所ノ訴訟ハ此卷ノ第二章ニ記シタル法式ニ

循ヒ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲シ始ム可シ

第四百十六條 呼出狀ヲ受ケテヨリ裁判所ニ出ツル迄ノ時間ハ少ナ

クトモ一日トス

第四百十七條 急速ニ裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ商法裁判所ノ上

席人呼出狀ヲ送リタル翌日又ハ之ヲ送リタル日内ニ被告人ヲ裁判

所ニ出席セシメ及ヒ其動産ヲ抵償トシテ差押ヘシムルノ免許ヲ原

告人ニ與フルヲ得可シ又其上席人ハ其時ノ模様ニ因リ原告人ヲ

シテ其差押ヘタル被告人ノ動産ヲ還ス可キ保證人ヲ立テシメ又ハ

其被告人ノ動産ヲ自カラ還シ得可キノ證ヲ立テシムルコトヲ得可シ

○其上席人ノ言渡ハ故障ヲ述ヘ又ハ控訴院ニ控訴スルニ管セズ之ヲ執行ヲ可シ

第四百十八條 海上貿易ニ管シタル訴訟ニ付キ住所ナキ者アル時又ハ出帆セントスル船ノ機装ニ必要ナル器具、食料、修理ニ管スル事ニ付キ其訴訟ヲ爲ス時及ヒ其他至急ニシテ假ニ爲ス可キ事ニ付キ訴訟ヲ爲ス時ハ其裁判所ノ上席人ノ言渡ナクシテ原告人ヨリ被告人ニ呼出狀ヲ送り其翌日之ヲ裁判所ニ出席セシメ又ハ其日内ニ出席セシメ若シ被告人出席セサル時ハ裁判所ニテ之ヲ抗傳者ナリトシテ即時ニ其訴訟ヲ裁判スルヲ得可シ

第四百十九條 被告人ニ宛テ其在ル所ノ船中ニ送りタル呼出狀ハ法ニ適シタルモノトス

第四百二十條 原告人ハ被告人ノ住所ノ裁判所又ハ契約ヲ爲シ商品

ヲ引渡シタル地ノ裁判所又ハ拂方ヲ爲ス可キ地ノ裁判所ニ被告人ヲ呼出スル自由ナリトス

第四百二十一條 雙方本人ハ自カラ出席シ又ハ別段ノ證書ヲ以テ任シタル名代人ヲ出ス可シ

第四百二十二條 雙方ノ本人出席ヲ爲シ初メノ吟味ノ日ニ確定ノ裁判言渡アラサル時ハ裁判所ノ管轄地内ニ住所ナキ者其地内ニ別段住所ヲ擇ム可シ

一方ノ者其住所ヲ擇ミタルトハ之ヲ吟味ノ調書ニ記ス可シ又其住所ヲ擇マサル時ハ相手方ヨリ其一方ノ者ニ送達ス可キ書類ヲ裁判所ノ書記局ニ出シ置クヲ得可シ但シ確定ノ裁判言渡書ト雖モ亦同一ナリトス

第四百二十三條 原告人タル外國人商業ノ訴訟ニ付テハ負訴訟トナ

ル時出ス可キ訴訟ノ費用及ヒ被告人ニ拂フ可キ損失償ノ保証ヲ立ツルニ及ハス但シ商法裁判所ノアテサル地ニ於テ民法裁判所ニ商業ニ付テノ訴訟ヲ爲シタル時モ亦同一ナリトス

第四百二十四條 訴訟ノ事柄ニ付キ商法裁判所ノ管轄ヲ受ク可カラサル時ハ一方ノ者ヨリ他ノ裁判所ニ訴出ツ可キヲ別ニ願フコトナシト雖モ商法裁判所ニテ他ノ裁判所ニ訴フ可キヲ言渡ス可シ
其他ノ理由ニ付キ商法裁判所ノ裁判ヲ受ケサル申立ハ總テ辨論ヲ始ムル前ニ之ヲ爲ス可シ

第四百二十五條 商法裁判所ニ於テハ其裁判ヲ受ケサル申立ヲ却還スル言渡書ヲ以テ其本案ノ裁判ヲモ亦言渡スコトヲ得可シ然レ其言渡書ヲ二箇條ニ分テ其一ハ裁判所ノ管轄ノ事ニ付テノ言渡書ヲ記シ又一ハ本案ニ付テノ言渡書ヲ記ス可シ

如何ナル場合ニ限ラヌ商法裁判所ノ言渡書ノ中其管轄ノ權ヲ記シタル箇條ハ控訴院ニ控訴スルコトヲ得可シ

第四百二十六條 商法裁判所ニテ裁判ヲ受ク可キ者ノ寡婦及ヒ遺物相續人ハ訴訟ノ再起ニ因リ又ハ新クナル訴訟ニ因リ商法裁判所ニ呼出サル可シ但シ其寡婦及ヒ遺物相續人タルノ身分ニ付キ争アル時ハ民法裁判所ニテ之ヲ裁判シ其身分ノ分明トナリタル上ニテ其訴訟ノ本案ヲ商法裁判所ニテ裁判ス可シ

第四百二十七條 一方ノ者商法裁判所ニ出シタル證書ヲ相手方ニテ認メスト述ヘ又ハ贋造ナル旨ヲ述ヘタル時一方ノ者猶其證書ヲ用ヒントスルニ於テハ其裁判所ヨリ其證書ニ付テノ争ノ裁判ヲ受ク可キ爲メ民法裁判所ニ出ツ可キコトヲ言渡シ本案ノ裁判ヲ暫ク延ス可シ

然其爭アル證書訴訟ノ箇條中一箇ノミニ管シタル時ハ商法裁判所ニテ其他ノ箇條ノ裁判ニ取掛ルヲ得可シ

第四百二十八條 商法裁判所ニテ一方ノ者ノ願ニ因リ又ハ裁判所ノ職務ヲ以テ公ケノ吟味ノ席又ハ裁判役會議ノ室ニテ相手方本人ヲ親シク吟味ス可キ言渡ヲ爲スヲ得可シ若シ本人ニ相當ノ差支アル時ハ其吟味ヲ爲ス爲メ其裁判所ノ裁判役一人又ハ治安裁判役ヲ別段其掛リトシテ任スルヲ得可シ但シ此等ノ掛リ裁判役ハ本人ノ述フル所ヲ調書ニ記ス可シ

第四百二十九條 算計書證書簿冊ノ檢視ヲ爲スクメ判断人必用ナル時ハ雙方本人ノ述フル所ヲ聽キ力メテ之ヲ和解ヒシム可キ判断人一員又ハ三員ヲ任ス可シ但シ其判断人雙方本人ヲ和解ヒシムルヲ得サル時ハ己レノ説ヲ裁判所ニ述フ可シ

造營又ハ商品ヲ検査シ又ハ評價ス可キ時ハ鑒定人一員又ハ三員ヲ任ス可シ

雙方本人吟味ノ席ニテ判断人及ヒ鑒定人ヲ任スルヲ協議セザル時ハ裁判所ヨリ之ヲ任ス可シ

第四百三十條 判断人及ヒ鑒定人ニ付キ故障ヲ述フルハ其者ヲ任シタルヨリ三日内ニ之ヲ爲ス可シ

第四百三十一條 判断人及ヒ鑒定人ノ申立書ハ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

第四百三十二條 裁判所ヨリ證人ヲ以テ證ヲ立テシム可キヲ言渡ス時ハ證人急速吟味ノ事ニ付キ前ニ記シタル規則ニ循フ可シ但シ控訴院ニ控訴スルヲ得可キ訴訟ニ付テハ書記官證人ノ述フル所ヲ書面ニ記シ證人之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ証人其手署ヲ欲セサ

ル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第四百三十三條 商法裁判所ノ言渡書ヲ記スル法式ニ付テハ第四百
十一條及ヒ第四百四十六條ノ規則ニ循フ可シ

第四百三十四條 原告人出席セザル時ハ裁判所ヨリ原告人抗傳者
ルヲ言渡シ被告人ニ其訴訟ヲ免ルス可シ

被告人出席セサル時ハ裁判所ヨリ被告人抗傳者タルヲ言渡シ原
告人ノ求ムル所正シクシテ確証アリト思量スル時ハ其求メノ如ク
允許ス可シ

第四百三十五條 被告人抗傳シタル時ノ裁判言渡書ハ裁判所ヨリ別
段任シタル使吏之ヲ被告人ニ送達ス可シ但シ其言渡書ニハ原告人
其裁判所所在ノ地ノ邑内ニ住所ナキニ於テハ其地内ニ住所ヲ擇ミ
タル旨ヲ附記ス可シ若シ之ヲ擇ミタルヲ記セサル時ハ其言渡書

ノ効ナカル可シ

其言渡書ヲ送達シタルヨリ一日ノ後ニ其言渡ノ如ク執行フヲ始
ム可シ但シ相手方其言渡ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其執行ヲ止ム可
シ

第四百三十六條 一方ノ者言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ八日ノ後ニ

至リテハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ許サス

第四百三十七條 被告人裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル書ニハ其故障

ヲ述フル憑據ヲ記シ法律ニテ定メタル期限内ニ原告人ヲ呼出ス

ヲ附記ス可シ但シ被告人裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル書ハ原告人

ノ別段撰ミタル住所ニ送達ス可シ

三九一 第四百三十八條 裁判所ノ言渡ヲ執行フ時ニ當リ被告人其言渡ニ付
キ故障ヲ述フル時ハ其申述ヲ使吏ノ調書ニ記スルヲ因リ其執行

ヲ止ム可シ但シ其故障ヲ述フル者ハ三日内ニ原告人ニ呼出狀ヲ送
リ更ニ其故障ヲ述フ可シ但シ其期限ヲ過コス時ハ被告人ノ故障申
述ノ効ナカル可シ

第四百三十九條 一方ノ者相手方ノ争ハサル證書ヲ有スル時又ハ以

前既ニ裁判言渡アリテ相手方之ヲ控訴ス可カラサル時ハ商法裁判
所ニテ現ニ爲ス所ノ裁判ヲ控訴スルニ管セズ保証人ヲ立テシムル
ヲナクシテ假ニ其言渡ノ如ク執行フコトヲ得可シ其他ノ場合ニ於テ
ハ一方ノ者ヲシテ保証人ヲ立テシメ又ハ自カラ十分ナル資本アル
ノ証ヲ立テシメスシテ假ニ其言渡ノ如ク執行フコトヲ得ス

第四百四十條 一方ノ者ハ控訴ヲ爲シタル相手方裁判所所在ノ地ニ

住スルニ於テハ其相手方ノ住所ニ書面ヲ以テ保証人ヲ立テタルコ
ト告知シ若シ然ラザレハ第四百二十二條ニ循ヒ其相手方ノ擇ミク

ル住所ニ書面ヲ以テ告知シ且相手方ニ定マリシ日刻ニ書記局ニ至
リテ保証人ノ證書類ヲ他所ニ携ヘ行クコトナク其場所ニテ檢視ス可
キ旨ヲ要ム可シ若シ相手方其保証人ニ付キ故障ヲ述フル時ハ一方
ノ者其相手方ニ其争ヲ裁判スル席ニ出ツ可キコトヲ要ム可シ

第四百四十一條 控訴ヲ爲シタル相手方前條ニ記シタル日刻ニ書記

局ニ出サル時又ハ保証人ニ付キ故障ヲ述ハサル時ハ保証人書記局
ニ其保證ヲ爲ス可キ旨ヲ證ス可シ若シ相手方其保証人ニ付キ故障
ヲ述フル時ハ曾テ一方ヨリ相手方ニ送リタル書ニ記シタル日ニ其
裁判ヲ爲ス可シ但シ何レノ場合ニ於テモ其裁判言渡ニ付キ故障ヲ
述フルコト又ハ控訴ヲ爲スコトニ管セズ其言渡ヲ執行フ可シ

第四百四十二條 商法裁判所ハ其裁判言渡ノ執行ニ管シタル事ヲ管

轄セズ

○第三卷 控訴院(千八百六十六年四月十七日決定同月廿七日布告)

○第一章 控訴及ヒ其手續

第四百四十三條 (千八百六十二年五月三日左ノ如ク改ム)控訴ヲ爲ス可キ期限ハ二月内ナリトス但シ其期限ハ原告被告雙方共ニ初告裁判所ニ出席シテ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡書ヲ一方本人又ハ其住所ニ送達シタル日ヨリ之ヲ數フ可シ
一方ノ者抗傳シテ初告裁判所ノ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルトナリ得サルニ至リシ日ヨリ之ヲ數フ可シ
然レ控訴ノ被告人管テ初告裁判所ヨリ得タル言渡書ヲ控訴ノ原告人ニ送達シ其被告人後ニ控訴ヲ爲ス可キ旨ヲ別段其言渡書ニ附記

セサルト雖モ二月ノ後ニ至リ其原告人ノ主タル控訴ヲ爲ス間何時ニ限ラヌ其被告人附帶ノ控訴ヲ爲スヲ得可シ

第四百四十四條 前條ニ記シタル二月ノ期限ヲ過キサル時ハ控訴ヲ爲スヲ得ヌ又如何ナル者邑公舍會社幼者治産ノ禁ト雖モ其期限ノ後ニ至テハ控訴ヲ爲スノ權ヲ失ヒ唯己ノ支配人及ヒ後見人ニ對シテ償ヲ得ントスル訴ヲ爲スヲ得可シ但シ幼者ニ付テハ其後見人ノ監察者初告裁判所ノ訴訟ニ自カラ管セザリシ時ト雖モ其裁判所ノ言渡書ヲ監察者ト後見人トニ送達シタル日ヨリ其期限ヲ數フ可シ

第四百四十五條 (千八百六十二年五月三日左ノ如ク改ム)佛蘭西本國外ニ住スル者ハ控訴ヲ爲スニ付キ初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ二月ノ期限ノ上更ニ第七十三條ニ記シタル被告人呼出ノ

猶豫ノ期限ヲ得可シ

第四百四十六條 (千八百六十二年五月三日左ノ如ク改ム) 公務ノ任ヲ

受ケタルニ因リ佛蘭西ノ本國外又ハアルゼリールノ地外ニ在ル者ハ

控訴ヲ爲スニ付キ初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ二月ノ

期限ノ上更ニ八月ノ猶豫ノ期限ヲ得可シ又航海ノ爲メ外國ニ在ル

海客ニ付テモ同上ノ猶豫ノ期限アリトス

第四百四十七條 控訴ヲ爲ス可キ期限ノ經過ハ初告裁判所ニテ負訴

訟トナリシ者ノ死去シタル日ヨリ之ヲ止ム可シ

其期限ハ第六十一條ニ記シタル法式ヲ以テ死者ノ住所ニ初告裁判

所ノ言渡書ヲ更ニ送達シタル時ヨリ再ヒ之ヲ算ヘ始ム可シ但シ死

者ノ遺物相續人目錄ヲ記シ熟考ヲ爲ス可キ期限ノ終ラサル前ニ更

ニ其言渡書ヲ送達シタル時ハ其期限ノ終ル時ヨリ再ヒ控訴ノ期限

ヲ算ヘ始ム可シ

初告裁判所ノ言渡書ヲ死者ノ住所ニ更ニ送達スルニハ遺物相續人

ノ各自ノ姓名及ヒ身分ヲ記スルヲナリ其連名宛ヲ以テ之ヲ爲ス

ヲ得可シ

第四百四十八條 初告裁判所ニテ贋造ノ證書ニ據リ裁判言渡ヲ爲シ

タル時又ハ一方ノ者其相手方ノ爲メ己ノ證書ヲ陰藏セラレ之ヲ

差出スルヲ得サルニ因リ初告裁判所ニテ負訴訟トナリシ時ハ後ニ

其相手方其證書ノ贋造ナルヲ自認シタル時又ハ裁判所ニテ其贋

造ナルヲ證シタル時又ハ相手方ノ陰藏シタル證書ヲ取返シタル

時ヨリ控訴ノ期限ヲ算フ可シ但シ相手方ノ陰藏シタル證書ヲ取返

シタル時ハ之ヲ取返セシ日ヲ證明スルヲ得可キ證書アルヲ必要

トス

第四百四十九條 假ニ執行ヲ可キモノニ非サル初告裁判所ノ言渡ノ

控訴ハ其言渡ノ日ヨリ八日內ニ之ヲ爲ス可カラス若シ其期限內ニ
爲シタル控訴ハ控訴院ニテ之ヲ取上ケサル可シ但シ猶控訴ヲ爲サ
ント欲スル者ハ之ヲ爲シ得キ期限內ニ更ニ控訴ヲ爲スヲ得可
シ

第四百五十條 假ニ執行ヲ可キモノニ非サル初告裁判所ノ言渡ハ前

條ニ記スル八日ノ期限閉其執行ヲ延ハス可シ

第四百五十一條 訴訟ノ本案ニ管セサル預審ノ裁判言渡ノ控訴ハ確
定ノ言渡ノ後其確定ノ言渡ノ控訴ト共ニ之ヲ爲ス可ク且其控訴ノ
期限ハ確定ノ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ之ヲ數フ可シ但シ
其預審ノ言渡ノ執行ヲ受タル時後ニ控訴ヲ爲スヲアル可キ旨ヲ斷
リ置カスト雖モ控訴院ニテ其控訴ヲ取上ク可シ

本案ニ管ス可キ預審ノ言渡ノ控訴ハ確定ノ言渡ノ前ニ之ヲ爲ス
ヲ得可シ又假ニ執行ヲ可キ言渡ニ付テモ確定ノ言渡ノ前ニ其控訴
ヲ爲スヲ得可シ

第四百五十二條 控訴ヲ吟味シテ確定ノ裁判ヲ爲スヲ得可キニ至テ

シムル手續ニ付テノ言渡ヲ本案ニ管セサル豫審ノ言渡トス
裁判所ニテ確定ノ裁判言渡ヲ爲ス前證書ヲ以テ證ヲ立ツル事書類
ノ驗眞ヲ爲ス事又ハ其他本案ニ管スル吟味ノ手續ニ付キ爲シタル
言渡ヲ本案ニ管スル預審ノ言渡トス

第四百五十三條 始審ノ裁判言渡ヲ爲ス可キ訴訟ニ付キ初告裁判所

ニテ爲シタル裁判言渡ハ終審ノ言渡ナリト記シタル時ト雖モ之ヲ
控訴スルヲ得可シ

終審ノ裁判言渡ヲ爲ス可キ訴訟ニ付キ初告裁判所ニテ爲シタル裁

判言渡ハ終審ノ言渡ナリト記スルヲナシ又ハ始審ノ言渡ナリト記
シタル時ト雖モ其言渡ヲ控訴スルヲ得ス

第四百五十四條 初告裁判所ノ管轄ヲ受ケサルコトニ管シタル訴ニ付
テハ其裁判所ニテ終審ノ裁判言渡ヲ爲ス時ト雖モ其言渡ヲ控訴ス
ルヲ得可シ

第四百五十五條 初告裁判所コテ一方ノ者抗傳シテ裁判言渡ヲ受ケ
タル時ハ其者初告裁判所ニ其言渡ニ付テノ故障ヲ述フルヲ得可キ
時間控訴院ニ控訴ヲ爲スヲ許サス

第四百五十六條 控訴書ニハ法律ニテ定メタル定期内ニ相手方ヲ控
訴院ニ呼出ス旨ヲ記シ之ヲ其相手方本人又ハ其住所ニ送達ス可シ
若シ此法式ヲ行ハサル時ハ其書ノ効ナカル可シ

第四百五十七條 確定ノ裁判又ハ本案ニ管スル預審ノ裁判言渡ノ控

訴ヲ爲ス時ハ其裁判言渡ノ執行ヲ止ム可シ但シ別段法律上ニ定メ
タル場合ニ於テ假コ其言渡ノ如ク執行ヲ可キコトヲ定メタル時ハ格
別ナリトス

初告裁判所コテ終審ノ裁判言渡ヲ爲ス可カラサル事件ニ付キ誤テ
終審ノモノナリト記シタル言渡書ノ執行ヲ止ムル爲メニハ控訴ヲ
爲ス者相手方ヲ定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控訴院ニ呼出シ其吟味ノ
席ニテ其執行ヲ止ム可キノ言渡ヲ受ク可シ

初告裁判所コテ終審ノ言渡ヲ爲スコトヲ得可キ場合ニ於テ其言渡ヲ
終審ノモノナリト記セス又ハ始審ノモノナリト記シタル時ハ控訴
ノ被告人其代書師ヲシテ控訴ノ原告人ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ
之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出シテ其初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行
ヲ可キノ言渡ヲ受クルヲ得可シ

四〇二

第四百五十八條 若シ初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行フ可キ場合ニ於テ之ヲ言渡サ、ル時ハ控訴ノ被告人其代書師ヲシテ原告人ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ其原告人ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出シ控訴ノ裁判言渡ノ前ニ初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行フ可キノ言渡ヲ受クルヲ得可シ

第四百五十九條 別段法律上ニ定メタル場合第三百三十五ニ非スシテ初告裁判所ヨリ其言渡ヲ假ニ執行フ可キヲ言渡シタル時ハ控訴

ノ原告人定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控訴ノ被告人ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出シ其執行ヲ止ム可キノ言渡ヲ受クルヲ得可シ但シ其原告人定期ヨリ更ニ短キ時間ニ其被告人ヲ呼出ス可キ願書ヲ控訴院ノ上席人ニ出シタルノミニシテ其書面ヲ被告人ニ送ルヲナシ其上席人ヨリ初告裁判所ノ言渡ノ執行ヲ止メシム可カラズ

第四百六十條 前數條ニ記シタル場合ノ外ハ控訴院ヨリ初告裁判所ノ言渡ノ執行ヲ禁シ又ハ如何ナル方法ヲ問ハズ之ヲ止ム可キノ言渡ヲ爲ス可カラズ若シ此規則ニ背キ控訴院ニテ爲シタル言渡ハ其効ナカル可シ

第四百六十一條 初告裁判所ニテ書面ニ因リ吟味ヲ爲シタル訴訟ノ裁判言渡ト雖モ之ヲ控訴スル時ハ書面ヲ用ヒス直チニ控訴院ノ吟味ノ席ニ其控訴ヲ爲ス可シ但シ控訴院ニテ格別ノ道理アリト思量スル時ハ再ヒ書面ニ因テ之ヲ吟味ス可キヲ言渡ス可シ

第四百六十二條 控訴ノ被告人代書師ヲ任シタルヨリ八日內ニ控訴ノ原告人ハ初告裁判所ノ言渡ニ承服セサル憑據ヲ書面ニ記シテ被告人ニ送達シ其被告人ハ其後八日內ニ答辨書ヲ送ル可シ但シ其他ノ手續ナシ原告人ヨリ被告人ニ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ

五〇二

第四百六十三條 急速吟味ノ法式ヲ以テ爲シタル裁判言渡ノ控訴ハ
一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ルノミニテ其他ノ手
續ナリ之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ上告ス可シ又控訴ノ被告人定期内
ニ其代書師ヲ任セサル時ハ通常ノ法式ヲ以テ爲シタル裁判言渡ノ
控訴ニ付テモ亦同一ナリトス

第四百六十四條 控訴ノ時ハ嘗テ初告裁判所ニ述ヘタルヨリ更ニ新
タナル訴ヲ爲ス可カラス但シ義務ヲ互ニ消殺スルニ付キ新タナル
訴ヲ爲シ又ハ主ナル訴訟ノ助トシテ新タナル訴ヲ爲スコトハ之ヲ許
ス又一方ノ者ハ初告裁判所ノ言渡ノ後相手方ヨリ得可キ息銀半金
ノ高家屋ノ賃賃及其他ノ附加シタル諸件ヲ得ント欲スルコトヲ控訴
院ニ訴ヘ又ハ初告裁判所ノ言渡ノ後損害ヲ受ケタルニ付キ其償ヲ
相手方ヨリ得ント欲スルコトヲ控訴院ニ訴フルコトヲ得可シ

第四百六十五條 前條ニ記シタル場合ニ於テ一方ノ者控訴院ニ新タ
ナル訴訟ヲ爲サントスルニハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ新タ
ナル訴訟ヲ爲スノ道理ヲ記シタル趣意書ヲ送達セシメテ之ヲ爲ス
可シ

又一方ノ者以前初告裁判所ニ差出シタル趣意書ノ條件ヲ更改セシ
ト欲スル時モ亦其更改ヲ爲スノ道理ヲ記シタル趣意書ヲ相手方ニ
送達ス可シ

初告裁判所又ハ控訴院ニ嘗テ出シタル憑據書及ヒ答辨書ト同一ナ
ル書面ヲ更ニ控訴院ニ出シタル時ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可
カラス

既ニ一度出シタル書面ニ記セシ憑據及ヒ答辨ト新タニ述フル憑據
及ヒ答辨ト相混シテ記シタル書面ヲ控訴院ニ出シタル時ハ其書

面中ニテ新クニ述フル憑據及ヒ答辨ヲ記シタル部分ノミノ費用ヲ
裁判費用中ニ加フ可シ

第四百六十六條 原告被告ノ受ケタル裁判言渡ヲ取消サント訴フル
ノ權アル者ニ非レハ原告被告ニ非サル者控訴ニ關涉スルコトヲ許サ
ズ

第四百六十七條 控訴院ノ裁判役數員ニ三箇以上ノ説アル時ハ最モ
寡數ノ裁判役他ノ二箇ノ説中ノ一箇ニ從フ可シ

第四百六十八條 控訴院ニテ一箇ノ説ヲ非トスル者ノ數ト可トスル
者ノ數ト均シキ時ハ其説ヲ決ス可キ爲メ其訴訟ニ管セサル裁判役
一員ヲ其受任ノ順序ニ從テ呼迎ヘ又ハ寄數ヲ以テ數員ヲ呼迎ヘ其
訴訟ヲ更ニ吟味シ又書面ニ因リ吟味ヲ爲ス可キ時ハ掛リ裁判役ヲ
シテ更ニ其中立ヲ爲サシム可シ

控訴院ノ裁判役皆其訴訟ノ吟味ニ管シ其説ノ決セサル時ハ之ヲ決
スル爲メ先ニ登級シタル順序ヲ以テ法律家三員ヲ呼迎フ可シ

第四百六十九條 控訴ヲ定期ノ時間停止シタルニ因リ其訴ノ手續ヲ
取消ト爲スニ至リシ時ハ再ヒ其控訴ヲ爲スコトヲ得スシテ初告裁判
所ノ言渡ヲ裁判ヲ經タル事ノ力アリトス

第四百七十條 前數條ニ記シタル規則ヲ除クノ外初告裁判所ノ規則
ヲ控訴院ニ通シ用フ可シ

第四百七十一條 治安裁判所ノ言渡ノ控訴ヲ爲ス者負訴訟トナル時
ハ五フランノ罰金ヲ言渡サル可ク又初告裁判所又ハ商法裁判所
ノ言渡ノ控訴ヲ爲ス者負訴訟トナル時ハ十フランノ罰金ヲ言渡
サル可シ

第四百七十二條 控訴ノ上控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ確定シタ

ル時ハ其初告裁判所ニテ其言渡ヲ執行フ可シ又控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ取消シタル時ハ其控訴院又ハ控訴院ヨリ別段指定メタル初告裁判所ニテ原告被告ノ間ニ其言渡ヲ執行フ可シ但シ初告裁判所ヨリ言渡シタル禁錮又ハ不動産ノ差押ヲ取消ス可キ控訴院ノ言渡ノ執行及ヒ其他別段法律上ニ其執行ノ管轄ヲ定メタル諸件ハ各其管轄ノ初告裁判所ニテ之ヲ取扱フ可シ

第四百七十三條 訴訟ノ本案ニ管スル預審ノ言渡ノ控訴ヲ爲シ控訴院ニテ其言渡ヲ取消シタル時其本案ヲ裁判スルコトヲ得可キ手續ニ至リシニ於テハ控訴院ニテ其本案ヲモ亦一通ノ言渡ヲ以テ同時ニ裁判ス可シ

又控訴院ニテ初告裁判所ノ確定ノ裁判言渡ヲ法式ニ背キタルト爲シテ之ヲ取消シ又ハ其他本案ニ非サル事ニ付キ之ヲ取消シタル時

ハ控訴院ニテ其本案ヲモ亦裁判ス可シ

〇第四卷 裁判言渡ヲ取消サントスル爲メノ異常ノ方法(千八百六
年四月十七日決定同月廿七日公布)

〇第一章 原告及ヒ被告ニ非サル者ヨリ裁判取消ヲ訴フル事

第四百七十四條 人自カラ呼出ヲ受ケヌ又其名代人呼出ヲ受ケヌシテ己ノ權利ノ害トナル可キ裁判言渡アル時ハ其言渡ヲ取消ト爲ス可キコトヲ訴フルヲ得可シ

第四百七十五條 原告及ヒ被告ニ非サル者裁判所ノ言渡ヲ取消ス可キコトヲ主ナル訴訟ト爲シテ願出ントスル時ハ當テ其言渡ヲ爲セシ裁判所ニ願出ツ可シ

又甲ノ裁判所ニテ爲ス所ノ訴訟ニ付キ乙ノ裁判所ノ言渡ヲ取消ス可キコトヲ附帶ノ訴訟トシテ願出ントスル時甲ノ裁判所其言渡ヲ爲セシ乙ノ裁判所ト同等又ハ上等ナルニ於テハ其訴訟ヲ爲ス所ノ裁判所ニ願書ヲ出シテ其取消ヲ訴フ可シ

第四百七十六條 其訴訟ヲ爲ス甲ノ裁判所其言渡ヲ爲セシ乙ノ裁判所ヨリ下等ナル時ハ其言渡ヲ他人ヨリ取消サント願フ附帶ノ訴訟ヲ主タル訴訟トシテ其言渡ヲ爲セシ乙ノ裁判所ニ持出ス可シ

第四百七十七條 前條ノ場合ニ於テ其訴訟ヲ裁判ス可キ裁判所即チ裁判ハ其時ノ景狀ニ從ヒ其本案ノ裁判ヲ爲シ又ハ之ヲ猶豫スルコトヲ得可シ

第四百七十八條 裁判ヲ經タル事ノカアル言渡ニ因リ不動産ヲ抛棄ス可キノ裁判アル時ハ他人ヨリ其言渡ノ取消ヲ訴ヘタルニ管ヒス

之ヲ其原告ト被告トノ間ニ執行フ可シ但シ其言渡ヲ執行フト雖モ他人ヨリ取消ヲ願フタル訴ノ害トナルコトナカル可シ

其他ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ其時ノ景狀ニ從ヒ其言渡ノ執行ヲ止ムルコトヲ得可シ

第四百七十九條 原告及ヒ被告ニ非サル者裁判言渡ノ取消ヲ訴ヘ其訴ノ負訴訟トナリタル時ハ五十フランクヨリ少ナカラサル罰金ヲ言渡サレ又別段ノ道理アル時ハ損失ノ償ヲ言渡サル可シ

○第二章 敬慎ノ願書 負訴訟トナリシ者第四百八十條ニ記列シタル諸件ヲ申述ヘテ裁判言渡ノ取消ヲ願フ云フ

第四百八十條 初告裁判所及ヒ控訴院ニテ原告被告雙方ノ面前ニテ爲シタル終審ノ裁判言渡アル時及ヒ一方ノ者抗傳ノ時爲シタル終審ノ裁判言渡ヲ既ニ故障ヲ述フルコトヲ得サルニ至リシ時ハ一方ノ

者ノ願ニ因リ左ノ諸件ニ付キ其言渡ヲ取消ト爲スヲ得可シ

第一 相手方本人ノ詐僞アル時

第二 裁判言渡ノ前又ハ裁判言渡ノ時欠ク可カラサル法式ヲ欠

キシ時但シ其法式ヲ欠キタルニ因リ本人其言渡ノ取消ヲ願フ

可キ時其定期ヲ過シタルニ於テハ格別ナリトス

第三 本人ヨリ訴出サ、ル事柄ニ付キ裁判言渡アリシ時

第四 本人ノ訴出シタルヨリ更ニ餘分ノ事ニ付キ裁判言渡アリ

シ時

第五 本人ノ訴ヘタル箇條中ノ一箇ヲ裁判言渡ニ遺脱シタル時

第六 同シ裁判所ニテ同シ雙方本人ノ間ニ同シ事柄ニ付キ二箇

ノ終審ノ裁判言渡ノ互ニ齟齬シタル時

第七 一箇ノ裁判言渡書中ニ齟齬シタル事アル時

第八 檢察官ニ報知ス可キ場合ニ於テ其報知ヲ爲サスシテ檢察

官ヨリ權利ノ保護ヲ受ク可キ者ノ負訴訟トナリシ時

第九 裁判言渡ノ後其裁判ニ用ヒタル證書ヲ相手方ニテ贗造ナ

リト自認シ又ハ裁判所ニテ贗造ナリト言渡シタル時

第十 相手方ノ陰藏シタル至重ノ證書類ヲ裁判言渡ノ後ニ取返

シタル時

第四百八十一條 官府、邑、公舍、幼者ハ之ニ代テ訴ヲ爲ス者ノアラサリ

シ時又ハ其代人アリシト雖モ法ニ適シテ其訴ヲ爲サ、リシ時ハ其

言渡ヲ受ケタル裁判ノ取消ヲ訴フルヲ得可シ

第四百八十二條 裁判言渡書中ノ一箇條ノミニ付キ取消ヲ訴フルヲ

得可キ時ハ其箇條ノミヲ取消ト爲スヲ得可シ但シ他ノ箇條其

一箇條ニ屬シタル事ナル時ハ格別ナリトス

第四百八十三條 (千八百六十二年五月三日如左改ム) 敬慎ノ願書ハ丁年者ニ付テハ其本人又ハ其住所ニ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ二月内ニ相手方ニ對シテ裁判所ニ出席ヲ要ムル呼出狀ト共ニ之ヲ其相手方ニ送達ス可シ

第四百八十四條 (千八百六十二年五月三日如左改ム) 幼者ニ付テハ其丁年ニ至リシ後其本人又ハ其住所ニ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ其二月ノ期限ヲ數フ可シ

第四百八十五條 (千八百六十二年五月三日如左改ム) 公務ノ任ヲ受ケタルニ因リ佛蘭西本國又ハ「アルゼリー」ノ地ニ在カル者ニ付テハ其者其裁判言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ二月ノ期限ノ外更ニ八月ノ期限ヲ増ス可シ

航海ノ爲メ同上ノ地ニ在ラサル海客ニ付テモ亦之ニ等シトス

第四百八十六條 (千八百六十二年五月三日如左改ム) 佛蘭西本國外ニ居住スル者ニ付テハ其者其裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ二月ノ期限ノ外第七十三條ニ記シタル呼出ノ期限ヲ増ス可シ

第四百八十七條 裁判言渡書ヲ受ケタル者其取消ヲ願フ可キトニ付キ前數條ニ定メタル期限内ニ死去シタル時ハ其相續人其取消ヲ願フ可キ期限ヲ第四百四十七條ニ記シタル期限ヨリ數フ可シ但シ其方法モ亦同條ニ記シタル所ニ循ラ可シ

第四百八十八條 證書ノ贗造ナルト又ハ新タニ證書ヲ見出シタルト又ハ相手方ノ詐偽ニ因リ一方ノ者敬慎ノ願書ヲ出ス時ハ相手方ニテ證書ノ贗造又ハ詐偽ヲ自認シタル日又ハ新タニ證書ヲ見出シタル日ヨリ二月ノ期限ヲ數フ可シ但シ證書ヲ見出シタル場合ニ於テハ之ヲ見出シタル日ヲ證明ス可キ證書アルトテ必要トス

第四百八十九條 二箇ノ裁判言渡ノ互ニ齟齬シタル時ハ後ノ言渡書
ノ送達ヲ得タル日ヨリ二月ノ期限ヲ數フ可シ

第四百九十條 敬慎ノ願書ハ裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ニ之ヲ差出
シ以前ノ裁判役之ヲ裁判スルヲ得可シ

第四百九十一條 裁判言渡ヲ爲シタルモノニ非サル裁判所ニテ爲ス
所ノ訴訟ノ時間相手方ヨリ出シタル其裁判言渡書ヲ一方ノ者敬慎
ノ願書ヲ以テ取消サント願フ時ハ其裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ニ
其願書ヲ出ス可シ但シ是迄ノ訴訟ヲ裁判ス可キ裁判所ハ其時ノ景
狀ニ從ヒ其訴訟ヲ裁判シ又ハ之ヲ猶豫スルヲ得可シ

第四百九十二條 裁判言渡ヨリ六月内ニ敬慎ノ願書ヲ出ス時ハ相手
方ノ代書師ノ住所ニ呼出狀ヲ送り六月以後ニ於テハ相手方本人ノ
住所ニ其呼出狀ヲ送ル可シ

第四百九十三條 主タル訴訟ヲ裁判ス可キ裁判所即チ敬慎ノ願書ヲ
以テ取消サントス
タル言渡ヲ爲シコ附帶ノ訴トシテ敬慎ノ願書ヲ出ス時ハ一方ノ者ノ
代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ其旨ヲ告知スル招書ヲ送ルノミコテ
足レリトス然レ裁判言渡ヲ爲シタルモノニ非サル裁判所ニテ爲ス
所ノ主タル訴訟ノ附帶ノ訴トシテ敬慎ノ願書ヲ出ス時ハ其裁判言
渡ヲ爲セシ裁判所ニ相手方本人ノ出席ヲ要ムル呼出狀ヲ其本人ニ
送ル可シ

第四百九十四條 官ノ利益ノ爲メ契約ヲ爲ス者ノ外何人ヲ問ハス敬
慎ノ願書ヲ出ス前ニ罰金ノ豫備トシテ三百フランシノ金高ト相手
方ヘノ損失償ノ豫備トシテ百五十フランシノ金高ト官署ニ納メ
置シ可シ但シ相手方ヘ損失償ノ豫備トシテ更ニ多量ノ金高ヲ官署
ニ附託ス可キ道理アル時ハ格別ナリトス

一方ノ者抗傳シテ裁判言渡ヲ受ケタル時又ハ一方ノ者證書ヲ出サ
 スシテ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ後ニ敬慎ノ願書ヲ出スニ付キ前ニ
 記シタル金高ノ半ハ官署ニ納メ又初告裁判所ノ裁判言渡ニ付キ
 其願書ヲ出ス時ハ前ニ記シタル金高ノ四分ノ一ヲ官署ニ納ム可シ
 第四百九十五條 敬慎ノ願書ノ初メニハ裁判言渡ヲ爲シタル初告裁
 判所ヲ管轄スル控訴院ノ管轄地内ニテ少ナクモ十年以來其職務ヲ
 行フタル代言人三員ヘノ相談書ト金高ノ附託ヲ得タル官吏ノ受取
 書トヲ附記シテ相手方ニ送達ス可シ
 代言人ヘノ相談書ニハ三人共ニ敬慎ノ願書ヲ出ス可キノ説ナル旨
 ト言渡書ヲ取消ト爲ス可キ憑據トヲ記ス可シ然ラザレハ其願書ヲ
 取上ク可カラス

第四百九十六條 裁判言渡ヨリ六月内ニ敬慎ノ願書ヲ出ス時ハ管轄

其言渡ノ時代書師タリシ者更ニ別段委任ヲ受クルノ書ヲ得ルコト
 シシテ當然猶其代書師タル可シ

第四百九十七條 敬慎ノ願書ヲ出スト雖モ既ニ言渡シタル裁判執行
 ノ差支トナルコト又其執行ノ猶豫ヲ許ス可カラス○不動産所有
 ノ權ヲ拋棄ス可キノ言渡ヲ受ケタル者敬慎ノ願書ヲ出サントスル
 ニハ其言渡ノ如ク既ニ執行ヒタル證書ヲ出ス可シ

第四百九十八條 總テ敬慎ノ願書ハ之ヲ檢察官ニ報知ス可シ

第四百九十九條 代言人ヘノ相談書ニ記シタル敬慎ノ願書ヲ出ス憑
 據外ノ憑據ハ吟味ノ席ニテ之ヲ辨論ス可カラズ又書面ヲ以テ之ヲ
 述フ可カラス

第五百條 敬慎ノ願書ヲ却還スル時ハ其言渡ト共ニ其願書ヲ出シタ
 ル者ニ前ニ記シタル罰金ト相手方ヘノ損失ノ償トヲ拂フ可キノヲ

言渡ス可シ但シ別段ノ道理アル時ハ相手方ニ更ニ多量ノ償ヲ拂フ可キトテ言渡ス可シ

第五百一條 敬慎ノ願書ノ如ク允許スル時ハ以前ノ裁判言渡ヲ取消シ其言渡前ノ景狀ニ復シテ附託シタル金高ヲ還シ且相手方ヲシテ其言渡ニ因リ得タル諸件ヲ還サシム可シ

二箇ノ裁判言渡ノ互ニ齟齬シタルニ付キ敬慎ノ願書ノ如ク允許シタル時ハ其二箇中初メノ裁判言渡ノ如ク執行フ可キトテ言渡ス可シ

第五百二條 訴訟ニ附帶シタル事ニ付キ爲シタル裁判言渡ヲ敬慎ノ願書ニ因リ取消シタル後其訴訟ノ本案ハ其取消ヲ爲シタル裁判所ニテ裁判ス可シ

第五百三條 既ニ敬慎ノ願書ヲ出シテ取消ヲ訴ヘタルト雖モ取消ス

トテ得サリシ裁判言渡又ハ敬慎ノ願書ヲ却還スル裁判言渡又ハ敬慎ノ願書ノ如ク允許シタル後訴訟ノ本案ニ付キ爲シタル裁判言渡ハ何人ヲ論セス再ヒ敬慎ノ願書ヲ出シテ之ヲ取消サント訴フルトテ得ス若シ再ヒ之ヲ訴フルト雖モ其効ナシ且本人ハ言ヲ待テス初メノ願書ト後ノ願書トヲ出ストニ管シタル其代書師ニ於テモ亦相手方ニ損失ノ償ヲ爲ス可シ

第五百四條 二箇ノ裁判所ニ於テ同シ雙方本人ノ間ニ同シ事柄ニ付キ爲シタル終審ノ裁判言渡ノ互ニ齟齬スル時ハ覆審院ニ訴出ツ可シ但シ此場合ニ於テハ覆審院ノミニ用フ可キ法式ヲ以テ訴ヲ爲シ且之ヲ裁判ス可シ 第四百八十

○第三章 裁判役不正ノ裁判ヲ爲シタルニ因リ損失ヲ受ケタル時其裁判ヲ取消シ其償ヲ得ントスルニ付テノ訴訟

第五百五條 左ノ場合ニ於テハ裁判言渡ヲ取消シ裁判役ヨリ償ヲ求ムルヲ得可シ

第一 裁判役訴訟ノ時閉又ハ裁判言渡ノ時詐偽及ヒ受贓ノ疑アル時

第二 裁判言渡ヲ取消シ裁判役ヨリ償ヲ求ムルノ訴ヲ爲シ得可キヲ法律上ニ於テ別段定メタル時

第三 裁判役ノ法ニ背キタル處置ヲ爲シタルニ因リ本人ヘノ損失償ヲ擔當ス可キヲ法律上ニテ別段定メタル時

第四 裁判役ノ裁判ヲ爲スヲ肯セサル時

第五百六條 裁判役本人ノ願ニ答フルヲ肯セス又ハ既ニ裁判ヲ爲シ得可キ手續トナリシ訴訟及其手續ニ至ラントスル訴訟ノ裁判ヲ怠ル時ハ裁判ヲ爲スヲ肯セサルノ答アリトス

第五百七條 裁判役裁判ヲ爲スヲ肯セサル時ハ治安裁判役及ヒ商

法裁判所ノ裁判役ニ付テハ本人ヨリ裁判役ニ其裁判ヲ爲ス可キ

ヲ願フ書ニ通テ互ニ少クトモ三日ヲ隔テ裁判所ノ書記官ニ送達シ

其他ノ裁判役ニ付テハ此書ニ通テ互ニ少クトモ八日ヲ隔テ送達ス

可シ但シ其送達ヲ爲スノ求メヲ受ケテ之ヲ爲サ、ル使吏ハ定期ノ

時間其職ヲ罷メラル可シ

第五百八條 此ニ通ノ書ヲ送リタル後猶裁判ヲ爲サ、ル時ハ其裁判

役ニ對シ償ヲ求ムルヲ得可シ

第五百九條 治安裁判所商法裁判所初告裁判所又ハ此等ノ裁判所ノ

裁判役中ノ一人及ヒ控訴院ノ裁判役中ノ一人又ハ重罪審院ノ裁判

役中ノ一人ニ對シ本人ヨリ裁判言渡ヲ取消テ償ヲ求ムル訴ハ其管

轄ノ控訴院ニ之ヲ爲ス可シ

控訴院又ハ重罪審院及ヒ此等ノ裁判所中ノ一局ニ對シ本人ヨリ其言渡ヲ取消テ償ヲ求ムル訴ハ佛蘭西共和政治立國第十二年「プロンアル」月ノ憲法第一百一條ニ循ヒ大審院ニ之ヲ爲ス可シ

第五百十條 然レ此訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ允許ヲ豫メ得ルニ非レハ裁判役ニ對シテ償ヲ求ムルノ訴ヲ爲ス可カラズ

第五百十一條 其訴ヲ爲スニ付テハ本人又ハ公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人ノ姓名ヲ手署シタル願書ヲ出ス可シ但シ其公正ノ證書ハ其訴ヲ爲スニ付テノ證書類アル時ハ其證書類ト共ニ願書ニ添テ之ヲ出ス可シ此公正ノ證書ヲ願書ニ添テ名代人ノ爲シタル訴ハ其効ナカル可シ

第五百十二條 其願書ニハ裁判役ニ對シテ不敬ノ言詞ヲ用フ可カラズ若シ之ヲ用ヒタル時ハ本人ニ相當ノ罰金ヲ言渡シ且其代書師ニ

相當ノ罰又ハ相當ノ時間其職ヲ罷ム可キヲ言渡ス可シ

第五百十三條 其願書ヲ取上ケタル時ハ本人ニ三百「フラン」ヨリ少ナカテサレ罰金ヲ言渡シ且別段ノ道理アル時ハ本人ヨリ裁判役ニ損失ヲ償フ可キヲ言渡ス可シ

第五百十四條 其願書ヲ取上ケタル時ハ三日内ニ之ヲ裁判役ニ送達シ其裁判役ハ八日内ニ其答辨ヲ爲ス可シ

其裁判役ハ其訴訟ノ裁判ニ管ス可カラズ又其訴訟ノ確定ノ裁判アル迄ハ其訴ヲ爲シタル本人又ハ其宗系ノ親族及ヒ其配偶者ノ其裁判所ニテ爲ス「アル」可キ總テノ訴訟ノ裁判ニ管スル「ヲ」得ス若シ其裁判役ノ管シタル裁判言渡ハ其効ナカル可シ

第五百十五條 裁判役ノ爲シタル言渡ヲ取消シテ其裁判役ヨリ償ヲ求ム可キノ訴ヲ裁判所ニテ取上ケタル時ハ其本人ノ代書師ヨリ其

裁判役ニ招書ヲ送リテ其裁判役ノ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要メ控
訴院中其訴ヲ取上ケタルモノニ非サル局ニテ之ヲ裁判ス可シ若シ
控訴院唯一局ノミナル時ハ其訴ヲ覆審院ノ命ニテ最近ノ控訴院ニ
移ス可シ

第五百十六條 其訴ヲ爲シタル者負訴訟トナル時ハ三百フランクニ
リ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且別段ノ道理アル時ハ裁判役ニ對
シ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

○第五卷 裁判言渡ヲ執行ツ事(千八百六六年四月廿一日決定五月一
日布告)

○第一章 保證人ヲ承諾スル事

第五百十七條 保證人ヲ立ツ可キノ言渡ニハ一方ノ者ノ之ヲ立ツ可
キ期限ト相手方ノ之ヲ承諾シ又ハ故障ヲ述フ可キ期限トヲ定ム可
シ

第五百十八條 一方ノ者保證人ヲ立ル時相手方ニ代書師ヲキニ於テ
ハ其本人又代書師アルコ於テハ其代書師ニ保證人ヲ立ツル旨ヲ記
シタル書面ト保證人其保證スル所ノ金高ヲ拂ヒ得可キ證書ヲ裁判
所ニ預ケタル旨ヲ記シタル書面ノ寫トヲ送達ス可シ但シ保證人其
保證スル所ノ金高ヲ拂ヒ得可キ證書ヲ出ス可キヲ別段法律上ニ
定メサル時ハ格別ナリトス

第五百十九條 相手方本人ハ裁判所ノ書記局ニ至テ一方ノ保證人ノ
證書ヲ檢視シ其保證人ヲ承諾スル時ハ其代書師ヲシテ一方ノ代書
師ニ書面ヲ送ラシメ承諾ノ由ヲ告知ス可シ○此場合ト相手方ニテ

定期内ニ保證人ニ付キ故障ヲ述ヘサル場合トニ於テハ保證人書記局ニ至テ其保證スル所ノ金高ヲ相違ナク拂フ可キヲ證ス可シ但シ保證人ノ證スル所ハ別ニ裁判所ノ言渡ナクシテ之ヲ執行フ可ク若シ保證人其證スル所ノ如ク執行ハサルニ因リ之ヲ禁錮ス可キノ道理アル時ハ別ニ其言渡ナクシテ之ヲ禁錮スルヲ得可シ

第五百二十條 相手方定期内ニ一方ノ保證人ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其代書師ヨリ一方ノ代書師ニ招書ヲ送り吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ

第五百二十一條 保證人ニ付キ故障ヲ述フル訟ハ別ニ願書及ヒ其他ノ書面ヲ用フルヲナク裁判所ニ於テ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ但シ其裁判言渡ハ控訴ニ管セス之ヲ執行フ可シ

第五百二十二條 相手方ヨリ一方ノ保證人ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其保證人ニ付キ故障ヲ述フル訟ハ別ニ願書及ヒ其他ノ書面ヲ用フルヲナク裁判所ニ於テ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ但シ其裁判言渡ハ控訴ニ管セス之ヲ執行フ可シ

〇第二章 損失償ノ高ヲ定ムル事

第五百二十三條 裁判所ノ言渡書ニ一方ノ者相手方ヨリ得可キ損失償ノ高ヲ定メサル時ハ一方ノ者其高ノ幾許ナル可キヤヲ記シタル書面ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ且證書類ハ相手方ノ代書師ノ受取書ト引替テ之ヲ渡シ又ハ之ヲ書記局ニ差出シ相手方ヲシテ書記局ニ至リ之ヲ檢視セシム可シ

第五百二十四條 相手方ハ第九十七條及ヒ第九十八條ニ記シタル定期内ニ其受取リタル一方ノ證書類ヲ還ス可ク若シ之ヲ還サ、ル時ハ右二條ニ記シタル罰ヲ受ク可シ又相手方ハ其定期後八日内ニ己ノ至當ナリト思料スル損失償ノ高ヲ一方ニ提供ス可ク若シ其手續

ヲ爲サ、ルニ於テハ一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送
リテ吟味ノ席ニ出シ可キヲ要メ相手方共席ニテ一方ノ述ヘタル
償高ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ一方ノ述ヘタル償高ニ付キ
證據ナク且不當ナル時ハ格別ナリトス

第五百二十五條 相手方ノ提供シタル償高ニテ十分ナリトノ裁判言
渡アル時ハ一方ノ者相手方ノ提供ヲ爲シタル日ヨリ以後ノ裁判費
用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

○第三章 利得ノ高ヲ定ムル事

第五百二十六條 利得ノ算還ヲ爲ス可キ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判所
ニテ言渡ヲ爲ス他ノ算還ニ付キ後ノ數條ニ記シタル規則ニ循ヒ其
算還ヲ爲ス可シ

○第四章 算還ノ事

第五百二十七條 裁判所ヨリ任セラレシ算計人ハ之ヲ任シタル裁判
所ニ其算還ノ訴ヲ受ケ後見人ハ其後見ヲ爲ス地ノ裁判所ニ其算還
ノ訴ヲ受ケ其他ノ算計人ハ其住所ノ裁判所ニ其訴ヲ受ク可シ

第五百二十八條 初告裁判所ニテ算還ノ訴ヲ取上ケサルニ因リ控訴
院ニ控訴ヲ爲シ控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ取消シタル時ハ以
前訴出シタル初告裁判所ニ再ヒ其訴ヲ爲シ又ハ控訴院ヨリ別段定
メタル他ノ初告裁判所ニ其訴ヲ爲ス可キ旨ヲ控訴院ヨリ言渡ス可
シ

又既ニ初告裁判所ニ算計書ヲ出シ其裁判言渡アリシ後控訴院ニ控
訴ヲ爲シ控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ取消シタル時ハ控訴院ニ
テ其言渡ノ如ク執行ヒ又ハ控訴院ニテ以前裁判ヲ爲シタルヨリ更
ニ他ノ初告裁判所ヲ別段指定メテ控訴院ノ言渡ヲ執行ハシム可シ

四三二

第五百二十九條 算還ノ訴ヲ爲ス數人皆其權利ノ同一ナル時ハ代書師一人ヲ任ス可シ若シ其數人代書師ヲ撰任スルニ付キ協議セサル時ハ代書師中ノ最モ先ニ其職ヲ得タル者ヲ撰ム可シ但シ其數人ハ各自ニ代書師一人ヲ任スルヲ得可シト雖モ其代書師ヲ任シタル費用及ヒ其代書師ノ爲シタル費用ハ其訴ヲ爲ス者各自ニ之ヲ擔當ス可シ

第五百三十條 算還ヲ爲ス可キノ言渡書ニハ算計書ヲ出ス可キ期限ヲ定メ且掛リ裁判役ヲ任ス可シ

第五百三十一條 算計書ノ前書ト算還ヲ爲ス可キ者ヲ任シタル證書又ハ言渡書ノ記載及ヒ算還ノ言渡書ノ記載トチ合シテ之ヲ六葉ト定ム可シ但シ其餘分ノ費用ハ裁判費用中ニ加フ可カラス

第五百三十二條 算還ヲ爲ス者ハ其旅費及ヒ算計ノ證書類ヲ整具シ

タル代書師ノ給料算計書ノ寫字料并ニ算計書ヲ裁判所ニ出シテ具正ナリト述フルニ付テノ費用ヲ相手方ヨリ償ハシムルヲ得可シ

第五百三十三條 算計書ニハ現在ノ受取高ト費用高トヲ記シ其末ニ其差引高ヲ記ス可シ但シ他人ヨリ取返ス可キ權アル諸件ハ別ニ分テ之ヲ記ス可シ

第五百三十四條 算還ヲ爲ス可キ者ハ掛リ裁判役ノ定メタル日ニ至リ相手方ニ代書師ナキ時ハ其本人ニ呼出狀ヲ送り又代書師アル時ハ其代書師ニ招書ヲ送り之ヲ呼出シタル上ニテ自カラ其算計書ヲ出シテ之ヲ真正ナリト述ヘ又ハ其名代人ヲシテ之ヲ出シテ真正ナリト述ヘシム可シ

五三二

算計ヲ爲ス可キ者定期内ニ其手續ヲ爲サ、ル時ハ裁判所ニテ別段定メタル金高ニ至ル迄其財産ヲ抵償トシ差押ヘテ之ヲ賣リ又然ノ

ミナラス裁判所ニテ至當ト思フ時ハ禁錮ヲ言渡ス可シ

第五百三十五條 算計書ヲ出シテ真正ナリト述ヘタル後受取高ノ費用高ニ過キタル時ハ算還ノ訴ヲ爲ス者其算計書ヲ別ニ承諾セスシテ相手方ヲシテ其残額ヲ拂ハシム可キノ裁判執行書ヲ掛リ裁判役ヨリ得ント求ムルヲ得可シ

第五百三十六條 算還ヲ爲ス可キ者算計書ヲ出シ真正ナリト述ヘタル後之ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ又證書類ハ算還ヲ爲ス可キ者ノ代書師之ニ記號ヲ附シ且姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シテ一方ノ代書師ニ渡ス可シ若シ一方ノ代書師受取書ト引替テ其證書類ヲ携ヘ歸リタル時ハ掛リ裁判役ノ定メタル期限内ニ之ヲ還ス可シ若シ其期限内ニ之ヲ還ササル時ハ第七條ニ記シタル罰ヲ受ク可シ算還ヲ訴フル者數人ニテ各其代書師ヲ任シタル時ト雖モ其權利ノ

同一ナルニ於テハ其算計書及ヒ證書類ヲ其代書師中ノ最モ先ニ其職ヲ得タル者ニ送ル可シ又其訴ヲ爲ス數人ノ權利各異ナル時ハ其代書師各人ニ此等ノ書面ヲ送ル可シ又訴訟ニ管スル債主數人アリテ各其代書師アル時ト雖モ其中最モ先ニ其職ヲ得タル者ノミニ算計書及證書類ヲ送ル可シ

第五百三十七條 飲食品ヲ賣ル者工丁義塾ノ授業師及ヒ此類ノ者ノ受取書ハ之ヲ算計ノ證書トシテ出シタルト雖モ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルニ及ハス

第五百三十八條 掛リ裁判役ノ定メタル時刻ニ至リ雙方本人ハ其裁判役ノ面前ニ出席シテ互ニ辨論ヲ爲シ裁判役ハ之ヲ調書ニ記ス可シ若シ一方本人抗傳スル時ハ相手方其代書師ヲシテ一方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ

第五百三十九條 雙方本人掛り裁判役ノ面前ニ於テ互ニ和解セサル時ハ其裁判役己レノ定メタル日ニ至リ吟味ノ席ニ申立テ爲ス可キヲ言渡ス可シ但シ雙方本人ハ別ニ招書ヲ受取ラスト雖モ吟味ノ席ニ出ツ可シ

第五百四十條 算還ノ訴ヲ裁判スル言渡書ニハ受取高ト費用高トヲ記シ殘額アル時ハ其殘額ヲ定ム可シ

第五百四十一條 一旦定マリタル算計書ハ之ヲ更改ス可カラズ若シ雙方本人其算計書ニ誤算又ハ詐偽アリト思フ時ハ更ニ此迄ノ裁判所ニ訴出ス可シ

第五百四十二條 若シ算還ノ訴ヲ爲ス者抗傳ヲ爲ス時ハ掛り裁判役其定メタル日ニ至リ裁判所ニ申立テ爲シ其訴ヲ爲ス者ノ要ムル所確證アル時ハ相手方ヨリ其者ニ算還ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ但

シ相手方ノ預リタル殘額アル時ハ其訴ヲ爲ス者別段之ヲ取還ス可キノ要メテ爲スニ至ル迄相手方之ヲ保テ置キ別ニ其息銀ヲ拂フニ及ハス又後見人ノ算還ヲ爲ス時ノ外總テ算還ヲ爲ス可キ者ハ其殘額ヲ保テ置クニ付テノ保證人ヲ立ツ可ク若シ保證人ヲ立テサル時ハ其殘額ヲ官署ニ附託ス可シ

○第三章 裁判費用ノ高チ定ムル事

第五百四十三條 急速吟味ノ法式ヲ用ヒタル訴訟ニ付テハ裁判費用ノ高チ其裁判言渡書ニ附記シテ直チニ之ヲ定ム可シ

第五百四十四條 通常吟味ノ法式ヲ用ヒタル訴訟ニ付キ裁判費用ノ高チ定ムル方法ハ假リノ行政規則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム但シ其行政規則ハ訴訟法ト同日ニ之ヲ國中ニ行フ可ク且當時ヨリ遲シトモ三年内ニハ相當ノ更改ヲ爲シタル上法律議案ノ體裁ニ爲シ之ヲ議院

第五百三十九條 雙方本人掛り裁判役ノ面前ニ於テ互ニ和解セサル時ハ其裁判役己ノ定メタル日ニ至リ吟味ノ席ニ申立テ爲ス可キヲ言渡ス可シ但シ雙方本人ハ別ニ招書ヲ受取ラスト雖モ吟味ノ席ニ出ツ可シ

第五百四十條 算還ノ訴ヲ裁判スル言渡書ニハ受取高ト費用高トヲ記シ殘額アル時ハ其殘額ヲ定ム可シ

第五百四十一條 一旦定マリタル算計書ハ之ヲ更改ス可カラズ若シ雙方本人其算計書ニ誤算又ハ詐偽アリト思フ時ハ更ニ此迄ノ裁判所ニ訴出ス可シ

第五百四十二條 若シ算還ノ訴ヲ爲ス者抗傳ヲ爲ス時ハ掛り裁判役其定メタル日ニ至リ裁判所ニ申立テ爲シ其訴ヲ爲ス者ノ要ムル所確證アル時ハ相手方ヨリ其者ニ算還ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ但

シ相手方ノ預リタル殘額アル時ハ其訴ヲ爲ス者別段之ヲ取還ス可キノ要メヲ爲スニ至ル迄相手方之ヲ保チ置キ別ニ其息銀ヲ拂フニ及ハス又後見人ノ算還ヲ爲ス時ノ外總テ算還ヲ爲ス可キ者ハ其殘額ヲ保チ置クニ付テノ保證人ヲ立ツ可ク若シ保證人ヲ立テサル時ハ其殘額ニ官署ニ附託ス可シ

○第三章 裁判費用ノ高ヲ定ムル事

第五百四十三條 急速吟味ノ法式ヲ用ヒタル訴訟ニ付テハ裁判費用ノ高ヲ其裁判言渡書ニ附記シテ直チニ之ヲ定ム可シ

第五百四十四條 通常吟味ノ法式ヲ用ヒタル訴訟ニ付キ裁判費用ノ高ヲ定ムル方法ハ假リノ行政規則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム但シ其行政規則ハ訴訟法ト同日ニ之ヲ國中ニ行フ可ク且當時ヨリ遅クトモ三年内ニハ相當ノ更改ヲ爲シタル上法律議案ノ體裁ニ爲シ之ヲ議院

ニ出シテ議定セシム可キモノナリ

第六章 裁判言渡書及ヒ契約證書ノ如ク強テ執行ハシムル事
ニ付テノ總規則

第五百四十五條 裁判言渡書及ヒ契約證書類ハ國ノ法律ニ等シキ前
書ヲ記シ且第四百四十六條ニ記シタル如ク司法官吏ヲシテ之ヲ執行
ハシムル命令ノ語ヲ其末ニ記シタルニ非レハ之ヲ執行フコト得ス

第五百四十六條 外國ノ裁判所ニテ爲シタル裁判言渡書及ヒ外國官
吏ノ記シタル契約證書ハ民法第二千二百二十三條及ヒ第二千二百十
八條ニ記シタル場合ニ於テ其二條ノ方法ヲ用フルニ非レハ佛蘭西
國內ニ於テ之ヲ執行フ可カラズ

第五百四十七條 佛蘭西國中ノ裁判所ノ言渡書及ヒ佛蘭西官吏ノ記
シタル契約證書ハ其言渡書ヲ記シ又ハ契約證書ヲ記シタル地ノ裁

判所ノ管轄外ニ於テモ檢印又ハ別段ノ命令書ナクシテ全國中ニ之
ヲ執行フ可シ

第五百四十八條 契約ヲ爲ス雙方本人ニ非サル者ヨリ爲シタル故障
ノ申立ヲ免ヌル裁判言渡書及ヒ書入質ノ記入ヲ塗抹ス可キ裁判言
渡書又ハ訴訟ニ管セサル者ヨリ訴訟ノ一方本人ニ金高ヲ渡ス可キ
ノ裁判言渡書及ヒ其他總テ訴訟ニ管セサル者ヲシテ或事ヲ爲サシ
ム可キ裁判言渡書ハ一方ノ抗傳シテ負訴訟トナリタル時其受ケタ
ル裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フ可キ期限ノ後又ハ負訴訟ノ者控訴ヲ
爲ス可キ期限ノ後ト雖モ克訴訟ノ本人ヨリ相手方ノ住所ニ裁判言
渡書ヲ送達シタル日附ヲ附記シタル其本人ノ代書師ノ請合書ト負
訴訟ノ者裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フルコト又ハ控訴ヲ爲スコトナキ旨
ヲ證スル書記官ノ請合書トト同上ノ裁判言渡書ニ添ヘテ訴訟ニ管

セサル者ニ送達シタルニ非サレハ其者ヲシテ其言渡書ノ如ク執行
ハシム可カラズ

第五百四十九條 前條ニ記シタル如ク負訴訟ノ者裁判言渡ニ付キ故
障ヲ述フルコト又ハ控訴ヲ爲スコト有無ヲ書記官ニ知ラシム可キカ
爲メ其故障ヲ述ヘ又ハ控訴ヲ爲ス者ノ代書師ハ第六十三條ニ記
シタル規則ニ循ヒ此等ノ事ヲ簿冊ニ登記シ置ク可シ

第五百五十條 雙方相争フ物ノ附託ヲ受クル者書入質ノ管轄者及ヒ
其他訴訟ニ管セサル者ハ負訴訟ノ者故障ヲ述ヘ又ハ控訴ヲ爲ス
コト簿冊ニ記シタルコトナキ旨ヲ書記官ノ證シタル請合書ヲ受取リ
タル上ニテ其裁判言渡書ノ如ク執行ヲ可シ

第五百五十一條 一方ノ者負訴訟トナリ裁判言渡ヲ受ケタル後猶其
言渡ノ如ク行ハザルコト固リ其動産又ハ不動産ヲ抵償トシテ差押ユ

ルコトハ必ズ相手方其得可キ金高ノ定マリテ且確證アル可ク并ニ裁
判言渡ノ如ク執行ヲ可キノ書ヲ有スルコト必要トス若シ其相手方
ノ得可キモノ金高ニ非サル時ハ其動産又ハ不動産ノ差押ヘテ爲シ
タル後相手方ニテ得可キ高ヲ定ムルニ至ル迄其他ノ手續ヲ猶豫ス
可シ

第五百五十二條 負訴訟ノ者相手方ニテ價高ヲ定ムルコト得可キ物
件ヲ相手方ニ還カ、ルニ付キ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルト雖モ相手方
ニテ其價高ヲ定メタル後ニ非レハ其言渡ノ如ク執行ヲ可カラズ

第五百五十三條 商法裁判所ノ言渡書ヲ執行フニ付キ争ノ生シタル
時ハ其執行ノ手續ヲ爲ス地ヲ管轄スル初告裁判所ニ之ヲ訴フ可シ
二 第五百五十四條 裁判所ノ言渡書又ハ契約證書ノ如ク執行フニ付キ
三 生シタル争ヲ急速ニ裁判ス可キ時ハ其執行ヲ爲ス地ノ裁判所ニテ

假リニ其争ヲ裁判シ其後是迄ノ裁判所ニテ其確定ノ裁判ヲ爲ス可シ

第五百五十五條 裁判所ノ官吏其職務ヲ行フニ當リ不敬ヲ受ケタル時ハ其不敬ヲ爲シタル者ノ官命ニ抗セシ旨ヲ調書ニ記シ治罪法ニ記シタル規則ニ循テ之ヲ處置ス可シ

第五百五十六條 克訴訟ノ者ヨリ裁判言渡書又ハ契約證書ヲ使吏ニ渡シタルノミコテ使吏ハ之ヲ執行フ可キノ權ヲ得タルモノトス但シ不動産差押及ヒ禁錮ノ言渡ヲ執行フニ付テハ使吏別ニ本人ヨリ其執行ノ爲メノ委任狀ヲ受クルヲ必要トス

○第七章 負債者ニ人ヨリ物件ヲ渡スルヲ其債主ノ差留ムル事
第五百五十七條 總テ債主ハ其負債者ニ人ヨリ物件ヲ渡スルヲ公私ノ證書ヲ以テ證ト爲シ差留ムルヲ得可シ

第五百五十八條 公私ノ證書共ニアラサル時ハ負債者住所ノ裁判所又時トシテハ負債者ニ物件ヲ渡ス可キ者ノ住所ノ裁判所ニテ債主ノ願ニ應シ其渡方差留ヲ爲ス可キヲ許ルスヲ得可シ

第五百五十九條 公私ノ證書ヲ以テ證ト爲シ同上ノ渡方差留ヲ爲スノ書面ニハ其證書并ニ渡方ノ差留ヲ爲スニ付テノ金高ヲ記ス可シ又裁判所ノ許シニ因リ其差留ヲ爲ス時ハ其言渡書ノ寫ヲ差留書面ノ初ニ記入ス可シ但シ其裁判所ノ言渡書ニハ渡方差留ヲ爲スニ付テノ金高ヲ記入ス可シ

債主同上ノ渡方差留ヲ爲サント願出ツル時其負債者ヨリ得可キ高ノ未定ナルニ於テハ裁判役假ニ之ヲ評價シテ定ム可シ
同上ノ渡方差留ノ書面ニハ其差留ヲ爲ス者其差留ヲ受クル者ト其住所ノ地互ニ異ナル時ハ其差留ヲ受クル者ノ住所ノ地ニ自カラ別

段住所ヲ擇ミタル旨ヲ附記ス可シ

此等ノ諸件ヲ記セサル渡方差留ノ書面ハ其効ナカル可シ

第五百六十條 佛蘭西本國外ニ住スル者ヨリ物件ヲ負債者ニ渡ス

トシ債主ノ差留ムル書面ハ檢事ノ住所ニ送達ス可カラス其差留ヲ受

シル者又ハ其住所ニ其書面ヲ送達ス可シ 第六十九條ノ

第五百六十一條 租稅受取人又ハ官金ヲ預リ或ハ支配スル者ヨリ物

件ヲ負債者ニ渡ストシ債主ノ差留ル書面ハ之ヲ受取ル爲メ別段定

メタル者ニ之ヲ送り其者之ヲ受取テ其正本ニ檢印ヲ爲シ若シ又其

者檢印ヲ爲ストシ肯ヤサル時ハ檢事共檢印ヲ爲シタルニ非レハ其

効ナカル可シ

第五百六十二條 人ヨリ負債者ニ物件ヲ渡ストシ債主ノ差留ル書面

ニ姓名ヲ手署シタル使吏ハ其差留ヲ爲ス權ヲ得タル時其差留ヲ爲

ス本人ノ現ニ存在シタル證ヲ立ツ可キ要メテ受ケタルニ於テハ必
ズ之ヲ立ツ可シ若シ此規則ニ背ク時ハ其職ヲ停止セラレ且損失ノ
償ヲ爲ス可シ

第五百六十三條 債主ノ物件渡方ヲ差留タルヨリ八日ノ定期ニ差留

ヲ受ケタル者ノ住所ト債主ノ住所トノ間三ミリヤメートル毎ニ一

日ヲ増加シ及ヒ債主ノ住所ト負債者ノ住所トノ間三ミリヤメートル

毎ニ更ニ一日ヲ増加シタル期限内ニ債主ヨリ渡方差留ノ書面ヲ

負債者ニ送りテ其差留ノ法ニ適シタルヤ否ヲ裁判スル席ニ之ヲ呼

出ス可シ

第五百六十四條 前條ノ呼出ノ日ヨリ八日ノ定期ニ住所ノ距離ニ從

テ日數ヲ増加シタル期限内ニ裁判所ノ使吏債主ノ求メニ因リ差留

ヲ受クル者ニ負債者ヲ呼出シタル旨ヲ告知ス可シ但シ其差留ヲ受

クル者ハ其告知ヲ得ル前ニ負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述スルニ及ハス

第五百六十五條 若シ債主渡方差留ヲ爲スノ法ニ適シタルヤ否ノ裁判ヲ願ハザル時ハ其差留ノ効ナカル可シ又債主ヨリ差留ヲ受ケタル者ニ同上ノ願ヲ爲シタル旨ヲ告知スル前ニ其者ヨリ負債者ニ物件ヲ渡シタル時ハ其渡シタル効アリトス

第五百六十六條 同上ノ渡方差留ノ法ニ適シタルヤ否ノ裁判ヲ願フ前ニ原告被告豫メ勸解ノ式ヲ爲スニ及ハス

第五百六十七條 同上ノ渡方差留ノ法ニ適シタルヤ否ノ裁判ヲ願フ訴及ヒ負債者其差留ヲ除去セント願フ訴ハ其負債者住所ノ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第五百六十八條 債主公正ノ證書ヲ有シ又ハ裁判所ニテ同上ノ渡方

差留ヲ法ニ適シタルモノナリト爲ス言渡書アルニ非シハ差留ヲ受ケタル者ヲ裁判所ニ呼出シ其者ヲシテ負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述セシム可カラス

第五百六十九條 第五百六十一條ニ記シタル官吏ハ負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述スル爲メ裁判所ニ呼出ヲ受クルコトナカル可シ但シ其官吏ハ負債者ニ渡ス可キ物件アルコトヲ證スル請合書ヲ裁判所ニ出ス可シ又其物件ノ價高ノ定マリタル時ハ其價高ヲ請合書ニ附記ス可シ

第五百七十條 渡方差留ヲ受ケタル者ハ豫メ勸解ノ式ヲ行フコトナク渡方差留ノ訴ヲ裁判所ニ呼出ヲ受ク可シ若シ其者負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述シタル事ニ付キ争ノ生スル時ハ自己ノ住所ノ裁判所ニ於テ其裁判ヲ得ント求ムルコトヲ得可シ

第五百七十一條 渡方差留ヲ受ケタル者ハ其訴ヲ裁判ス可キ裁判所ノ書記局ニ至リ其負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述シテ誓ヲ爲ス可シ又事故アリテ其訴ヲ管スル裁判所ニ出席セサル時ハ自己ノ住所ノ治安裁判役ノ面前ニテ同上ノ陳述ト誓トヲ爲ス可シ但シ此場合ニ於テハ渡方差留ノ訴ヲ管スル裁判所ノ書記局ニ至リテ再ヒ誓ヲ爲スニ及ハス

第五百七十二條 前條ニ記シタル陳述ト誓トハ別段任シタル名代人ヲ出シテ之ヲ爲サシムルヲ得可シ

第五百七十三條 渡方差留ヲ受ケタル者ノ陳述書ニハ其者ヨリ負債者ニ物件ヲ渡ス可キ原由ト其總高トヲ記シ又其總高ノ中既ニ一部分ヲ渡シタル時ハ其渡シタル高ヲ記シ又既ニ其總高ヲ渡シタル時ハ其渡シタル時ノ受取證書ノ文面ヲ記シ或ハ既ニ之ヲ渡ス可キ議

務ノ釋放ヲ得タル時ハ其釋放ヲ得タル原由ヲ記シ且何ノ場合ニ於テモ其渡方差留ヲ受ケタル旨ヲ記ス可シ

第五百七十四條 前條ノ陳述書ニ附加ス可キ證書類ハ其書ニ添へ置キ此等ノ書面ヲ書記局ニ納メ且之ヲ納メタル旨ヲ記シタル書面ヲ記シテ之ニ代書師ヲ任シタル旨ヲ附記シ其差留ヲ爲シタル者ニ送達ス可シ

第五百七十五條 是迄ノ差留ヲ受ケタル外更ニ他ノ差留ヲ受ケル時ハ之ヲ受ケタル者更ニ差留ヲ爲ス者ノ姓名及ヒ其者ノ擇ミタル住所并ニ其差留ノ原由ヲ書面ニ記シテ是迄ノ差留ヲ爲シタル者ノ代書師ニ送達ス可シ

第五百七十六條 差留ヲ受ケタル者ノ陳述書ヲ差留ヲ爲ス者ヨリ争フナキ時ハ其差留ヲ受ケタル者及ヒ差留ヲ爲ス者其他ノ訴訟ノ

手續ヲ爲スニ及ハス

第五百七十七條 差留ヲ受ケタル者同上ノ陳述ヲ爲サス又ハ陳述ヲ

爲スト雖モ前數條ニ記シタル如ク證ヲ立テサル時ハ其者差留ヲ爲
シタル者ノ述フル所ノ總高ヲ負フタルモノト看做ス可シ

第五百七十八條 動産ノ渡方差留ヲ受ケタル時ハ之ヲ受ケタル者其

動産ノ詳細ナル目錄ヲ其陳述書ニ添フ可シ

第五百七十九條 債主ノ訴ヘタル渡方差留ヲ裁判所ニテ允許スル時

ハ此卷ノ第十一章第六百五十ニ記シタル如ク其渡方差留ヲ爲シタ
ル財産ヲ賣拂フテ其價高ヲ分派ス可シ

第五百八十條 官ヨリ與フル所ノ給料及ヒ扶助料ハ別段ノ法律又ハ

規則及ヒ命令ニテ定メタル部分ノ外其渡方ヲ差留ム可カラズ

第五百八十一條

第一 法律ニ因リ渡方ヲ差留ム可カラサルノ定メアル物件第五

十二條
見合セ

第二 裁判所ヨリ許シタル養料

第三 贈遺ヲ爲ス者抵償トシテ差押ユ可カラスト別段定メタル

金高及ヒ物件但シ其者ノ隨意ニ贈遺ト爲ス可キ財産定分ニ限

ル可シ

第四 贈遺ヲ爲ス證書ニ渡方ヲ差留ム可カラスト別段定メタル

コナント雖モ養料トシテ與ヘタル金高

此等ノ物ハ其渡方ヲ差留ム可カラズ

第五百八十二條 前條ニ記シタル養料ト雖モ他ノ養料ノ訴ニ付テハ

其渡方ヲ差留ルコトヲ得可シ又前條ノ第三第四ニ記シタル物件ト雖

モ其贈遺ヲ爲シタル後ノ債主ヨリ其渡方ヲ差留ムルコトヲ得可シ但

手續ヲ爲スニ及ハス

第五百七十七條 差留ヲ受ケタル者同上ノ陳述ヲ爲サス又ハ陳述ヲ爲スト雖モ前數條ニ記シタル如ク證ヲ立テサル時ハ其者差留ヲ爲シタル者ノ述フル所ノ總高ヲ負フタルモノト看做ス可シ

第五百七十八條 動産ノ渡方差留ヲ受ケタル時ハ之ヲ受ケタル者其動産ノ詳細ナル目錄ヲ其陳述書ニ添フ可シ

第五百七十九條 債主ノ訴ヘタル渡方差留ヲ裁判所ニテ允許スル時ハ此卷ノ第十一章第六百五十二條以下ニ記シタル如ク其渡方差留ヲ爲シタル財産ヲ賣拂フテ其價高ヲ分派ス可シ

第五百八十條 官ヨリ與フル所ノ給料及ヒ扶助料ハ別段ノ法律又ハ規則及ヒ命令ニテ定メタル部分ノ外其渡方差留ム可カラズ
第五百八十一條

第一 法律ニ因リ渡方差留ム可カラサルノ定ツアル物件第五十二條

見合セ

第二 裁判所ヨリ許シタル養料

第三 贈遺ヲ爲ス者抵償トシテ差押ユ可カラスト別段定メタル金高及ヒ物件但シ其者ノ隨意ニ贈遺ト爲ス可キ財産定分ニ限ル可シ

第四 贈遺ヲ爲ス證書ニ渡方差留ム可カラスト別段定メタルトナシト雖モ養料トシテ與ヘタル金高

此等ノ物ハ其渡方差留ム可カラズ

第五百八十二條 前條ニ記シタル養料ト雖モ他ノ養料ノ訴ニ付テハ其渡方差留ルコトヲ得可シ又前條ノ第三第四ニ記シタル物件ト雖モ其贈遺ヲ爲シタル後ノ債主ヨリ其渡方差留ムルコトヲ得可シ但

シ其差留ヲ爲スニハ別段裁判所ノ允許ヲ得可ク且裁判所ヨリ定ムル所ノ部分ノミニ限ル可シ

○第八章 抵償トシテ動産ヲ差押フル事

第五百八十三條 負債者ノ動産ヲ抵償トシテ差押ヘントスルニハ其時ヨリ少ナクトモ一日前ニ負債者又ハ其住所ニ要決ノ書ヲ送ル可シ但シ裁判ノ如ク執行フ可キ證書ヲ未ダ送達セサル時ハ之ヲ其要決ノ書ニ添ヘテ送ル可シ

第五百八十四條 債主其差押ヲ爲ス可キ地ノ邑内ニ住セサル時ハ其差留ノ手續ノ終ル迄別段其邑内ニ住所ヲ擇ミタル旨ヲ要決ノ書ニ附記ス可シ但シ負債者ハ債主ニ送ル可キ書面ヲ其債主ノ別段擇ミタル住所ニ送達スルヲ得可ク負債者ヨリ提供民法第一千二百五十八條見合セス書面及ヒ控訴ヲ爲ス書面モ亦同上ノ住所ニ送達スルヲ得可シ

第五百八十五條 負債者ノ動産差押ヲ爲ス使吏ハ證人二人ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ但シ其證人ハ佛蘭西人ニシテ丁年者タル可ク且雙方本人及ヒ使吏ノ從兄弟ニ至ル迄ノ血屬又ハ姻屬ノ親タル可カラズ又其僕婢タル可カラズ

使吏ハ其差押ノ調書ニ證人ノ姓名職業住所ヲ記シ且其證人ハ調書ノ正本及ヒ副本ニ姓名ヲ手署ス可シ但シ差押ヲ訴ヘタル本人ハ差押ノ場所ニ出ルヲ許サズ

第五百八十六條 前條ノ調書ヲ記スルニ付テハ呼出狀ヲ記スル法式第六十一ニ循フ可シ但シ負債者ノ居所ニ於テ動産差押ヲ爲ス時ハ再見合セニ要決ノ旨ヲ附記ス可シ

第五百八十七條 負債者居所ノ戸ノ閉テタル時又ハ其戸ヲ開クヲ肯セサル時ハ使吏其戸前ニ番人ヲ置キ負債者ノ竊ニ動産ヲ運出ス

ルヲ防キ即時ニ自カラ治安裁判役ノ所ニ至リ又其裁判役ノ在ラサ
ル時ハ巡卒長ノ所ニ至リ又巡卒長ノ在ラサル邑ニ於テハ邑長ノ所
ニ至リ又邑長ノ在ラサル時ハ其輔佐役ノ所ニ至リ此等ノ官吏ヲ伴
ヒ來リ其面前ニテ其戸ヲ開キ又動産ヲ差押ヘタル順序ニ從ヒ鎖鑑
ヲ用ヒタル動産ヲ開ク可シ

其立會ノ官吏ハ別ニ其調書ヲ記スルニ及ハス唯使吏ノ調書ニ姓名
ヲ手署ス可シ但シ其使吏ハ動産差押ノ事ニ付キ調書一通ノミヲ記
ス可シ

第五百八十八條 其調書ニハ差押タル物件ヲ詳細ニ記列シ若シ商賣
品アル時ハ其種類ニ因テ之ヲ度量ス可シ

第五百八十九條 金銀ノ器具ハ其種類ト性合ノ記號トヲ記シ且之ヲ
秤ル可シ

第五百九十條 貨幣アル時ハ其高ト種類トヲ記シ使吏ヨリ之ヲ預ル
可キ官署ニ納ム可シ但シ差押ヲ爲ス者ト差押ヲ受ケタル者ト相協
議シテ他ノ場所ニ其貨幣ヲ預ク可キヲ別段定メタル時ハ格別ナ
リトス

第五百九十一條 財産差押ヲ受クル者其場所ニ在ラスシテ家具類ヲ
開クヲ拒ム者アル時ハ使吏之ヲ開ク可キヲ立會ノ官吏ニ告ク
可シ若シ書附類アル時ハ使吏此等ノ書面類ヲ一束ニナシテ封印ヲ
爲ス可キヲ立會ノ官吏ニ求ム可シ

第五百九十二條 左ノ物件ハ之ヲ抵償トシテ差押ユ可カラズ
第一 用方ニ因テ不動産ナリト爲ス物件 民法第五百二十
四條以下見合セ

第二 差押ヲ受クル者ノ爲メニ必要ナル臥床及ヒ其家ニアル子
ノ臥床并ニ差押ヲ受クル者ノ現ニ著スル衣服

第三 其者ノ職業ヲ爲スニ必要ナル三百フランクノ價ニ至ル迄ノ書籍但シ其書籍ヲ擇ムコトハ本人ノ意ニ任ス可シ

第四 學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ自カラ行フ爲メニ必要ナル器具但シ其價三百フランクニ至ル迄ニシテ且本人ノ擇ム所ヲ殘シ置ク可シ

第五 士卒ノ衣服及ヒ帶身ノ物但シ其物ハ兵則ト本人ノ等位トニ從フ可シ

第六 工丁ノ其自己ノ職業ヲ爲スニ必要ナル器具

第七 本人及ヒ其家族ノ一月間用フルニ必要ナル粉子及ヒ其他ノ飲食器

第八 本人ノ擇ムニ任セ牛一頭又ハ羊三頭又ハ山羊二頭并ニ其獸類ノ一月間ノ飲食品及ヒ寢蓐ト爲ス可キ藁并穀草類

第五百九十三條 前條ニ記列シタル物件ハ官ヨリ貸フタル債ニ付テモ之ヲ抵償トシテ差押ニ可カラム然レ差押ヲ受ケタル者ノ爲メ必要ナル飲食料ヲ給與シタル價高ヲ拂ハシムル爲メ又ハ前條ノ物件ヲ製造シタル者及ヒ賣渡シタル者ニ其價高ヲ拂ハシムル爲メ又ハ此等ノ物件ヲ買入レ製造シ或ハ修復スル爲メ金高ヲ貸シタル者ニ其價ヲ爲サシムル爲メ又ハ此等ノ物件ヲ用ヒテ植付ヲ爲シタル土地ノ借賃及ヒ收納物ヲ土地ノ所有者ニ納メシムル爲メ又ハ此等ノ物件ノ屬シタル製造物風車水車榨木ノ借賃ヲ拂ハシムル爲メ又ハ差押ヲ受クル者ノ家ノ借賃ヲ拂ハシムル爲メ又ハ此等ノ物件ト雖モ抵償トシテ差押ニ可カラズ

前條ノ第二ニ記シタル物件ハ如何ナル種類ノ負債ヲ償ハシムル爲メト雖モ之ヲ差押ニ可カラズ

第五百九十四條

土地ノ植附ヲ爲スニ必要ナル獸類及ヒ器具ヲ差押

ハシル時ハ治安裁判役差押ヲ爲ス者ノ願ニ因リ其土地ノ所有者并

ニ差押ヲ受ケタル者ヲ呼出シテ其申述ヲ聽キタル上又ハ呼出シテ

猶出席セザル上ニテ其土地ノ植附ヲ管掌スル者ヲ別段任ス可シ

第五百九十五條

前ニ記シタル差押ノ調書ニハ其差押タル物件ヲ賣

拂フ可キ期日ヲ附記ス可シ

第五百九十六條

差押ヲ受ケタル者其物件ノ預リ人ヲ立テ其預リ人

其預リタル物件ノ價ヲ償ヒ得可キ家産ヲ有スル證アリテ且其者差

押ノ時直ニ自カラ其物件ヲ預カラント述フルニ於テハ使吏其者

ヲ其物件ノ預リ人ト爲ス可シ

第五百九十七條

差押ヲ受ケタル者其物件ノ預リ人ヲ立テタルト雖

モ其預リ人前條ニ記シタル家産ヲ有セス且前條ニ記シタル如ク即

時ニ其物件ヲ預ル可キヲ述ヘサル時ハ使吏別ニ其預リ人ヲ任ス
可シ

第五百九十八條

差押ヲ爲ス者及ヒ其配偶者又ハ其再從兄弟ニ至ル

迄ノ血屬及ヒ姻屬ノ親并ニ其僕婢ハ差押ヘタル物件ノ預リ人トナ

ルヲ得ス然レ差押ヲ受ケタル者其配偶者其血屬及ヒ姻屬ノ親及

ヒ僕婢ハ自カラ其物件ノ預リ人タル可キヲ承諾シ且差押ヲ爲ス

者モ亦之ヲ承諾シタル時ハ其物件ノ預リ人トナルヲ得可シ

第五百九十九條

差押ノ調書ハ直ニ其場所ニテ記シ同上ノ預リ人

其正本并副本ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ其預リ人姓名ヲ手署スルコ

能ハサル時ハ其旨ヲ記シ且其副本一通ヲ其預リ人ニ渡シ置ク可シ

第六百條

暴行脅迫ヲ爲シテ同上ノ預リ人ヲ任スルヲ妨ケ又ハ差

押タル物件ヲ盜取ル者ハ治罪法ニ記シタル如ク其罪犯ノ訴ヲ受ク

可シ

第六百一條 負債者ノ住所ニテ其物件ヲ差押ヘタル時ハ調書ノ正本ニ姓名ヲ手署ス可キ數人ノ姓名ヲ手署シタル其副本一通ヲ其場所ニテ差押ヲ受ケタル者ニ渡ス可ク又其者其場所ニアラサル時ハ邑長又ハ其輔佐役及ヒ戸ノ閉チタル時之ヲ開クニ付テノ立會ヲ爲シタル官吏ニ其副本一通ヲ渡シ置ク可シ但シ此等ノ官吏ハ其正本ニ捺印ヲ爲ス可シ

第六百二條 差押ヲ受クル者ノ住所外ニ於テ其在ラサル時差押ヲ爲シタルニ於テハ同上ノ調書ノ副本ヲ其日ニ其者ニ送達ス可シ但シ其者隔遠ノ地ニ在ル時ハ路程三ミリヤメートル毎ニ一日ヲ増ス可シ

此手續ヲ爲サル時ハ差押ヲ爲ス者其副本ヲ送達シタル日ニ至ル

迄ノ物件預リ人ヘノ謝金ヲ擔當ス可ク且其副本送達ノ日ヨリ差押ヘタル物件ヲ賣拂フ可キ期限ヲ數フ可シ

第六百三條 預リ人ハ其預リタル物件ヲ自カラ用ヒ又ハ人ニ貸渡ス可キ得可カラズ若シ此禁ヲ犯シタル時ハ其謝金ヲ得可キノ權ヲ失ヒ且差押ヲ爲シタル人ニ損失ノ償ヲ拂フ可シ若シ之ヲ拂ハサルニ於テハ禁錮ヲ受ク可シ

第六百四條 預リ人ノ預リタル物件ニ入額ヲ生スル時ハ其預リ人其入額ヲ算計ス可シ若シ之ヲ算計セサル時ハ禁錮セラル可シ

第六百五條 賣拂ノ期日ニ至リ差押タル物件ヲ別段ノ差支ナクシテ賣拂ハサル時ハ預リ人其職ヲ退カント求ムルコトヲ得可シ又賣拂ノ期日ニ至リ差支アリテ其賣拂ヲ爲サル時ハ差押ヲ爲シタル時ヨリ二月ノ後ニ至リ預リ人其職ヲ退カント求ムルコトヲ得可シ但シ是

迄ノ預リ人其職ヲ退キタル時ハ差押ヲ爲シタル者更ニ他ノ預リ人
ヲ任ス可シ

第六百六條 預リ人其職ヲ退カント欲スル時ハ差押ヲ爲シタル地ノ
初告裁判所ニ差押ヲ爲シタル者ト之ヲ受ケタル者トヲ呼出シ至急
吟味 此至急吟味ハ前ニ記スル所ノ急速吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ
爲ス可シ但シ裁判所ニテ其退職ノ願ヲ許シタル時ハ雙方本人立會
ノ上差押タル物件ヲ調書ト照合セ取調フ可シ

第六百七條 預リ人其職ヲ退クノ訴ハ差押ヲ受ケタル者ノ故障ヲ述
フルニ管セズ之ヲ裁判ス可シ但シ其故障ヲ述フル所ハ至急吟味 同
ノ法式ヲ以テ別ニ裁判ス可シ

第六百八條 差押タル物件又ハ其一部ノ所有者ナリト述フル者ハ其
旨ヲ其物件ノ預リ人ニ書面ヲ以テ告知シ且差押ヲ爲シタル者ト之

ヲ受ケタル者トニ其述フル所ノ趣意ト其證據トヲ附記シタル呼出
狀ヲ送リテ其物件ノ賣拂ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ但シ此等
ノ手續ヲ爲サ、ル時ハ其述フル所ノ効ナカル可シ

其述フル所ハ差押ヲ爲シタル地ノ裁判所ニテ急速吟味ノ法式ヲ以
テ之ヲ裁判ス可シ

若シ其故障ヲ述フル者負訴訟トナル時差押ヲ爲シタル者ノ爲メ損
失アルニ於テハ其者ニ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第六百九條 差押ヲ受ケタル者ノ債主 差押ヲ爲ス債主トハ如何ナ
ル緣由アルヲ問ハス其負債者ノ物件ヲ賣拂フテ得タル價高ノ分派
ヲ得ント要ムルコトヲ得可シ又其分派ヲ得ント述フル書面ニハ
其緣由ヲ記シテ之ヲ差押ヲ爲シタル者ト使吏又ハ其他ノ賣拂ヲ爲
ス可キ官吏トニ送達シ且其分派ヲ要ムル者差押ヲ爲ス地ニ住セサ

ル時ハ別段其地ニ住所ヲ擇ミタル旨ヲ告知ス可シ但シ其分派ヲ要ムル者此等ノ手續ヲ爲サ、ル時ハ其分派ヲ要ムル書面ノ効ナク且使吏ニ對シ損失ノ償ヲ拂フ可キノ道理アル時ハ之ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

第六百十條 前條ニ記シタル分派ヲ要ムル債主ハ差押ヲ受ケタル負債者ヨリ得可キ物件アルノ言渡ヲ得可キ爲メ其負債者ニ對シ訴テ爲スノ外總テ訴ヲ爲ス可カラヌ又差押ヲ爲シタル債主及ヒ負債者ハ物件賣主ニ因リ得タル價高ヲ分派セントスル時其分派ヲ要ムル債主ノ之ヲ要ムル緣由ナキヲ述フルノ外其分派ヲ要メタル債主ニ對シ訴ヲ爲ス可カラヌ

第六百十一條 使吏差押ヲ爲スタメ出張シタル時既ニ差押ヲ爲シタル者アリテ其者物件ノ預リ人ヲ任シタルニ於テハ再ヒ其差押ヲ爲

ス可カラヌ然レ使吏ハ其預リ人ヨリ調書ヲ受取リ其調書ノ目錄ト物件トヲ照合セ其遺脱シタル物件ハ之ヲ差押ヘ以前差押ヲ爲シタル者ニ總テノ物件ヲ八日內ニ賣拂フ可キヲ要ム可シ但シ其照合ノ調書アル時ハ賣拂ニ因リ得タル價高ノ分派ヲ得ント求メタルニ等シキ効アリト爲ス可シ

第六百十二條 差押ヲ爲シタル債主後條ニ記シタル期限内ニ其差押ヘタル物件ヲ賣拂ハサル時ハ裁判言渡ノ如ク執行フ可キ證書ヲ有スル他ノ債主差押ヲ爲シタル債主ニ賣拂ノ催促ヲ爲シタル後別段其者ノ權ニ代ル可キノ訴ヲ爲サスシテ預リ人ヨリ調書ヲ受取リ其調書ノ目錄ト物件トヲ照合セ然レ後之ヲ賣拂フヲ得可シ

第六百十三條 負債者ニ其物件差押ノ書面ヲ送達シタル日ト賣拂ノ日トノ間ニハ八日ヨリ少カラサル日數ヲ隔ツ可シ

第六百十四條 負債者ノ物件差押ノ書面ニ記シタル期日ヨリ更ニ他

ノ日ニ賣拂ヲ爲ス時ハ賣拂ヲ爲スヨリ前一日ヲ隔テ別段其負債者
ヲ呼出ス可シ但シ其負債者ノ住所ト賣拂ノ場所トノ間三ミリヤメ
トトル毎ニ一日ヲ増ス可シ

第六百十五條 物件賣拂ニ因リ得タル價高ノ分派ヲ得ント要ムル債
主ハ別段之ヲ其賣拂ノ場所ニ呼出ス可シ及ハス

第六百十六條 賣拂ノ前ニ爲ス可キ照合ノ調書ニハ差押タル物件ヲ
別段記列スルニ及ハス唯遺脱シタル物アル時ハ之ヲ記ス可シ

第六百十七條 其賣拂ハ最近ノ市場ニ於テ其市場ノ常例ノ日刻又ハ
日曜日ニ之ヲ爲ス可シ然レ裁判所ヨリ其時ノ模様ニ因リ更ニ利益
アル可キ他ノ場所ニ於テ其賣拂ヲ爲スヲ許スヲ得可シ○何レノ
場合ニ於テモ其賣拂ヲ爲スヨリ一日前ニ差押タル動産所在ノ地ニ

難賣ノ報知書一通ヲ貼附シ邑廳ノ門ニ其一通ヲ貼附シ其地ニ市場
アル時ハ其市場又市場ナキ時ハ最近ノ市場ニ其一通ヲ貼附シ治安
裁判所ノ訟廳ノ門ニ其一通ヲ貼附シ總テ四通ヲ貼附ス可シ若シ又
動産所在ノ市場ニ非サル所ニテ之ヲ賣拂フ時ハ其賣拂ヲ爲ス場所
ニモ更ニ一通ヲ貼附ス可シ○又新聞紙ヲ刊行スル都府ニ於テハ其
賣拂ノ旨ヲ更ニ新聞ニ記入シテ之ヲ公ケニ爲ス可シ

第六百十八條 貼附書ニハ賣拂ノ場所及ヒ日刻ト物品ノ種類トヲ記
ス可シ但シ其各物品ノ模様ヲ詳細ニ記スルニ及ハス

第六百十九條 使吏ハ貼附ヲ爲シタルヲ書面ニ記シ其書面ヲ貼附
書ノ寫ト共ニ差押ヲ受ケタル者ニ送達シテ其貼附ヲ爲シタル旨ヲ
證ス可シ

第六百二十條 十噸以下ノ海船河船并ニ船中又ハ其他ノ場所ニ備ヘ

ナル水車及ヒ其他ノ動シ可キ建造物ヲ糶賣ト爲ス可キ時ハ此等ノ
 物件所在ノ港又ハ波戸場ニテ其糶賣ヲ爲ス可シ〇其糶賣ヲ爲スニ
 ハ前條ノ如ク少クトモ四通ノ貼附書ヲ出シ且其物件所在ノ地ニ三
 日相繼テ三次ノ公告書ヲ出ス可シ但シ最初ノ公告ハ負債者ニ物件
 差押ノ書面ヲ送達シタルヨリ八日ノ後ニ非レハ之ヲ爲ス可カラス
 ○新聞紙ヲ刊行スル都府ニ於テハ其三次ノ公告ニ換ヘ賣拂前一月
 間ニ三次其糶賣ノ旨ヲ新聞紙ニ記載ス可シ

第六百二十一條 三百フラン以上ノ價アル金銀器指環寶玉類ハ市
 場又ハ其物件所在ノ地ニ前條ニ記シタル四通ノ貼附書及ヒ三次ノ
 公告ヲ爲サスシテ之ヲ賣拂フ可カラス但シ此等ノ物件ハ金銀器ニ
 付テハ其實價ヨリモ更ニ低價ニ之ヲ賣拂フ可カラス又指環并ニ寶
 玉類ニ付テハ評價人ノ定メタル價ヨリモ更ニ低價ニ之ヲ賣拂フ可

カラス〇又新聞紙ヲ刊行スル都府ニ於テハ三次ノ公告ニ換テ其新
 聞紙ニ記載スルノ前條ニ等シトス

第六百二十二條 差押タル物件ノ價差押ヲ爲スノ原由タル負債ノ總
 高ニ過ル時ハ其總高ト裁判費用ノ高トニ至ル迄ノ外其物件ヲ賣
 拂フ可カラス

第六百二十三條 調書ニハ差押ヲ受ケタル者其賣拂ノ場所ニ立會
 爲シタル有無ヲ記ス可シ

第六百二十四條 其物件ハ最モ高價ニ買受ケント爲ス者ニ現金ニテ
 賣渡ス可シ若シ其者現金ニテ之ヲ買受クルト能ハサル時ハ其者ノ
 引受ヲ以テ即時ニ再ヒ之ヲ糶賣ニ爲ス可シ一度最モ高價ニテ買受
 ケントセシ者若シ其價
 云 糶賣ノ價ヨリ少ナキ時ハ右ノ者ヲシテ其價ノ不足ヲ償ハシムル

第六百二十五條 評價人及ヒ使吏ハ糶賣ニテ得タル金高チ己レニ擔當シ且其調書ニ買入人ノ姓名住所ヲ附記ス可シ但シ此等ノ官吏ハ買入人ヨリ其買入ノ金高ヨリ更ニ餘分ヲ受取ル可カラズ若シ之ヲ受取ル時ハ受贓ノ罰ヲ受ク可シ

○第九章 現在土地ニ生スル所ノ收納物ヲ負債ノ抵償トシテ差押ユル事

第六百二十六條 現在土地ニ生スル所ノ收納物ノ差押ハ其成熟ノ時ヨリ前六週内ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ且其差押ヲ爲スヨリ一日前ニ要決ノ書ヲ送ル可シ

第六百二十七條 同上ノ差押ノ調書ニハ其地ノ名所有者ノ名其大サ其位置并ニ其隣地ノ中少クトモニ方ノ所有者ノ名及ヒ收納物ノ種類ヲ記ス可シ

第六百二十八條 田野ノ看守人ハ第五百九十八條ニ記シタル者ニ非

カル時ハ之ヲ差押タル收納物ノ預リ人ト爲ス可シ若シ其看守人其地ニ在カル時ハ差押ノ旨ヲ其者ニ別段報知スル書面ヲ送り且其地ノ邑長ニ其書面ノ副本ヲ渡シ置キ其正本ハ邑長之ニ檢印ス可シ其土地相隣ノル二箇ノ邑ニ跨リタル時ハ田野ノ看守人ニ非サル者一人ヲ任シテ其土地ノ收納物ノ預リ人ト爲ス可シ又差押ノ調書ノ檢印ハ二箇ノ邑中ニテ其地ノ首屋アル邑ノ長之ヲ爲シ若シ其首屋アラサル時ハ其土地ノ半ハ以上アル邑ノ長之ヲ爲ス可シ

第六百二十九條 賣拂ヲ爲スヨリ少クトモ八日前ニ差押ヲ受ケタル者ノ家ノ門戸ト邑ノ官署ノ門戸若シ其官署アラサル時ハ官ノ布令書ヲ貼附ス可キ場合ト其地ノ首タル市場若シ其市場ナキ時ハ最近ノ市場ト治安裁判所ノ訟庭ノ入口トニ賣拂ノ書面ヲ貼附シテ之ヲ

公ケヲ爲ス可シ

四七二

第六百三十條 貼附書ニハ賣拂ノ日刻場所差押ヲ受ケタル者及ヒ之ヲ爲シタル者ノ姓名居所土地ノ方積收納物ノ種類其地所在ノ邑ノ名ヲ記ス可シ但シ其他ノ事ハ之ヲ記スルニ及ハス

第六百三十一條 貼附書ニシタルコトヲ証スルニ付テハ此卷ノ第八章ニ記シタル如ク之ヲ爲ス可シ

第六百三十二條 賣拂ハ日曜日又ハ市ノ日ニ之ヲ爲ス可シ

第六百三十三條 其賣拂ハ其地ノ在ル所ニ於テ之ヲ爲シ又ハ差押タル物件ノ半ハ以上アル邑ニ於テ之ヲ爲ス可シ

又賣拂ハ其地ノ市場ニテ之ヲ爲スコトヲ得可シ若シ其市場アラサル時ハ最近ノ市場ニテ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第六百三十四條 前數條ニ記シタル以外ノ事ニ付テハ此卷ノ第八章

ノ規則ニ循フ可シ

第六百三十五條 賣拂ニ因リ得タル金高ハ此卷ノ第十一章ニ記シタル如ク之ヲ債主數人ニ分派ス可シ

○第十章 平民ヨリ渡ス可キ年金ヲ差留ル事

第六百三十六條 定數ノ元金ヲ貸シタル債又ハ不動産ヲ賣渡シ或ハ讓渡シタル債トシテ得可キ年金又ハ其他ノ債トシテ得可キ年金又ハ債ニ非スシテ得可キ年金ノ渡シ方ヲ差留ムルコトハ其年金ノ種類ノ畢生ノモノタルト無期ノモノタルトヲ問ハズ裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ證書ニ據テ之ヲ爲ス可シ○其差留ヲ爲スヨリ少クトモ一日前ニ負債者又ハ其住所ニ要決ノ書ヲ送ル可シ但シ其以前既ニ裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ證書ヲ送リタルコトナキ時ハ要決ノ書ニ添ヘテ其證書ヲ送ル可シ

五七二

第六百三十七條 債主ヨリ年金ヲ渡ス可キ者ニ其渡方差留ヲ爲スニハ書面ヲ送リテ之ヲ爲ス可シ但シ其書面ニハ通常ノ法式ノ外年金ヲ設ケ定メシ證書ノ大畧、年金ノ高、元金アルニ於テハ其元金、債主ノ貸金ノ證書、負債者ノ姓名、職業、居所、年金ヲ得可キ權ノ賣拂ヲ爲ス可キ裁判所ノ代書師ノ家ニ債主ノ住所ヲ擇ミヨル旨及ヒ渡方差留ヲ受ケタル者ニ其裁判所ニ出席シテ負債者ニ拂フ可キ年金ノ有無ヲ述フ可キヲ要ムル旨ヲ記ス可シ

第六百三十八條 負債者ニ物件渡方ノ差留ヲ受ケタル者ノ行フ可キ法式ニ付キ第五百七十四條第五百七十一條第五百七十二條第五百七十三條第五百七十四條第五百七十五條第五百七十六條ニ記シタル規則ハ年金拂方ノ差留ヲ受ケタル者ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ若シ年金拂方ノ差留ヲ受ケタル者其拂フ可キ年金ノ有無ヲ述ヘサ

ル時又ハ之ヲ述フルト雖モ相當ノ期限ヲ過セシ時又ハ其述フル所ノ證ヲ明白ニ爲ス可キノ裁判言渡ヲ受ケテ之ヲ爲サ、ル時ハ其時ノ模様ニ從ヒ其者年金ヲ拂フ可キノ義務ヲ免ソタル證ヲ立テサルニ因リ猶其義務アルノ旨渡ヲ受ケ又ハ其證ヲ述ヘサルニ或ハ之ヲ逕延シタルニ因リ或ハ其逕延ノ爲メ訴訟ノ手續ヲ爲シタルニ因リ債主ノ爲メニ生シタル損失ヲ償フ可キノ旨渡ヲ受ク可シ

第六百三十九條 佛蘭西本國內ニ住居セサル者ヨリ負債者ニ年金ヲ渡スニシテ債主ノ差留ル書面ハ其差留ヲ受クル者又ハ其住所ニ送達ス可シ且其裁判所ニ出席ス可キ期限ニ付テハ第七十三條ノ規則ニ循フ可シ 第五百六十條見合

第七二 第六百四十條 年金渡方差留ノ書面ヲ送リタル時ハ既ニ渡シ期限ニ至リシ年金并ニ債主數人ニ分派 第六百五十六條以下見合セ

限ニ至ル可キ年金ノ渡方ヲ差留タルノ効アリトス

第六百四十一條 債主年金渡方差留ノ書面ヲ送リタルヨリ三日ノ定期ニ年金ヲ拂フ可キ者ノ住所ト差留ヲ爲ス債主ノ住所トノ間五[ミ]リヤメートル毎ニ一日ヲ増加シ且其債主ノ住所ト年金ヲ受取ル可キ負債者ノ住所トノ間五[ミ]リヤメートル毎ニ一日ヲ増加シタル期限内ニ差留ヲ爲ス債主其差留ノ書面ヲ負債者ニ送リテ且糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲ス可キ日ヲ其負債者ニ告知ス可シ
年金ヲ拂フ可キ者佛蘭西本國外ニ住居スル時ハ其者ニ差留ノ書面ヲ送リ裁判所ニ出席ヲ要ムル期限ノ終リシ日ヨリ負債者ニ差留ノ書面ヲ送ル可キ期限ヲ數フ可シ

第六百四十二條 前條ニ定メタル如ク年金ヲ受取ル可キ負債者ニ差留ノ書面ヲ送ル可キ期限ノ終リタル後早クトモ十日内遅クトモ十日

五日内ニ年金拂方差留ヲ爲ス債主年金所得ノ權ノ賣拂ヲ管スル裁判所ノ書記局ニ糶賣ノ箇條書ヲ出ス可シ但シ此箇條書ニハ差留ヲ爲ス債主負債者差留ヲ受クル者ノ姓名職業居所年金ノ種類其高元金アルニ於テハ其高年金ヲ設ケ定メシ證書ノ日附并ニ大畧其年金拂方ノ保證トシテ不動産ヲ書入質ト爲スヲ約束シ其書入質ノ事ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル時ハ其記入ノ大略差留ヲ爲ス債主ノ代書師ノ姓名居所糶賣ヲ爲スニ付テノ箇條賣主即チ差留ヲ爲ス債主ニ附ケ直段此箇條書ヲ公ケニ爲ス可キ期日ヲ記ス可シ

第六百四十三條 同上ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ出シタルヨリ早クトモ十日遅クトモ二十日内ニ豫定シタル日ニ於テ裁判所ノ吟味ノ席ニテ其箇條書ヲ讀ミ上ケ之ヲ公ケニ爲シ且裁判所ヨリ之ヲ公ケニ爲シタルノ證書ヲ差留ヲ爲ス者ニ渡ス可シ

第六百四十四條 糶賣ノ箇條書ニ記スル諸件ニ付キ其管係アル者ヨリ申述ヲ爲シタル時ハ裁判役其中述ヲ箇條書ニ記入シテ直チニ其裁判ヲ爲シ且糶賣ヲ爲ス可キ日刻ヲ定ム可シ但シ其箇條書ヲ公ケニ爲スト糶賣ヲ爲ストノ間ノ期日ハ少クモ十日多クモ二十日ナリトス

糶賣ノ箇條書ニ管係アル者ノ申述ニ付キ裁判所ヨリ言渡シタル裁判ハ之ヲ其箇條書中賣主ノ附直段又ハ同上ノ申述ヲ記入シタル末ニ附記ス可シ

第六百四十五條 箇條書ヲ公ケニ爲シタル後糶賣ヲ爲スヨリ少ナクトモ八日前ニ其箇條書ノ抜書四通ニ糶賣ノ日ヲ記入シテ其一通ヲ負債者ノ住所ノ門戸又一通ヲ年金ヲ拂フ可キ者ノ住所ノ門戸又一通ヲ裁判所ノ表門又一通ヲ賣拂ヲ爲ス可キ地内ニテ最モ著シキ場

所ニ貼附ス可シ

第六百四十六條 前條ニ記シタル期限内ニ同上ノ抜書ニ記シタル所ヲ第六百九十六條ニ循ヒ諸般ノ裁判公告ヲ記ス可キ新聞紙ニ記入ス可シ

第六百四十七條 貼附ヲ爲シタルノ及ヒ新聞紙ニ記入シタルノハ第六百九十八條及ヒ第六百九十九條ニ記シタル所ニ循ヒ其證ヲ立ツ可シ又第六百九十七條及ヒ第七百條ノ場合ニ於テハ前ニ記シタルヨリ更ニ多數ノ貼附ヲ爲シ及ヒ更ニ多數ノ新聞紙ニ記載セシメ其費用ヲ裁判所費用中ニ加フルヲ得可シ

第六百四十八條 第七百一一條第七百二條第七百三條第七百四條第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條第七百十條第七百十一條第七百十二條第七百十三條第七百十四條第七百四十一條ニ不動産差押ノ事ニ付キ記シタ

ル規則及ヒ法式ハ年金ヲ得ルノ權ヲ糶賣ト爲スニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

第六百四十九條 若シ買入人糶賣ノ箇條書ニ違背スル時ハ其者ノ引受ヲ以テ再ヒ其糶賣ヲ爲シ 第六百二十四條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條ニ記シタル如ク處置ス可シ○然レ再ヒ貼附ヲ爲スト糶賣ヲ爲ストノ間ノ期日ハ五日ヨリ少カラヌ十日ヨリ多カラサル可シ且第七百三十六條ニ記シタル報告ハ更ニ糶賣ヲ爲ス日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ爲ス可シ

第六百五十條 負債者糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲ス前ノ訴訟ノ手續ヲ取消サント爲ス憑據ヲ述フルコトハ其箇條書ヲ公ケニ爲ス可キ日ヨリ少ナクトモ一日前ニ之ヲ爲シ又之ヲ公ケニ爲シタル後ノ訴訟ノ

手續ヲ取消サント爲ス憑據ヲ述フルコトハ糶賣ノ日ヨリ少クトモ一日前ニ之ヲ爲ス可シ若シ其期限ヲ過コス時ハ其取消ノ憑據ヲ述フルコトヲ得ス○負債者ハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメテ裁判所ニ出席スルコトヲ要メ裁判所ニテ其取消ノ憑據ヲ裁判ス可シ若シ裁判所ニテ其憑據ヲ却還スル言渡ヲ爲シタル時ハ直ニ糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲スコト取掛リ又ハ糶賣ヲ爲スコト取掛ル可シ

第六百五十一條 年金拂方差留ノ訴訟ニ付キ一方ノ者抗傳シテ受ケタル裁判言渡ハ其者ヨリ故障ヲ述フルコトヲ得ス○糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲ス前ノ訴訟ノ手續ニ付キ訴訟ノ本案ト附帶ノ事トヲ問ハス其取消ヲ求ムル憑據ノ裁判言渡ハ代書師其言渡書ノ送達ヲ受ケタルヨリ八日內又代書師ナキ時ハ本人又ハ其住所ニ送達ヲ受ケタ

ルヨリ八日内ニ之ヲ控訴ス可シ若シ其定期ヲ過クル時ハ其控訴ヲ爲スヲ許サス○負債者ハ控訴ヲ爲ス時嘗テ初告裁判所ニ於テ述ヘタルヨリ更ニ他ノ憑據ヲ述フルヲ得ス

控訴書ハ相手方ノ代書師ノ住所ニ送達シ又代書師ナキ時ハ相手方本人ノ眞ノ住所又ハ別段擇ミタル住所ニ送達シ又其一通ヲ初告裁判所ノ書記官ニ送呈シ書記官之ニ檢印ヲ爲ス可シ但シ控訴書ハ初告裁判所ノ裁判言渡ニ服セサル條件ヲ記ス可シ
第七百三十一條
第七百三十二條

見合

第六百五十二條

第一・訴訟ニ附帶スル事ヲ裁判スルニ非スシテ糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲シタル證書ヲ與フル言渡及ヒ糶賣ヲ爲ス可キノ言渡
第二・箇條書ヲ公ケニ爲シタル後ノ訴訟ノ手續ヲ取消サントス

ル憑據ニ付テノ言渡

此等ノ言渡ハ控訴ヲ爲スヲ許サス
第七百三十條見合

第六百五十三條

債主二人ニテ年金拂方ヲ差留メタル時ハ其二人中

先ニ差留ノ書面ヲ負債者ニ送達シタル者糶賣ノ手續ヲ爲ス可シ又其二人同時ニ其送達ヲ爲シタル時ハ其中先ニ裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キノ證書ヲ得タル者其手續ヲ爲ス可シ又其證書ヲ同時ニ得タル時ハ先ニ任ヲ得タル代書師ヲ用フル者其手續ヲ爲ス可シ

第六百五十四條

年金ヲ得ルノ權ヲ糶賣ニ爲シテ得タル金高ノ分派

ハ此卷第十一章ニ記スル如ク之ヲ爲ス可シ但シ此規則ヲ以テ共和政治立國第七年ブリュニール月十一日ノ法律前ノ書入質ノ權ヲ害ス可カラズ

第六百五十五條

第六百三十六條第六百三十七條第六百三十九條第

六百四十一條第六百四十二條第六百四十三條第六百四十四條第六百四十五條第六百四十六條第六百五十一條ニ記シタル法式ハ必ス之ニ循フ可シ若シ之ニ背ク時ハ其各條ニ記シタル諸件ノ効ナカル可シ

○第十一章

差押ヘタル物件ノ價高ヲ債主數人ニ分派スル事

第六百五十六條

差押ヘタル金高又ハ物件賣拂ノ價高ヲ以テ債主數人ニ償フコ不足ナル時ハ一月内ニ債主者ト債主數人ト其價高ノ分派ヲ協議ス可シ

第六百五十七條

負債者ト債主ト定期内ニ協議セサル時ハ管テ賣拂ノ手續ヲ爲シタル官吏八日内ニ己レノ得可キ謝金ヲ差引タル總賣拂金高ヲ官署ニ附託ス可シ但シ其金高ノ一部ヲ己レニ得ント求メシ者アル時ハ其求メヲ受ケタル儘コテ之ヲ官署ニ預ケ置ク可シ〇同

上ノ官吏ノ得可キ謝金ノ高ハ裁判役ノ調書ノ正本ニ記シ定メタル所ニ從フ可シ亦其副本ニモ其高ヲ記ス可シ

第六百五十八條

裁判所ノ書記局ニ分派ノ簿冊ヲ設ケ置キ差押ヘタル爲シタル債主ノ求メニ因リ又其債主ノ求メヲ爲サ、ル時ハ他ノ債主ノ求メニ因リ裁判所ノ上席人ヨリ掛リ裁判役ヲ任シテ其旨ヲ其簿冊ニ登記ス可シ但シ債主ノ求ムル所ハ之ヲ簡畧ニ簿冊ニ附記ス可シ

第六百五十九條

第六百五十六條及ヒ第六百五十七條ニ記シタル期限ノ終リシ後掛リ裁判役ノ言渡ニ從ヒ差押ヲ爲シタル者ニ非サル債主ハ其證書ヲ出ス可キノ招書ヲ受ケ負債者ハ其證書ヲ受取テ之ヲ檢査ス可シ且別段ノ道理アル時ハ其證書ニ付キ故障ヲ述フ可キノ招書ヲ受ク可シ

第六百六十條 差押ヲ爲シタル債主又ハ賣拂ヲ爲シタル官吏ニ糶賣金高ノ分派ヲ要メタル債主等ハ前條ノ招書ヲ受取リタルヨリ一月内ニ其證書類ト分派ヲ求メ且代書師ヲ任シタル旨ヲ記シタル書面トヲ掛リ裁判役ニ出ス可シ若シ之ヲ出サ、ル時ハ其分派ヲ得ルノ權ヲ失フ可シ

第六百六十一條 分派ヲ要ムル書面ニハ債主ノ特權アル旨ヲ附記ス可シ但シ土地又ハ家屋ノ所有者ハ其貸賃ヲ得可キ特權ヲ行フコトニ付キ先ニ裁判ヲ受ク可キ爲メ負債者并ニ債主ノ代書師中ニテ最モ先ニ其職ニ任シタル者ヲ掛リ裁判役ノ至急吟味第八百六ノ席ニ呼出ヌコトヲ得可シ

第六百六十二條 訴訟費用ノ償ハ土地又ハ家屋ノ所有者ノ得可キ貸賃ヲ除ク外他ノ貸高ノ償ヨリ先ニ之ヲ得可シ

第六百六十三條 前ニ記シタル定期ノ終リシ時又數人ノ債主皆其證書類ヲ出シタルニ於テハ其定期ニ至ラサル前掛リ裁判役其調書ノ紙尾ニ債主ノ證書ニ從ヒ分派ヲ爲ス割合ヲ附記シ債主中ニテ其分派ノ手續ヲ求ムル者其代書師ヨリ他ノ債主并ニ負債者ニ調書ノ終成シタル旨ヲ報告シ且此等ノ者ニ十五日内ニ其調書ヲ受取リ其證書ニ付キ故障ヲ述フ可キコトアル時ハ之ヲ述フ可キ旨ヲ要ム可シ

第六百六十四條 債主及ヒ負債者十五日ノ期限内ニ掛リ裁判役ヨリ其調書ヲ受取ラサル時ハ別ニ裁判言渡ナクシテ此等ノ者其故障ヲ述フ可キノ權ヲ失フ可シ但シ此場合ニ於テハ此等ノ者ノ述フル所ヲ別段調書ニ附記スルニ及ハス

第六百六十五條 前條ニ記シタル者調書ニ付キ故障ヲ述ヘサル時ハ掛リ裁判役其調書ヲ終成シテ金高ノ分派ヲ決定シ數人ノ債主各其

權利ノ正實ナル懸ヲ爲シタル上掛リ裁判役ヨリ書記官ニ此等ノ債主ニ金高ノ分派ヲ得可キ書面ヲ渡ス可キ旨ヲ言渡ス可シ

第六百六十六條 若シ調書ニ付キ故障ノ起ル時ハ掛リ裁判役ヨリ其故障ヲ裁判所吟味ノ席ニテ裁判ス可キ旨ヲ言渡シ債主中ノ一人其代書師ヲシテ他ノ債主ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ別ニ他ノ法式ナクシテ直チニ裁判吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ

第六百六十七條 故障ヲ述ヘタル債主故障ノ申述ヲ受ケタル債主債者并ニ他ノ債主等ノ代書師中ニテ最モ先ニ職ニ任シタル者ノミ其吟味ノ席ニ出ツ可シ但シ其訴訟ノ手續ヲ爲シタル債主ハ其故障ヲ述ヘ又ハ故障ノ申述ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ吟味ノ席ニ呼出スニ及ハス

第六百六十八條 其裁判言渡ハ掛リ裁判役ヨリ申立ヲ爲シ且檢察官

其説ヲ述ヘタル上ニテ之ヲ爲ス可シ

第六百六十九條 其裁判言渡ノ控訴ハ代書師ノ住所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十日内ニ之ヲ爲シ控訴書ヲ相手方ノ代書師ノ住所ニ送達ス可シ但シ其控訴書ニハ相手方ヲ控訴院ニ呼出スヲ并ニ初告裁判所ノ言渡ニ服セサル條件ヲ記ス可シ○其控訴ハ控訴院ニテ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第六百六十七條ニ記シタル數人ニ非レハ控訴ノ席ニ呼出ス可カラズ

第六百七十條 控訴ヲ爲カ、ル時ハ之ヲ爲ス可キ期限ノ終リシ後又控訴ヲ爲シタル時ハ控訴院ノ言渡書ヲ代書師ノ住所ニ送達シタル後掛リ裁判役第六百六十五條ニ記シタル如ク其調書ヲ終成ス可シ
第六百七十一條 調書ヲ終成シタルヨリ八日内ニ債主數人掛リ裁判

役ノ面前ニテ各其權利ノ正實ナル誓ヲ爲シタル上書記官ヨリ其債主ニ金高ノ分派ヲ得可キ書面ヲ渡ス可シ

第六百七十二條 負債ノ息銀ハ同上ノ調書ニ付キ故障ナキ時ハ其調書ヲ終成シタル日ヨリ之ヲ拂フニ及ハス又故障アル時ハ其裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ之ヲ拂フニ及ハス又控訴ヲ爲シタル時ハ控訴院ノ裁判言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十五日ノ後ニ至リテ之ヲ拂フニ及ハス

○第十二章 不動産ヲ抵償トシテ差押フル事

第六百七十三條 不動産ヲ抵償トシテ差押フルニハ先ツ負債者又ハ其住所ニ要決ノ書ヲ送ル可シ但シ其書ノ初メニハ裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ旨ヲ記シタル證書ヲ不動産差押ヲ爲スノ憑據トシテ記入ス可シ○又其要決ノ書ニハ債主其差押ヲ管スル裁判所ノ管轄内

ニ住セサルニ於テハ別段其管轄内ニ住所ヲ擇ミ設ケタル旨ト負債者猶其債ヲ拂ハサルニ於テハ其不動産ヲ差押フ可キ旨トテ記ス可シ但シ不動産差押ノ場合ニ於テハ其要決ノ書ヲ届ケル使吏證人ノ立會ヲ要セス唯其書ヲ届ケタル日ノ内ニ其地ノ邑長ヲシテ其正本ニ捺印ヲ爲サシム可シ

第六百七十四條 不動産ノ差押ハ要決ノ書ヲ届ケタルヨリ三十日ノ後ニ非レハ之ヲ爲ス可カラズ若シ其債主負債者ニ要決ノ書ヲ届ケタルヨリ後九十日ヲ過テ猶其差押ヲ爲サ、ル時ハ前條ノ法式ニ循ヒ更ニ要決ノ書ヲ届ケスシテ其差押ヲ爲ス可カラズ

第六百七十五條 不動産差押ノ調書ニハ總テノ呼出狀ニ記ス可キ諸件ノ第六十一條ノ外更ニ左件ヲ記ス可シ

第一 不動産差押ヲ爲スノ憑據タル裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ

證書ノ大畧

第二 使更其差押ヲ可キ不動産ノ場所ニ到リシ事

第三 差押ヘタル不動産ノ模様即チ家屋ナレハ其所在ノ郡ノ名
邑ノ名街衢ノ名家屋ニ番號アル時ハ其番號又番號ナキ時ハ少
シトモ二方ノ隣人ノ姓名

又土地ナレハ其内ニ在ル建築物ノ模様土地ノ種類其大概ノ方
積之ヲ借受ケ耕作スル者アル時ハ其姓名不動産所在ノ郡及ヒ
邑ノ名

第四 差押ヘタル不動産ノ地稅目錄ノ詳細ナル寫

第五 差押ノ訴訟ヲ管スル裁判所ノ名

第六 差押ヲ爲ス債主代書師ヲ任シ其代書師ノ家ニ別段住所ヲ
擇ミタル事

第六百七十六條 不動産差押ノ調書ハ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル前

ニ不動産所在ノ邑ノ長其檢印ヲ爲ス可シ若シ又其差押ヘタル不動
産數邑ニ跨ル時ハ其邑長數人共差押ノ調書中ニテ各己レノ管轄地内
ニアル不動産差押ヲ記シタル部分ニ檢印ヲ爲ス可シ

第六百七十七條 不動産差押ノ一ハ其調書ヲ終成シタル日ヨリ十五
日内ニ之ヲ負債者ニ報知ス可シ但シ負債者ノ住所ト差押ノ訴訟ヲ
管轄スル裁判所トノ間ニ五「ミ」リヤメートル毎ニ更ニ一日ノ期日ヲ
増ス可シ○其報知書ノ正本ハ之ヲ送達シタル地ノ邑長其日内ニ檢
印ヲ爲ス可シ

第六百七十八條 不動産差押ノ調書及ヒ報知書ハ其報知ヲ爲シタル
ヨリ遲クトモ十五日内ニ書入質役所所在ノ郡中ノ不動産ニ付キ各
其役所ノ簿冊ニ登記ス可シ

第六百七十九條 書入質ノ管轄者差押ノ調書ヲ受取リタル時直ニ之
ヲ其簿冊ニ登記スルヲ得サル時ハ其官吏其受取リタル調書ノ正本
ニ其登記ヲ延ス可キ年月日時ヲ附記ス可シ若シ二箇ノ差押ノ調書
ヲ登記スルノ互ニ相觸ル、時ハ官吏ノ先ニ受取タル調書ヲ先ニ登
記ス可シ

第六百八十條 既ニ一度不動産差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登
記シタル後更ニ其不動産ニ付キ差押ノ調書ヲ登記セント願フ者ア
ル時ハ書入質ノ管轄者前ノ調書ノ日附差押ヲ爲シタル者及ヒ差押
ヲ受ケタル者ノ姓名住所職業其差押ノ訴ヲ管スル裁判所ノ名差押
ヲ爲シタル者ノ代書師ノ姓名其調書ヲ簿冊ニ登記シタル日附ヲ第
二次ノ調書ノ端ニ附記シテ再度ノ登記ヲ辭シタルヲ證ス可シ
第六百八十一條 債主ノ差押ヘタル不動産ヲ負債者ヨリ人ニ貸貸シ

第六百八十二條 不動産差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シタ

タルノ時ハ負債者其不動産賣拂ノ時迄其不動産ヲ占有スルヲ
得可シシテ之ヲ裁判所ヨリ任テ受ケシ預リ人ト看做ス可シ但シ
債主ヨリ別段裁判所ニ訴ヘ裁判所ニテ至急吟味ノ上負債者ニ其不
動産ヲ占有スルヲ許サハル旨ヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス
又負債者其不動産賣拂ノ時迄之ヲ占有スル時ト雖モ債主ハ別段裁
判所ニ訴出シ至急吟味ヲ受ケシ上ニテ上席人ノ言渡書ヲ得其土地
ニ生スル穀草ノ全部又ハ一部ヲ刈リ又ハ樹果ノ全部又ハ一部ヲ摘
取シテ之ヲ賣拂フヲ得可シ
其賣拂ハ糶賣ノ法ヲ用ヒ又ハ其他裁判所上席人ノ定メタル法ヲ用
ヒ且其定メタル期限内ニ之ヲ爲ス可シ但シ其代金ハ之ヲ官署ニ預
シ可シ

ル後其不動産ヨリ得タル天然又ハ人工ノ利益又ハ其代金ハ之ヲ不
動産ト共ニ差押へ後ニ不動産ヲ賣拂フタル代金ト共ニ書入質ノ順
序ニ從ヒ之ヲ債主ニ分派ス可シ

第六百八十三條 不動産ヲ差押ヘラレシ負債者ハ樹木ヲ伐リ又ハ其
不動産ヲ毀傷ス可カラズ若シ其禁ヲ犯ス時ハ債主ニ損失ノ償ヲ爲
ス可シ又其償ヲ爲サル時ハ禁錮ヲ受ク可シ但シ刑法第四百條及
ヒ第四百三十四條ニ記シタル刑ニ處セラル可キノ罪ヲ犯シタル時
ハ格別ナリトス

第六百八十四條 負債者ヨリ不動産ヲ賃借シタル者アリト雖モ負債
者要決ノ書ヲ受取ル前ニ其賃借契約ノ日附體ナル者トナラサル時
ハ債主ノ求メニ因リ又ハ不動産ノ糶賣ノ時買入ル、者ノ求メニ從ヒ
其契約ヲ取消ス可シ得可シ

第六百八十五條 土地及ヒ家屋ノ借賃ハ差押ノ調書ヲ書入質役所ノ
簿冊ニ登記シタル時ヨリ之ヲ不動産ト共ニ差押へ書入質ノ順序ニ
從ヒ不動産ノ代金ト共ニ債主ニ分派ス可シ○賣拂ノ手續ヲ爲ス債
主又ハ他ノ債主ハ土地又ハ家屋ノ借主ニ其借賃ヲ負債者ニ渡ス可
カラサル書面ヲ送り其書面ヲ送りシヲ以テ即チ其渡方差留ヲ爲シ
タルノ効ヲ生ス可シ又其借主ハ債主其書入質ノ順序ヲ以テ償ヲ得
可キ證書ニ循ヒ其借賃ヲ債主ニ渡シ又ハ之ヲ金高ヲ預ル可キ官署
ニ預ルルニ非サレハ其義務ヲ免ル、ヲ得ス但シ其借賃ヲ官署ニ
預ルルハ本人ヨリ之ヲ官署ニ願フテ之ヲ爲シ又ハ債主ノ要メニ
從テ之ヲ爲ス可シ○若シ債主ヨリ同上ノ借主ニ借賃ノ渡方差留ヲ
爲サル時ハ借主其借賃ヲ負債者ニ渡シテ其義務ヲ免ル、ヲ得可
シ負債者ハ裁判所ヨリ任セラレタル預リ人タルニ因リ其借賃ヲ債

主ニ算還ス可キノ義務アリ

第六百八十六條 負債者ハ債主ノ其不動産差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記セシ時ヨリ其不動産ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與ス可カラズ但シ之ヲ賣拂ヒ又ハ贈與シタル時ハ別段裁判所ヨリ之ヲ取消ス可キノ言渡ナシト雖モ其効ナカル可シ

第六百八十七條 然レ其不動産ヲ買入レタル者不動産糶賣ノ爲メ預定シタル日ヨリ前ニ當テ差押ヲ爲セシ債主ト其他自己ノ書入質ノ權ヲ嘗テ役所ノ簿冊ニ記入ヒシメシ債主トニ拂フ可キ元金及ヒ息銀并ニ裁判所ノ費用ト相當ル金高ヲ官署ニ預ク且其預ケタル旨ヲ債主等ニ報告スル時ハ其不動産ノ賣買契約ノ効アリトス

第六百八十八條 前條ノ如ク差押ヲ受ケタル不動産ヲ負債者ヨリ買入レタル者官署ニ預ケタル金高ヲ人ヨリ借受ケタル時ハ其債主其

賣拂ノ時既ニ役所ノ簿冊ニ書入質ノ權ノ記入ヲ得タル債主等ニ次テ書入質ノ權ヲ行フ可シ

第六百八十九條 差押ヲ受ケタル不動産ヲ負債者ヨリ買入レタル者ハ必ス其糶賣ノ日ヨリ前ニ官署ニ金高ヲ預ク可ク如何ナル口實アリト雖モ其預ケ方ノ猶豫ヲ許ス可カラズ

第六百九十條 不動産差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シタルヨリ遅クトモ二十日内ニ賣拂ノ手續ヲ爲ス債主糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ但シ其箇條書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 不動産差押ヲ爲スノ憑據タル裁判言渡ノ如ク執行フ可キ證書ノ大略要決ノ書ノ大畧差押ノ調書ノ大畧并ニ其調書ヲ記シタル後ノ證書及ヒ言渡書ノ大畧

第二 不動産ノ模様但シ差押ノ調書ニ記シタル所ニ等シカル可

第三 賣拂ニ付テノ箇條

第四 賣拂ノ手續ヲ爲ス債主ノ附ケ直段

第六百九十一條 其債主ハ糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ納メタルヨリ遅シトモ八日ノ期日ニ負債者ノ住所ト裁判所トノ間五ミリヤメートル毎ニ一日ヲ増加シタル期限内ニ負債者裁判所ニ出テ糶賣ノ箇條書ヲ檢視シ故障アル時ハ其旨ヲ述フ可ク且其箇條書ヲ讀上ケテ之ヲ公ケニ爲ス時及ヒ糶賣ノ日ヲ定ムル時其席ニ立會フ可キノ招書ヲ負債者又ハ其住所ニ送ル可シ○但シ其招書ニハ箇條書ヲ公ケニ爲ス日刻ト場所トヲ附記ス可シ

第六百九十二條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)其債主ハ前條ノ期限内ニ同上ノ招書ヲ左ノ數人ニ送ル可シ

第一 差押ヘタル不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入

セシ債主ニ付テハ其記入ニ付キ別段擇ミタル住所ニ招書ヲ送ル可シ○若シ其債主中ニ以前其不動産ヲ負債者ニ賣拂フタル者アリテ其者佛蘭西國內ニ居住シ別段住所ヲ擇ミタルトナキ時ハ其現在ノ住所ニ招書ヲ送ル可シ但シ其者ヘノ招書ニハ其者糶賣ノ前ニ以前ノ賣拂契約ヲ取消シテ其不動産ヲ取還サントスルノ訴ヲ爲シ且其旨ヲ裁判所ノ書記局ニ報告スルニ非レハ糶賣ノ後ニ至リ其不動産ヲ買入レタル者ニ對シテ其訴ヲ爲スノ權ナカル可キ旨ヲ附記ス可シ

第二 負債者ノ婦、幼者又ハ治産ノ禁

ヲ受ケシ者ノ後見人ノ監察者ヲ負債者其幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後見人ナル時幼者ノ丁年ニ至リシ者同上ニ招書ヲ送ル可シ但シ此場合ニ於テハ

糶賣ノ手續ヲ爲ス債主己ノ證書ニ因リ負債者ノ婚姻ヲ結ヒタ
 ルヲ又ハ後見ヲ爲スヲ知リ得タルヲ必要トス○此招書ニ
 ハ婦又ハ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケタル者其夫又ハ後見人ノ差
 押ヲ受ケタル不動産ニ付キ法律上ノ書入質ノ權ヲ保有セント
 スルニハ糶賣ノ言渡第七百十二條見合チ役所ノ簿冊書入質役所ノ簿冊ナルヘシ○登
 記スル前ニ其法律上ノ書入質ノ權ヲ其役所ノ簿冊ニ記入スル
 必要ナル旨ヲ附記ス可シ○又其招書ノ寫一通ヲ不動産所在
 ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ檢事ニ送り其官吏ハ差押ヲ受ケ
 タル不動産ニ付キ負債者ノ婦又ハ其後見ヲ受ケル者ノミノ爲
 メ其法律上ノ書入質ノ權ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入スルヲ
 求ム可シ

第六百九十三條 前二條ニ記シタル招書ヲ送達シタル最終ノ日ヨリ

八日內ニ其送達ヲ爲シタル旨ヲ當テ書入質役所ノ簿冊ニ登記セシ
 差押ノ調書ノ端ニ附記ス可シ

此旨ヲ附記シタル後ハ當テ自己ノ書入質ノ權ノ記入ヲ得シ債主等
 皆承諾シタルニ非レハ差押ノ調書ノ登記ヲ塗抹ス可カラズ但シ其
 債主等之ヲ承諾セスト雖モ皆負訴訟トナリテ裁判所ヨリ其塗抹ヲ
 爲ス可キヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第六百九十四條 糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ納メタルヨリ早
 シトモ三十日遅シトモ四十日內ニ當テ定メタル日ニ裁判所吟味ノ
 席ニテ其箇條書ヲ讀上ケ之ヲ公ケニ爲ス可シ

此事ヲ爲スヨリ前遲シトモ三日內ニ賣拂ノ手續ヲ爲ス債主及ヒ負
 債者并ニ自己ノ書入質ノ權ノ記入ヲ得シ債主等ハ其箇條書ニ記シ
 タル諸件ニ付キ故障アル時ハ之ヲ述ヘテ其書ノ末ニ其故障ノ旨ヲ

附記セシム可シ若シ此定期ヲ過コス時ハ其故障ヲ述フルコトヲ許サ
ス

第六百九十五條 負債者及ヒ債主等ニ送リタル招書ニ記セシ日ニ至
リ裁判所ヨリ賣拂ノ手續ヲ爲ス債主ニ糶賣ノ箇條書ヲ讀上ケテ之
ヲ公ケニ爲シタル證書ヲ渡シ其箇條書ノ末ニ附記シタル故障ノ申
述ヲ裁決シテ糶賣ヲ爲ス可キ日刻ヲ定ム可シ但シ其糶賣ノ日ト箇
條書ヲ公ケニシタル日トノ間ニハ少クトモ三十日多クトモ六十日
ノ猶豫アル可シ
裁判所ヨリ箇條書ヲ讀上ケ之ヲ公ケニセシ旨ヲ記シタル證書ヲ賣
拂ノ手續ヲ爲ス債主ニ渡シ且故障ノ申述ヲ裁決スル言渡ハ之ヲ其
箇條書ノ末ニ債主ノ附ケ直段又ハ故障ノ申述ヲ記シタル次ニ附記
ス可シ

第六百九十六條 糶賣ヲ爲ス前早クトモ四十日遅クトモ二十日内ニ
賣拂ノ手續ヲ爲ス債主ノ代書師ハ不動産所在ノ州内ニテ刊行スル
新聞紙ニ左件ヲ記シタル拔書ヲ記入ス可シ但シ其拔書ニハ其姓名
ヲ手署ス可シ

- 第一 不動産差押ノ調書ノ日附及ヒ其調書ヲ書入質役所ノ簿冊
ニ登記シタル日附
- 第二 負債者及ヒ差押ヲ爲シタル債主並ニ其債主ノ代書師ノ姓
名職業居所
- 第三 差押ノ調書ニ記シタル如キ不動産ノ模様
- 第四 賣拂ノ手續ヲ爲ス債主ノ附ケ直段
- 第五 差押ノ訴ヲ管スル裁判所ノ名及ヒ糶賣ノ場所并ニ日刻
又其拔書ニハ法律上ニテ其不動産ニ付キ書入質ノ權アル者ハ

糶賣ノ言渡ヲ役所ノ簿冊ニ登記スル前ニ其權ヲ役所ノ簿冊ニ
記入スルヲ求ムルコトノ必要ナル旨ヲ附記ス可シ
其他總テ其不動産差押ニ管シタル裁判手續ノ中公告ス可キ諸
件ハ同上ノ新聞紙ニ記入ス可シ

第六百九十七條 賣拂ノ手續ヲ爲ス債主負債者又ハ其他自己ノ書入
質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシ債主中ノ一人前條ニ記シタル新聞
紙ニ記入シタル外更ニ他ノ新聞紙ニ糶賣ノ旨ヲ記入スルコト相當ナ
リト思慮スル時ハ之ヲ糶賣ノ訴訟ヲ管スル裁判所ノ上席人ニ願ヒ
上席人ハ不動産ノ大切ナル時其願ヲ許ルヌ可シ但シ上席人ノ許ヲ
得タル上新聞紙ニ記入スルニ付テノ費用ハ之ヲ裁判所費用ノ中ニ
算入スルヲ得可シト雖モ其許ナキ時ハ本人自カラ其費用ヲ擔當ス
可シ○裁判所上席人ノ言渡ハ之ヲ取消サント訴フ可カラス

第六百九十八條 新聞紙ニ全上ノ拔書ヲ記入シタルノ證ヲ立ツルニ
ハ其拔書ヲ記シテ刊行シタル新聞紙一葉ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但シ
其新聞紙ニハ邑長ノ認メタル刊行者ノ手署セシ姓名アルコトヲ必要
ナリトス

第六百九十九條 第六百九十六條ニ記シタル所ニ等シキ拔書ヲ貼附
書ノ體裁ニ刊行シテ其條ニ記シタル期限内ニ左ノ各所ニ貼附ス可
シ

- 第一 負債者住所ノ門
- 第二 差押ヘタル建造物ノ表門
- 第三 負債者住所ノ邑中ノ著ルシキ場所不動産所在ノ邑中ノ著
ルシキ場所糶賣ノ訴訟ヲ管スル裁判所所在ノ邑中ノ著ルシキ
場所

第四 負債者住所ノ邑ノ官署ノ表門及ヒ不動産所在ノ邑ノ官署ノ表門

第五 此二箇ノ邑中ノ市場及ヒ此邑中ニ市場ノアラサル時ハ其郡中ニテ最近ノ二箇ノ邑ノ市場

第六 差押ヘタル中ニ建造物アル時ハ其所在ノ地ノ治安裁判所ノ訟庭ノ入口若シ其建造物ナキ時ハ差押ヘタル土地ノ半ハ以上アル地ノ治安裁判所ノ訟庭ノ入口

第七 負債者住所ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ表門不動産所在ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ表門糶賣ヲ爲ス地ヲ管轄スル初告裁判所ノ表門
使吏ハ貼附書一葉ニ記入シタル調書ヲ以テ法律上ニテ定メタル場所ニ貼附ヲ爲シタルコトヲ證ス可シ但シ其各箇ノ場所ハ委

細ニ調書ニ記スルニ及ハス

其調書ハ貼附ヲ爲シタル地ノ各邑長之ニ檢印ス可シ

第七百條 不動産ノ種類ト重大トニ准シ前條ニ記シタル貼附書ノ外其數五百通ニ至ル迄ハ其費ヲ裁判所費用ノ中ニ算入スルコトヲ得可シ

第七百一條 糶賣ヲ爲スニ付テノ裁判所ノ費用ハ裁判役其高ヲ定ム可シ但シ其定メ高ヨリ餘分ハ之ヲ買入人ヨリ償ハシムルコトヲ得ス
○此規則ニ反シタル契約ハ如何ナル體裁タルヲ問ハス其効ナカル可シ

其裁判所費用ノ高ハ糶賣ヲ爲ス前ニ之ヲ公告シ且其高ヲ糶賣ノ言渡書ニ記入ス可シ
第七百二條 糶賣ノ爲メ預定シタル日ニ至リ是迄糶賣ノ手續ヲ爲シ

タル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主ノ求メテ以テ其糶賣ヲ爲ス可シ

第七百三條 糶賣ノ爲メ預定シタル日ニ至リ是迄糶賣ノ手續ヲ爲シタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ負債者ノ求メニ因リ其糶賣ヲ延ハスヲ得可シ但シ至重ニシテ確證アル原由アルニ非レハ其求メヲ許サス

其延期ヲ允許スル言渡書ニハ後ニ糶賣ヲ爲ス可キ期日ヲ定ム可シ但シ其期日ハ以前預定シタル日ヨリ後十五日ヨリ早キヲナシ六十日ヨリ遅キヲナカル可シ

此言渡ハ之ヲ取消サント訴フルヲ得ス

第七百四條 前條ニ循ヒ更ニ糶賣ノ期日ヲ定メタル時ハ其期日ヨリ少クトモ八日前ニ第六百九十六條及ヒ第六百九十九條ニ記シタル

如ク其旨ヲ新聞紙ニ記入シ及ヒ貼附ヲ爲シテ之ヲ公告ス可シ

第七百五條 糶リニテ價ヲ附クルハ裁判所ノ吟味ノ席ニテ買ハントスル者ノ代書師之ヲ爲ス可シ

糶賣ヲ始ムルト同時ニ各々大概一分時間燃へ續ク可キ小蠟燭數箇ヲ相繼テ點ス可シ

糶リニテ若干ノ價ヲ附ケタル者アル後更ニ高價ヲ附クル者アル時ハ縱令ヒ其高價ヲ附ケタルノ効ナキ言渡アル時ト雖モ先ニ價ヲ附ケタル者買入ノ義務ヲ免ル可シ

第七百六條 糶リニテ若干ノ價ヲ附クル者アリテ蠟燭三箇ノ盡キタル後猶更ニ高價ヲ附クル者ナキ時ハ其者買入ヲ爲スヲ得可シ蠟燭三箇ノ既ニ盡キタル後猶糶リニテ價ヲ附クル者ナキ時ハ糶賣ノ手續ヲ爲シタル債主己ノ附直段ニテ買入ル可キノ言渡ヲ受ク可シ

最初ノ蠟燭三箇中ノ一箇ノ燃ル閉ニ糶リニテ價ヲ附クル者アリテ
其後更ニ二箇ノ燃ル閉更ニ高價ヲ附クル者ナキ時ハ其者買入ヲ爲
スヲ得可シ

第七百七條 最モ高價ヲ附ケタル代書師ハ其日ヨリ三日内ニ其買入
ヲ爲ス本人ノ姓名ヲ裁判所ノ書記局ニ陳述シ且其本人ノ買入ヲ爲
スヲ承諾シタル旨ヲ陳述ス可シ又然ラザレバ其名代ノ權ヲ任セ
ラレタル證書ヲ差出シ其證書ヲ本人ノ姓名陳述書ニ添へ置ク可シ
若シ代書師此等ノ手續ヲ爲サ、ル時ハ自カラ買入人タル可キノ言
渡ヲ受ク可シ但シ此規則ハ第七百十一條ノ規則ノ差支トナルヲナ
カル可シ

第七百八條 何人ニ限ラズ買入人ノ附ケ直段ヨリ更ニ少クトモ六分
一ヲ増シタル價ヲ其買入ノ時ヨリ八日内ニ己レノ代書師ヲシテ申述

ヘシムルヲ得可シ

第七百九條 買入人ノ附ケ直段ヨリ更ニ高價ヲ附クル者ハ糶賣ノ言
渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ其旨ヲ述フル書面ヲ出ス可シ其書
面ニハ高價ヲ附クル者代書師ヲ任シタル旨ヲ記ス可シ本人其書面
ヲ出シタル上ハ翻譯スルヲ得ス又其書面ハ三日内ニ買入人ノ代
書師及ヒ糶賣ノ手續ヲ爲シタル債主ノ代書師并ニ負債者ニ代書師
アル時ハ其代書師ニ送達ス可シ但シ負債者ニ代書師ナキ時ハ本人
又ハ其住所ニ別段其書面ヲ送達スルニ及ハス

其書面ニハ十五日ノ期日ノ終ル後裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キノ要
メヲ記ス可シ其他ノ手續ヲ要スルヲナシ
此再次ノ糶賣ノ期日ハ第六百九十六條及ヒ第六百九十九條ニ記シ
タル所ニ循ヒ之ヲ公告ス可シ

若シ以前ノ買入人ヨリ更ニ高價ヲ附クル者前項ニ記シタル定期内ニ其高價ヲ附クル旨ヲ記シタル書面ヲ前項ノ數人ニ送達セサル時ハ糶賣ノ手續ヲ爲シタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ負債者全上ノ定期ノ終ヨリ三日内ニ更ニ高價ヲ附クル者アル旨ヲ報知スルヲ得可シ若シ此書面送達ノ手續ヲ爲サ、ル時ハ買入人ヨリ更ニ高價ヲ附ケタルノ効ナカ
ル可シ且其効ナキヲ付テハ別ニ裁判所ヨリ言渡ヲ爲スニ及ハス

第七百十條 預定シタル日ニ至リ更ニ再々ノ糶賣ヲ爲ス可シ但シ何人ニ限ラス其糶賣ニ管涉スルヲ得可シ○此糶賣ノ時最初ノ買入直段ニ六分一以上ヲ増セシ價ヲ附ケタル者ヨリ更ニ高價ヲ附クル者ナキニ於テハ最初ノ買入直段ニ六分一以上ヲ増セシ價ヲ附ケタル者其買入人タル可シ若シ其者己レノ附ケ直段ノ代金ヲ拂フヲ能ハ

スシテ更ニ糶賣ヲ爲スニ至ルヲアル時ハ其附ケ直段ト更ニ糶賣ヲ爲シタル時ノ買入人ノ附ケ直段ト相異レル高チ己レニ擔當ス可シ最初ノ買入直段ヨリ更ニ六分一以上ノ高價ヲ附ケタル者アルニ付キ再々糶賣ヲ爲シタル後ハ猶更ニ高價ヲ附クル者アリト雖モ三次ノ糶賣ヲ爲スヲ許サス

第七百十一條 代書師ハ糶賣ノ訴訟ヲ管スル裁判所ノ官員ノ爲メ價ヲ附ケ買入人トナルヲ得ス若シ其買入ヲ爲スヲアリト雖モ其効ナシ且債主等へ損失ノ償ヲ爲ス可シ

又代書師ハ負債者ノ爲メ又ハ代金ヲ拂フヲ能ハサルノ分明ナル人ノ爲メ價ヲ附ケテ買入人トナルヲ得ス若シ其買入ヲ爲スヲアリト雖モ前項ニ同シシ其効ナシ且債主等へ損失ノ償ヲ爲ス可シ

又糶賣ノ手續ヲ爲セシ者ノ代書師ハ自カラ買入人トナルヲ得ス

若シ買入人トナルト雖モ其効ナカル可ク且總テノ者ニ對シテ損失ノ償ヲ爲ス可シ

第七百十二條 糶賣ノ言渡書トハ第六百九十條ニ記シタル糶賣箇條書ノ寫ニシテ其言渡書ニハ總テノ裁判言渡書ニ記ス可キ前書ト末文ノ語トヲ記シ且負債者ニ此言渡書ヲ受取リ次第其不動産ヲ買入人ニ引渡ス可ク若シ之ヲ爲サ、ルニ於テハ禁錮ヲ受ク可キ旨ヲ附記ス可シ

第七百十三條 買入人糶賣ノ言渡書ヲ得ントスルニハ糶賣ノ手續ニ付テノ通常ノ費用ヲ債主ニ拂フテ債主ノ之ヲ受取タル證書ト既ニ糶賣ノ箇條書ノ如ク諸事ヲ執行ヒタル證書トヲ裁判所ノ書記局ニ出ス可シ○此等ノ證書ハ糶賣言渡書ノ正本ニ添ヘ置キ且之ヲ其言渡書ノ寫ノ末ニ寫ス可シ○若シ買入人其買入ノ日ヨリ二十日內ニ

此等ノ證書ヲ出サ、ル時ハ其者買入ノ効ヲ失ヒ其者ノ引受キ以テ再ヒ糶賣ヲ爲ス可シ第七百三十三條以下見合但シ此規則ハ債主等ノ其者ヨリ償ヲ得ル爲メニ更ニ他ノ手續ヲ爲スノ差支トナルヲナカル可シ

第七百十四條 糶賣ノ手續ニ付テノ別段ノ費用ハ其賣拂代金中ヨリ最モ先ニ其償ヲ得ルノ特權アリトス但シ此事ヲ爲スニハ別段裁判所ノ言渡アルヲ必要ナリトス

第七百十五條 第六百七十三條第六百七十四條第六百七十五條第六百七十六條第六百七十七條第六百七十八條第六百九十條第六百九十一條第六百九十二條第六百九十三條第六百九十四條第六百九十六條第六百九十八條第六百九十九條第七百四條第七百五條第七百六條第七百九條ノ第一及ヒ第三ニ記シタル法式及ヒ定期ハ必ス之ニ循フ可シ若シ之ニ背キタル時ハ其各條ニ記シタル諸件ノ効ナカ

ル可シ

差押ヘタル不動産中ノ一箇又ハ數箇ノ記載ヲ遺脱シタルニ付キ其
一箇又ハ數箇ニ付テノ糶賣ノ手續ノ効ナキ時ト雖モ其他ノ不動産
ニ付テノ糶賣ノ手續ヲ必スシモ取消シト爲ストナカル可シ
此條ニ記シタル取消ノ訴ハ之ニ管係アル諸人ヨリ申出ルヲ得可
シ

第七百十六條 糶賣ノ言渡書ハ負債者又ハ其住所ノミニ之ヲ送達ス
可シ

糶リニテ不動産ヲ買入レタル者ノ求メニ因リ管テ差押ノ調書ヲ書
入質役所ノ簿冊ニ登記シタル端ニ糶賣言渡書ヲ略記ス可シ

第七百十七條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)糶ニテ不
動産ヲ買入レタル者ハ其不動産ニ付キ以前之ヲ所有セシ負債者ニ

過シル權利ヲ得可カラズ

全上ノ買入人ハ以前負債者ニ不動産ヲ賣リタル者ヨリ其未タ代金
ヲ受取ラサルニ因リ其賣拂ノ契約ヲ解除セントスルノ訴ヲ受クル
トナカル可シ但シ以前ノ賣主今度其不動産ヲ糶賣ニ爲ス前ニ以前
ノ賣拂ノ契約ヲ解除セント訴フル書ヲ裁判所ノ書記局ニ出セシ時
ハ格別ナリトス

不動産ノ以前ノ賣主今度其糶賣ヲ爲ス前ニ其訴ヲ爲ス時ハ暫ク糶
賣ヲ延ハヌ可シ且裁判所ニテハ糶賣ノ手續ヲ爲シタル債主又ハ其
他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシ債主ノ求メニ從ヒ以
前ノ賣主其賣拂ノ契約ヲ解除セントスル訴ヲ落著セシム可キ期限
ヲ定ム可シ

是迄糶賣ノ手續ヲ爲シタル債主ハ其賣拂ノ契約ヲ解除セントスル

訴ニ參スルヲ得可シ

其賣拂ノ契約ヲ解除セントスル訴訟其定期内ニ落著セサル時ハ其
不動産ノ糶賣ニ取掛ル可シ但シ確證アリテ且重大ナル事故ニ因リ
裁判所ヨリ其訴ヲ落著ス可キ爲メ更ニ猶豫ノ期限ヲ許ルシタル時
ハ格別ナリトス

若シ以前ノ賣主定期内ニ賣拂契約ヲ解除スル訴ヲ落著セシメサル
ニ因リ其不動産ヲ糶賣ト爲シタル時ハ其買主以前ノ賣主ヨリ訴訟
ヲ受クルヲナカル可シ但シ以前ノ賣主ハ其賣拂ノ證書ヲ以テ證ト
爲シ糶賣代金中ヨリ其權利ノ順序ニ從ヒ償ヲ得ント求ムルヲ得
可シ

糶リコテ不動産ヲ買入レタル者糶賣ノ言渡書ヲ書入質役所ノ簿冊
ニ登記セシメタル上ハ其不動産ニ付キ債主等ノ有スル書入質ノ權

ヲ濫用シタルト爲ス可クシテ債主等ハ唯其代金ヲ得ント訴フル
ノミヲ得可シ○又法律上ニテ書入質ノ權ヲ有スル債主買入人ノ糶
賣ノ言渡書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシムル前ニ自己ノ書入質ノ權ヲ
役所ノ簿冊ニ記入セシメサル時ハ裁判所ノ言渡ニテ債主ノ償ヲ得
可キ順序ヲ定ムル場合ニ於テハ第七百五十四條ニ記シタル定期内
ニ自己ノ證書ヲ差出カ、レハ他ノ債主ヨリ先キニ其糶賣代金中
ヨリ償ヲ得可キノ特權ヲ失フ可ク又第七百五十一條及第七百五十二
條ニ循ヒ債主等協議シテ償ヲ得可キ順序ヲ定ムル場合ニ於テハ其
順序ノ確定スル前ニ自己ノ證書ヲ差出シテ其權利ヲ辨セサレハ全
上ノ特權ヲ失フ可シ

○第十三章 不動産差押ニ付キ附帶ノ訴

第七百十八條 總テ不動産差押ノ訴ニ附帶シタル訴ヲ爲ス者ハ其憑

據ト願旨トテ記シタル招書ヲ已レノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ送
 ラシメテ之ヲ爲ス可シ○又代書師ヲ任セサル人ニ對シテ此訴ヲ爲
 スルハ第七百二十六條ニ記シタル場合ノ外總テ距離ノ割合ヲ以テ
 日數ヲ増スルナク八日內ニ裁判所ニ出席ス可キノ呼出狀ヲ本人ニ
 送ル可シ但シ此訴ニ付テハ和解ノ法式ヲ爲ス可及ハス○此訴ハ急
 速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ且之ヲ裁判ス可シ○此訴ノ裁判言
 渡ハ必ス檢察官ノ申立ヲ聽キタル上ニ非レハ之ヲ爲ス可カラズ
 第七百十九條 若シ一人ノ負債者ニ屬スル二箇ノ不動産ノ差押ヲ債
 主二人ニテ同一ノ裁判所ニ訴ヘ其差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記
 セシメタル時ハ其債主中ノ一人ヨリ其二箇ノ差押ヲ合同セント訴
 ヘ其訴ヲ得タル上先ニ差押ヲ爲シタル債主其合同シタル差押ノ手
 續ヲ繼續シテ爲ス可シ○然レ其合同ノ訴ハ既ニ繼續ノ箇條書ヲ裁

判所ノ書記局ニ出シタル後之ヲ爲スルヲ許サス○若シ二人ノ債主
 同時ニ差押ノ訴訟ヲ爲シ始メタル時ハ其二人ノ債主ノ代書師中ニ
 テ最モ古キ證書ヲ有スル者其合同シタル差押ノ手續ヲ爲シ若シ又
 其證書ノ日附相同シキ時ハ先キニ其職ニ任セラレタル代書師其手
 續ヲ爲ス可シ
 第七百二十條 第二次ノ不動産差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシ
 ムル爲メ差出シタル時其差押ノ調書ニ記スル所ノ不動産第一次ノ
 差押ノ調書ニ記スル所ノ不動産ヨリ更ニ多分ナルニ於テハ第二次
 ノ差押ノ調書ニ記スル所ノ中ニテ以前ノ差押ヨリ更ニ多分ナル不
 動産ノミテ差押フル旨ヲ役所ノ簿冊ニ登記シ第二次ノ差押ヲ爲ス
 債主ヨリ其由ヲ第一次ノ差押ヲ爲シタル債主ニ報告シ其二箇ノ差
 押既ニ同一ノ訟訴手續ニ至リシ時ハ第一次ノ差押ヲ爲セシ債主其

二箇ノ差押ヲ合同シテ手續ヲ繼續ス可シ若シ又其二箇ノ差押未ダ
同一ノ訴訟手續ニ至ラサル時ハ第一次ノ差押ノ手續ヲ暫ク延引シ
第二次ノ差押ヲ之ト同一ノ手續ニ至ラシメタル上ニテ第一次ノ差
押ト合同シテ其訴訟ノ手續ヲ繼續ス可シ

第七百二十一條

前條ノ場合ニ於テ第一次ノ差押ヲ爲シタル債主第
二次ノ差押ヲ爲シタルノ報告ヲ得テ猶其二箇ノ差押ヲ合同シテ手
續ヲ繼續スルコトヲ爲サ、ル時ハ第二次ノ差押ヲ爲シタル債主ノ代
書師ヨリ第一次ノ差押ヲ爲シタル債主ノ代書師ニ招書ヲ送り第一
次ノ債主ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續セント訴フルコトヲ得可シ

第七百二十二條

又第一次ノ債主密カニ負債者ト謀テ不正ノ處置ヲ
爲シ又ハ詭欺ヲ行ヒ又ハ懈怠シタル時ハ第二次ノ債主之ニ代テ差
押ノ手續ヲ繼續セント訴フルコトヲ得可シ但シ第一次ノ債主密カニ

負債者ト謀テ不正ヲ行ヒ又ハ詭欺ヲ爲シタル時ハ第二次ノ債主ニ
相當ノ損失償ヲ爲ス可シ

第一次ノ債主訴訟ノ法式ヲ爲サヌ又ハ定期内ニ其手續ノ書類ヲ記
セサル時ハ之ヲ懈怠ナリトス

第七百二十三條

第二次ノ差押ヲ爲ス債主第一次ノ差押ヲ爲ス債主
ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續セント訴へ負訴訟ニナル時ハ其訴訟ノ費
用ヲ自カラ擔當ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第二次ノ差押ヲ爲ス債主第一次ノ差押ヲ爲ス債主ニ代テ差押ノ手
續ヲ繼續ス可キノ言渡ヲ得タル時ハ第一次ノ債主其手續ヲ爲スニ
必要ナル證書類ヲ第二次ノ債主ニ渡シ其受取書ヲ取り置ク可シ但
シ第一次ノ債主ハ不動産羅賣ノ後ニ非レハ代金中ヨリ其訴訟ヲ爲
シタル費用ノ償ヲ得可カラヌ又其後ニ非レハ買入人ヨリ其費用ノ

債ヲ得可クラス

第七百二十四條 若シ一人ノ債主ノ差押ノ調書ノ記入ヲ役所ノ簿冊ヨリ塗抹シテ之ヲ取消シタル時ハ他ノ債主等其差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル順序ヲ問ハス其中ニテ最モ先キニ手續ヲ爲ス債主其差押ノ手續ヲ爲スヲ得可シ

第七百二十五條 債主負債者ノ財産ナリトシテ差押ヘタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ他人己ノ財産ナリトシテ其差押ヲ免レシメントスルノ訴ハ差押ヲ爲シタル債主ト負債者トニ對シテ之ヲ爲ス可ク且債主中最初ニ其書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル者ニ對シ其訴ヲ爲シ又ハ其者ノ別段擇ミタル住所ニ其訴ヲ爲ス旨ヲ報告ス可シ

若シ負債者別段代書師ヲ任セサル時ハ其住所ト裁判所所在ノ地ト

ノ間五ミリヤメートル毎ニ其出席ノ日數ニ一日ノ猶豫ヲ増ス可シ但シ佛蘭西本國外ニ在ル者ニ付キ別ニ其猶豫ノ期限ヲ増スヲナカ

第七百二十六條 前條ニ記シタル訴ノ書面ニハ其訴ヲ爲スノ憑據タル證書ノ大略ヲ附記シ且其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シタル旨ヲ記シタル書面ノ文ヲ附記ス可シ

第七百二十七條 若シ債主ノ差押ヘタル財産ノ一部ノミニ付キ他人全上ノ訴ヲ爲シタル時ハ其訴ニ管セス其他ノ部分ノ糶賣ニ取掛ル可シ○然レ裁判所ニテ其差押ニ管係アル者ノ求メニ從ヒ其差押タル財産ノ全部ノ糶賣ヲ暫ク猶豫スルノ許ヲ爲スヲ得可シ
裁判所ニテ債主ノ差押ヘタル財産ノ一部ニ付キ他人ノ訴ニ從ヒ其差押ヲ免スルノ言渡ヲ爲シタル時ハ是迄糶賣ノ手續ヲ爲シタル債

主糶賣ノ箇條書ニ記シタル附ケ直段ヲ變スルヲ得可シ

第七百二十八條

不動産糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲ス以前爲シタル訴

訟ノ手續ノ本案又ハ法式ニ付キ其手續ヲ取消サントスル憑據ハ其

箇條書ヲ公ケニ爲スヨリ遅クトモ三日前ニ必ス之ヲ訴出ス可シ

裁判所ニテ其取消ノ訴ノ如ク允許シタル時ハ其効ヲ失ハサル最終

ノ手續ヨリ以後ノ手續ヲ更ニ全ク爲シ改ム可シ但シ以後ノ手續ヲ

爲シ改ムル期限ハ取消ヲ言渡シタル確定ノ裁判ノ日ヨリ之ヲ算フ

可シ

若シ又裁判所ニテ全上ノ取消ノ訴ヲ却還シタル時ハ之ヲ却還スル

言渡書ヲ以テ第六百九十五條ニ循ヒ糶賣ノ箇條書ヲ讀上ケ且公ケ

ニ爲スノ書面ヲ與フ可シ

第七百二十九條

不動産糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲シタル後ノ訴訟ノ

手續ヲ取消サントスル憑據ハ糶賣ヨリ遅クトモ三日前ニ必ス之ヲ

訴出ス可シ

糶賣ヲ爲スタメ預定シタル日ニ至リ糶賣ニ取掛ル前ニ同上ノ取消

ノ憑據ヲ裁判ス可シ

裁判所ニテ其取消ノ訴ノ如ク允許シタル時ハ糶賣ノ箇條書ヲ公ケ

ニ爲シタル言渡ヨリ後ノ訴訟ノ手續ヲ取消ト爲シ其言渡ヨリ後ノ

手續ヲ更ニ全ク爲シ改ム可キヲ言渡シ且糶賣ノ期日ヲ改ム可シ

若シ又裁判所ニテ同上ノ取消ノ訴ヲ却還シタル時ハ直ニ糶賣ニ取

掛ル可シ

第七百三十條

左ノ裁判言渡ハ控訴スルヲ許サス

第一 一人ノ債主ノ爲ス差押ノ手續ニ付キ他ノ債主之ニ代ラン

トスルノ訴ヲ裁判シタル言渡

但シ是迄差押ノ手續ヲ爲シタル債主密カニ負債者ト謀リテ不正ノ處置ヲ爲シ又ハ詭僞ヲ行フタルニ因リ他ノ債主之ニ代ラント訴ヘタル時ハ格別ナリトス

第二 不動産差押ニ付キ附帶ノ訴ヲ別段裁判スルコトナク唯糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲スノ書面ヲ與フル言渡又ハ再度ノ糶賣ノ前後ヲ問ハズ糶賣ノ言渡

第三 糶賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲シタル後ノ手續ヲ取消サントスル訴ヲ裁判シタル言渡

第七百三十一條 總テ前條ニ記シタル以外ノ言渡ヲ控訴ス可キ期限ハ代書師其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内トス又代書師ナキ時ハ本人ノ眞ノ住所又ハ別段擇ミタル住所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内トス若シ此定期ヲ過クル時ハ其控訴ノ効ナカル

可シ

第七百廿五條ニ記シタル訴ノ裁判言渡ヲ控訴スル時ハ同條ニ循ヒ五ミリヤメートル毎ニ控訴ノ定期ニ一日ヲ増ス可シ
控訴ヲ爲シタル時ハ控訴院ニテ之ヲ十五日内ニ裁判ス可シ○控訴ノ時一方ノ者抗傳シテ受ケタル裁判言渡ハ故障ヲ述フルコトヲ許サス

第七百三十二條 控訴ヲ爲ス書ハ之ヲ相手方代書師ノ住所ニ送達シ若シ代書師ナキ時ハ相手方本人ノ眞ノ住所又ハ其別段擇ミタル住所ニ送達シ且同時ニ初告裁判所ノ書記官ニ送達シテ書記官之ニ檢印ス可シ
負債者ハ控訴院ノ吟味ノ席ニテ既ニ初告裁判所ニ申述ヘタルヨリ更ニ他ノ憑據ヲ述フ可カラズ

控訴ヲ爲ス書ニハ其控訴ヲ爲スノ趣意ヲ記ス可シ此條ニ記スル法
式ヲ行ハサル時ハ控訴ノ効ナカル可シ

第七百三十三條 若シ糶賣ニテ不動産ヲ買入レタル者糶賣ノ箇條ノ如
ク執行ハカル時ハ其買主ノ引受 第四百二十
糶賣ト爲ス可シ 四條註見合

第七百三十四條 若シ糶賣ノ言渡書ヲ渡ス以前ニ買入人ノ引受ヲ以
テ再ヒ糶賣ヲ爲ス可キノ訴ヲ爲ス者アル時ハ其訴ヲ爲ス者其買入
人糶賣ノ箇條ヲ行ハサル旨ノ受合書ヲ裁判所ノ書記官ヨリ受取ル
可シ

若シ其買入人裁判所ノ書記官ヨリ全上ノ訴人ニ其受合書ヲ渡サ
トスルコトニ付キ故障ヲ述フル時ハ一方ノ者ノ求メニ從ヒ裁判所ノ
上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第七百三十五條 此書記官ノ受合書ノミチ以テ證ト爲シ別ニ其他ノ
手續又ハ裁判ヲ要スルコトナク以前ニ等シキ諸件ヲ記シタル貼附ヲ
爲シ且新聞紙ニ記入ヲ爲ス可シ又糶賣ノ言渡書ヲ渡シタル後ニ買
入人ノ引受ヲ以テ更ニ糶賣ヲ爲ス可キノ訴ヲ爲ス者アル時ハ債主
ノ買入人ヨリ代金ヲ受取ル可キ書面ト要決ノ書トヲ其買入人ニ送
達シタルヨリ三日ノ後ニ全上ノ貼附及ヒ記入ヲ爲ス可シ
又其貼附書及ヒ新聞紙ノ記入ニハ是迄ノ買入人ノ姓名居所其買入
ヲ爲サントシタルニ付テノ附ケ直段更ニ糶賣ノ手續ヲ爲ス者ノ附
ケ直段以前ノ箇條書ニ循ヒ更ニ糶賣ヲ爲ス可キ定日等ノ諸件ヲ附
記ス可シ

更ニ貼附及ヒ新聞紙ノ記入ヲ爲ス日ト更ニ糶賣ヲ爲ス日トノ間ニ
少クトモ十五日多クトモ三十日ノ日數ヲ隔ツ可シ

六三三

第七百三十六條 更ニ糶賣ヲ爲スヨリ遲クトモ十五日前ニ是迄ノ買入人ノ代書師ニ更ニ糶賣ヲ爲ス日刻ヲ報告シ且負債者ノ代書師ノ住所ニ同様ノ報告ヲ爲シ若シ又負債者ニ代書師ナキ時ハ其本人ノ住所ニ其報告ヲ爲ス可シ

第七百三十七條 更ニ爲ス所ノ糶賣ハ第七百三條ニ循ヒ之ヲ延ハスヲ得可シ但シ之ヲ延ハスニハ其糶賣ノ手續ヲ爲ス者ヨリ之ヲ訴ルヲ必要トス

第七百三十八條 若シ是迄ノ買入人糶賣ノ箇條ノ如ク執行フ可キノ證ト更ニ爲ス所ノ糶賣ノ費用トシテ裁判所上席人ノ定メタル金高ヲ官署ニ預ケタルノ證トキ立ル時ハ更ニ爲ス所ノ糶賣ニ取掛ル可カラズ

第七百三十九條 第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第

七百三十七條ニ記列シタル法式及ヒ定期ハ必ス之ニ循フ可シ若シ之ニ背ク時ハ其各條ニ記シタル諸件ノ効ナカル可シ

更ニ爲ス所ノ糶賣ノ手續ヲ取消サントスル憑據ハ第七百二十九條ニ記シタル如ク之ヲ訴出シ且之ヲ裁判ス可シ

更ニ糶賣ノ手續ヲ爲ス時一方ノ者ノ抗傳シテ受ケタル裁判言渡ハ故障ヲ述フ可カラズ

又其手續ヲ取消サントスル憑據ノ裁判言渡ハ第七百三十一條及ヒ第七百三十二條ニ記シタル法式ニ循ヒ其定期内ニ控訴ヲ爲スヲ得可シト雖モ其他ノ裁判言渡ハ控訴ヲ爲ス可カラズ

更ニ爲ス所ノ糶賣ハ第七百五條第七百六條第七百七條第七百十一條ノ規則ヲ通シ用フ可シ

七三三

第七百四十條 是迄ノ買入人ハ其附直段ト更ニ爲ス所ノ糶賣ニテ得

ル所ノ代金トノ差ヲ必ス償フ可ク若シ之ヲ償ハサル時ハ禁錮ヲ受
 シ可シ但シ其附直段ヨリ更ニ多分ノ代金ヲ得タル時ト雖モ是迄ノ
 買入人ハ其除分ヲ己ノ所得ト爲スヲ得ス其餘分ハ之ヲ債主ニ屬
 ス可ク若シ債主皆既ニ其償ヲ得タル時ハ之ヲ負債者ニ屬ス可シ
 第七百四十一條 若シ附帶ノ訴ニ因リ又ハ其他相當ノ事故アルニ因
 リ更ニ爲ス所ノ糶賣ヲ延ハシタル時ハ第七百四條ニ記シタル定期
 内ニ更ニ貼附ヲ爲シ且新聞紙ニ記入ス可シ

第七百四十二條 若シ負債者其契約ノ如ク執行ハサルニ於テハ債主
 不動産差押ノ爲メ別段定マリタル法式ヲ行ハスシテ其負債者ノ不
 動産ヲ賣拂フ可キ旨ヲ其債主ト負債者ト當テ約定ヲ爲シ置キタル
 ト雖モ此ノ如キ約定ハ其効ヲカル可シ
 第七百四十三條 自己ノ財産ヲ隨意ニ取扱フヲ得可キ丁年者ノ不

動産ヲ相對シテ賣拂フ時ハ之ヲ裁判所ニテ糶賣ト爲ス可カラズ
 若シ裁判所ニテ之ヲ糶賣ト爲スト雖モ其効ナカル可シ
 又既ニ不動産差押ヘ且差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル時
 其差押ニ管係アル者皆自己ノ財産ヲ隨意ニ爲スヲ得可キ丁年者
 ナルニ於テハ幼者ノ不動産賣拂ニ付キ第九百五十八條第九百五十
 九條第九百六十條第九百六十一條第九百六十二條第九百六十四條
 第九百六十五條ニ記シタル法式ノミニ循ヒ其他ノ法式ナク證書人
 ノ面前又ハ裁判所ニテ其差押ヘタル不動産ヲ糶賣ト爲サント訴フ
 ルヲ得可シ

其差押ニ管係アル者トハ第六百九十二條ニ記シタル如ク債主ニ招
 書ヲ送達スル前ハ差押ノ手續ヲ爲シタル債主ト負債者トヲ指シ言
 ヒ其招書ヲ送達シタル後ハ差押ノ手續ヲ爲シタル債主及ヒ負債者

ト自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等トテ指シ言フ
相連接シタル不動産ノ一部分ノミチ差押ヘタル時ハ負債者其餘ノ
部分モ亦共ニ糶賣ト爲ス可キコトヲ訴フルヲ得可シ
第七百四十四條

親族會議ノ許諾ヲ別段得タル後見人 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受
管財人ノ補佐ヲ受ケタル既ニ後見ヲ免レシ幼者

其他法律上ニテ人ノ財産ヲ支配ス可キ者

此等ノ者ハ前條ノ第二項ニ記シタル訴ヲ爲シ並ニ其訴ニ參スル
コトヲ得可シ

第七百四十五條 第七百四十三條ノ第二項及ヒ第七百四十四條ニ記
シタル訴ヲ爲サントスルニハ差押ノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ願書
ヲ差出ス可シ但シ其願書ハ訴ヲ爲ス數人ノ代書師皆之ニ姓名ヲ手

署ス可シ

其願書ニハ債主ノ附ケ直段ヲ附記ス可シ但シ其附ケ直段ハ評價ハ
用ヲ爲ス可シ

第七百四十六條 全上ノ訴ノ裁判ハ掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ求
ムル所トテ聽キタル上ニテ之ヲ爲ス可シ

裁判所ニテ全上ノ訴ノ如ク允許スル時ハ其糶賣ノ期日ヲ定メ證書
人ノ面前又ハ其裁判所ノ裁判役ノ面前又ハ他ノ裁判所ノ裁判役ノ
面前ニテ糶賣ヲ爲ス可キコトヲ言渡ス可シ
其裁判言渡書ハ之ヲ負債者ニ送達スルニ及ハス又其言渡ニ付キ故
障ヲ述ヘ又ハ控訴ヲ爲スコトヲ許サス

一四三 第七百四十七條 若シ同上ノ裁判言渡ノ後ニ之ニ管係アル本人ノ死
去シ又ハ家資分散ヲ爲シタルニ因リ又ハ其他ノ事ニ因リ其身分ノ

變スルコトアル時又ハ其管係アル本人ノ幼者又ハ遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル遺物相續人又ハ其他自己ノ財産ヲ隨意ニ爲スコト能ハサル者タル時ト雖モ其裁判言渡ノ効ヲ失フコトナカル可シ

第七百四十八條

全上ノ裁判言渡ヨリ八日內ニ嘗テ差押ノ手續ヲ爲シタル債主ノ求メニ從ヒ差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シ置キタル端ニ其言渡ヲ簡略ニ附記ス可シ

全上ノ言渡ノ場合ニ於テ第六百八十二條ニ記シタル如ク差押ヘタル不動産ノ利益ハ猶之ヲ差押ヘ置ク可シ但シ此規則ヲ以テ嘗テ差押ノ手續ヲ爲シタル債主第六百八十五條ニ記スル所ニ循ヒ土地又ハ家屋ノ借賃ヲ差押フルノ權ヲ害ス可カラズ又全上ノ場合ニ於テハ第六百八十六條ニ記シタル賣拂ノ禁制ノ如ク執行ヲ可シ

○第十四章

負債者ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ糶賣ト爲シテ得タル

代金ヲ債主數人ニ分派スル順序

第七百四十九條

(千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)別段ニ

事務ノ多端ナル裁判所ニ於テハ債主數人ノ拂方ヲ得ル順序ヲ定ムル爲メ皇帝ノ勅命ヲ以テ別ニ任テ受ケタル裁判役一人又ハ數人ヲ定メ置ク可シ○其掛リ裁判役ハ裁判役ノ補佐中ヨリ之ヲ撰ミ少クトモ一年間多クトモ三年間之ヲ任シ置ク可シ

其掛リ裁判役ノ不在ナル時又ハ事故アリテ差支アル時ハ裁判所ノ上席人之ニ代ル可キ他ノ裁判役ヲ任シ其旨ヲ別段書記局ニ設ケタル簿冊ニ記入ス可シ

皇帝ノ勅命書ヲ以テ任セラルタル掛リ裁判役又ハ上席人ヨリ任セ

四四三

ラシタル掛り裁判役ハ其裁判所又ハ控訴院ノ上席人又ハ檢事長ノ要メニ從ヒ其定ム可キ任ヲ受ケシ債主ノ順序ノ目錄書ヲ差出ス可シ

第七百五十條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 糶ニテ不

動産ヲ買入タル者ハ裁判所ニテ糶賣ノ言渡書ヲ渡シタル日ヨリ四十五日内ニ其言渡書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシメ又其言渡書ニ服セヌシテ控訴ヲ爲ス者アル時ハ其糶賣ノ言渡書ヲ控訴院ニテ確定シタル日ヨリ四十五日内ニ其言渡書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシム可シ若シ其買主定期内ニ此手續ヲ爲ササル時ハ其者ノ引受ヲ以テ其不動産ヲ再ヒ糶賣ト爲ス可シ

其登記ヨリ後八日内ニ從前不動産差押ノ手續ヲ爲シタル債主皆テ債主數人其書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル其目錄ヲ裁

判所ノ書記局ニ出シ裁判所ニテ債主數人ノ債ヲ得可キ順序ノ調査ニ取掛ル可キ旨ヲ求メ且時宜ニ因リ別段掛り裁判役ヲ任ス可キ旨ヲモ亦求ム可シ但シ從前不動産差押ノ手續ヲ爲シタル債主同上ノ八日ノ期限内ニ此等ノ諸事ヲ求メサル時ハ其他ノ債主又ハ負債者又ハ糶ニテ不動産ヲ買入レシ者ヨリ此等ノ諸事ヲ求ムルヲ得可シ

時宜ニ因リ掛り裁判役ヲ任ス可キノ求メテ爲ス者ハ裁判所ノ書記局ニ別段設ケ置キタル簿冊ニ其求メノ旨ヲ記入セシム上ニテ裁判所ノ上席人掛り裁判役ヲ任シタル旨ヲ其次ニ附記ス可シ

第七百五十一條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 前條ニ

五四三

記シタル求メニ因リ別段任セラレタル掛り裁判役ハ其任ヲ受ケタルヨリ八日内ニ又元來任ヲ受ケタル掛り裁判役ハ其求メヲ受ケタ

ルヨリ三日内ニ當テ自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等ヲ呼聚メ糶賣ニテ得タル代金ヲ協議ノ上分派スルノ順序ヲ定メシム可シ

其債主等ヲ呼聚ムルニハ裁判所ノ書記官裁判役ノ書翰ヲ郵便ニ託シ其債主等ノ佛蘭西國內ニアル眞ノ住所ト其別段擇ミタル住所トニ送ル可シ但シ其費用ハ前條ノ求メテ爲ス者之ヲ出シ置ク可シ差押ヲ受ケタル負債者及ヒ糶リニテ不動産ヲ買入レタル者モ亦書翰ヲ以テ其呼出ヲ受ク可シ

呼出ノ書翰ノ達セシ日ト集會ノ日トノ間ニ少クトモ十日ノ期限ヲ隔ツ可シ

債主等協議シテ代金分配ノ順序ヲ定ムル時ハ裁判役其旨ヲ調書ニ記シテ其分配ヲ得可キ債主等ニ買入人ヨリ代金ヲ受取ル可キ書面

ヲ渡スルヲ言渡シ又其分配ヲ得可カラサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可キヲ言渡ス可シ

其書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルニハ書記官ヨリ渡シタル裁判役ノ言渡書ノ拔書ヲ書入質役所ニ出ス可シ

集會ノ席ニ出テサル債主ハ二十五フランクノ罰金ヲ言渡サル可シ

第七百五十二條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)債主等

一月内ニ協議セサル時ハ裁判役其旨ヲ調書ニ記シ且出席ヲ爲サ、ル債主ニ罰金ヲ言渡ス可シ○又裁判役ハ債主等ノ債ヲ得可キ順序ヲ定ムルヲ今ヨリ爲シ始ム可キ旨ヲ言渡シ債主等ニ各其證書類ヲ差出サシムルノ呼出ヲ爲スヲメ別段使吏一人又ハ數人ヲ任シ其旨ヲ調書ニ記ス可シ但シ調書ノ中此事ヲ記シタル部分ハ別段之ヲ寫シ取リ又ハ債主等ニ送達スルニ及ハス

三四八

第七百五十三條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム債主ノ

償ヲ得可キ順序ヲ定ムルヲ爲シ始メタル時ヨリ八日內ニ債主等

ノ別段擇ミタル住所又債主代書師ヲ任シタル時ハ其代書師ノ住所

ニ各々其證書類ヲ差出ス可キノ呼出狀ヲ送達シ且差押ヲ受ケタル不

動產ヲ管テ賣拂ヒ尙ホ其代金ヲ受取ラサル賣主アリテ其者別段住所

ヲ擇ムヲナク又ハ代書師ヲ任シタルヲナキ時ハ佛蘭西國內ニ在ル

其眞ノ住所ニ同上ノ呼出狀ヲ送達ス可シ

其呼出狀ニハ若シ債主四十日內ニ其證書ヲ差出サ、ル時ハ其償ヲ

得可キノ權ヲ失フ可キ旨ヲ附記ス可シ

又糶ニテ不動産ヲ買入レタル者ノ代書師ニ債主等ノ償ヲ得ル順序

ヲ定ムル手續ノ始マリシ旨ヲ告知ス可シ○若シ糶ニテ買入レタル

者數人アル時ハ其數人ノ名代人タル代書師一人ヲ定メ其代書師ニ

同上ノ告知ヲ爲ス可シ

其呼出ノ手續ヲ爲ス者債主等數人ニ其呼出狀ヲ送達シタル日ヨリ

八日內ニ其呼出狀ノ正本ヲ裁判役ニ渡シ裁判役其呼出狀ヲ調書ニ

附記ス可シ

第七百五十四條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム前條ノ

呼出ヲ受ケタルヨリ四十日內ニ債主等各自己ノ證書ヲ差出シ且其

證書ヲ出シタル旨ヲ記シタル書面ニ其代書師ノ姓名ヲ自署セシメ

且之ニ其償ノ償ヲ得可キ相當ノ順序ヲ得ント欲スル願旨ヲ附記シ

テ亦之ヲ差出ス可シ○裁判役ハ其證書ヲ受取リタルヲ調書ニ記

入ス可シ

三四九

第七百五十五條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 四十日

ノ期限內ニ證書ヲ差出サ、ル債主ハ當然其償ヲ得可キ權ヲ失フ可

シ〇裁判役ハ即時ニ其公務ヲ以テ同上ノ債主其權ヲ失ヒタル旨ヲ
調書ニ記シ既ニ差出シタル證書ニ從ヒ債主ノ償ヲ得可キ順序ヲ定
ムル目錄ヲ記ス可シ〇此目錄ハ前ニ記シタル四十日ノ期限ノ終リ
シ時ヨリ遅クトモ二十日内ニ之ヲ記ス可シ

其目錄ヲ記シ終リシ時ヨリ十日内ニ債主中順序ヲ定ムル手續ヲ爲
ス者其代書師ヲシテ證書ヲ出シタル債主ノ代書師及ヒ負債者ノ代
書師ニ書面ヲ送ラシメテ其目錄ヲ記シ終リタル旨ヲ此等ノ者ニ告
知シ且三十日内ニ其目錄ヲ檢視シ別段ノ道理アルニ於テハ故障ヲ
述ヘ其故障ヲ調書ニ附記ス可キ旨ヲ告知ス可シ

第七百五十六條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)證書ヲ
出シタル債主及ヒ負債者前條ニ記スル期限内ニ目錄ヲ檢視シテ其
故障ヲ述ヘサル時ハ別ニ呼出又ハ裁判言渡ヲ受ケスシテ其故障ヲ

述フルノ權ヲ失フ可シ

第七百五十七條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)共ニ賣
拂フタル數箇ノ不動産ヲ各自別々ニ評價スルノ必要ナル時ハ掛リ
裁判役訴訟人ノ願ニ因リ又ハ公務ヲ以テ評價人一人又ハ三人ヲ任
スルヲ言渡シ且其誓ヲ爲ス可キ日ト其說ヲ述フ可キ期限トヲ定
ム此等ノ諸事ヲ調書ニ記入ス可シ〇此言渡ハ債主中順序ヲ定ムル
手續ヲ爲ス者ヨリ評價人ニ送達シ又評價人ノ誓ヲ爲シタル旨ヲ調
書ニ記入シ評價人ノ說ヲ記シタル書面ヲ其調書ニ添ヘ置ク可シ但
シ其評價人ノ說ヲ記シタル書面ハ之ヲ寫取り債主等ニ送達スルニ
及ハス

前ニ記シタル如ク共ニ賣拂フタル數箇ノ不動産ノ價ヲ各自別々ニ
評價スルノ必要ナル時ハ掛リ裁判役假リニ債主ノ順序ヲ定ムル

目錄ヲ記スル時其評價ヲ言渡ス可シ

第七百五十八條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)債主中ニテ裁判役ノ記シタル債主順序ノ目錄ニ付キ故障ヲ述フル者ハ其申述ノ旨趣ヲ調書ニ記シ且其憑據タル證書類ヲ出ス可シ其時掛リ裁判役ハ別段定メタル期日ニ裁判所吟味ノ席ニ出テ其裁判ヲ受シ可キヲ言渡シ且其吟味ノ席ニテ訴訟ノ手續ヲ爲ス可キ代書師ヲ別段任ヌ可シ

此場合ニ於テ掛リ裁判役ハ争ノ生シタル債ヨリ先ニ列次スル債ニ付テハ其債主ノ順序ヲ確定シテ糶賣代金中ヨリ債ヲ得可キ書面ヲ渡シ又争ノ生シタル債ヨリ後ニ列次スル債ニ付テモ其債主ノ順序ヲ確定スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ争ヲ受ケタル債主ノ權利ヲ保護スル爲メ其後ニ列次スル債ノ中ヨリ相當ノ高ヲ除キ置ク

可シ

第七百五十九條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)掛リ裁判役ノ定メタル債主ノ債ヲ得可キ順序ノ目錄ニ付キ故障ヲ述フル者ナキ時ハ債主等其目錄ヲ檢視シテ其故障ヲ述フル爲メ定メタル定期ノ終ヨリ十五日内ニ裁判役其債主ノ順序ノ目錄ヲ確定シ且債ヲ得ルヲ能ハサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルノ費用及ヒ債主ノ順序ヲ定ムル訴ヲ爲スノ費用ノ高ヲ定ム可シ但シ其費用ハ他ノ債ヨリ最モ先キニ賣拂ノ代金中ヨリ之ヲ償ハシムルヲ得可シ○又其裁判役ハ債ノ債ヲ得ルヲ能フ可キ債主等ノ費用ノ高ヲ定メ且此等ノ債主ニ賣拂代金中ヨリ債ヲ得可キノ書面ヲ渡シ又債ヲ得ルヲ能ハサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可キヲ言渡ス可シ○又糶ニテ買入シタル者ハ各債主等ニ渡ス可キ金高中ヨリ其

四五三

債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スル費用ヲ差引ク可シ

第七百六十條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 掛リ裁判
役ノ定メタル債主ノ償ヲ得可キ順序ノ目錄ニ付キ故障ヲ述フル者
アル時ハ其故障ヲ受ケタル債主ヨリ後ニ列次シタル債主等其故障
ヲ述フ可キ三十日ノ定期ノ後八日內ニ互ニ協議シテ別段其代書師
一人ヲ撰ム可シ若シ互ニ協議セサル時ハ償ヲ得可キ債主中ニテ最
後ノ債主ノ代書師ヲ其債主數人ノ名代人ト定ム可シ○是迄債主ノ
順序ヲ定ムル手續ヲ爲シタル代書師ハ唯其手續ヲ爲シタルノミニ
テ其故障ノ訴ニ管ス可キノ特權ナシトス

第七百六十一條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 全上ノ
故障ヲ述フル者アル時ハ別段任ヲ受ケタル代書師ヨリ第七百五十
八條ニ記シタル裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キノ要ムル招書ヲ故障

五五三

ヲ受ケタル債主ニ送ル可シ○其故障ヲ述フル訴訟ハ故障ヲ受ケタ
ル債主其權ノ憑據ヲ記シタル願書ヲ出スノ外別ニ訴訟ノ手續ヲ要
スルコトナク急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ又其裁判言渡書
ニハ其訴訟ノ費用ノ高ヲ定ム可シ○若シ故障ヲ述フル債主及ヒ故
障ヲ受ケタル債主更ニ證書ヲ出サント欲スル時ハ同上ノ裁判所吟
味ノ席ニ出ツルヨリ遅クトモ三日前ニ其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ
差出シ且其旨ヲ調査ニ附記ス可シ○裁判所ニテハ債主ノ新タニ差
出シタル證書ニ據テ其訴訟ヲ裁判ス可シ然レ別段至重ニシテ確證
アル原由アル時ハ裁判所ヨリ債主等ニ更ニ他ノ證書ヲ出ス可キ猶
豫ノ期限ヲ許ルコトヲ得可シ但シ其猶豫ノ期限ヲ許ルコトノ言渡ニ
ハ裁判所吟味ノ期日ヲ定ム可シ且其言渡ハ之ヲ寫取リ送達スルコ
ト及ハス○其猶豫ヲ許ルコト又ハ許ルサ、ル言渡ハ之ヲ控訴スルコト